

（昭和二十年・二十一年）

終戦時ニ於ケル重要文書及指令・覚書

（一般的及官廳機構ニ関スルモノ）

後

厚生大臣官制及官廳機構ニ関スルモノ

目次

一	「ボツダム」米英支三國宣言	一
二	カイロ宣言	二
三	詔書	二
四	降伏文書	二
五	一般命令第一號	四
六	指令第一號	六
七	指令第二號	六
八	指令第三號	六
九	S C A P I N 四七(指令第三號)ノ修正ニ關スル件(三五二五)	一六
十	機構ニ關スル報告ノ件(二〇九一九)	一七
十一	機構ニ關スル報告ノ件(二〇二一七)	一七
十二	政治的民事的宗教的自由ニ對スル制限ノ撤廃ニ關スル件(二〇四四)	一七
十三	十月四日付自白ニ對スル制限撤廃ニ關スル從司令官覽書(二〇四)	一九
十四	軍事保護院ニ關スル件	一九
十五	昭和二十年十一月十三日付「軍事保護院」指令ニ關スル一般適用ノ件(三三九)	二〇
十六	國家神道神社神道ニ對スル政府ノ保証ノ援保全統制及公布ノ廢止(三三五)	二〇
十七	政黨政治結社協會及共ニ他ノ團體ノ廢止ノ件(三三四)	二〇
十八	公務従事ニ適セザル者ノ公職ヨリノ除去ニ關スル件(三三三)	二〇
十九	日本ヲ侵レル一定地域ニ於ケル行政廢止ノ停止ニ關スル件(三三二)	二〇
二十	日本ヲ侵レル一定地域ニ於ケル行政廢止ノ停止ニ關スル件(三三二)	二〇
二十一	日本市鎮政府ノ保護及厚生行政廢止ニ關スル件(三三二)	二〇

ホツダム米兵夫三國宣言

(一九四五年七月二十六日ソビエト連邦政府)

吾等合衆國大統領、中華民国政府主席、
及ソグレートブリテン連合王国首相大臣ハ
吾等ノ政府ノ同盟ヲ代表シテ議シ、二日本
皇ニ対シテ今迄ノ戦争ヲ終結スルノ機会ヲ
與フルコトニ意思一致セリ

一、合衆國、英帝國及中華民国ノ巨大ナル
陸、海、空軍ハ西方ヨリ自國ノ陸軍及空
軍ニ依リ増強ヲ受テ日本國ニ對シテ
最後の打撃ヲ加フルノ態勢ヲ整ヘテ石
原等ノ日本國ヲ抵抗ヲ終止スルニ至ル
迄固ク對シテ戦争ヲ遂行スルノ一切ノ精
力及決意ニ依リ支持セラレ且鼓舞セラ
レラルモノナリ

メテ明白ニ示スモノナリ現在日本國ニ對シテ
善結ンノツキカハ抵抗スルコトナシスレニ
對シテ速ニラレタル場合ニ於テ合衆國、ドイツ
レ國ハ民ノ土地、産業及生活機軸ヲ必然的
ニ荒廢ニ導マンノ力ヲ比シ測リ知レザ
ル程ニ強大ナルモノナリ吾等ノ決意ニ支
持セラルル吾等ノ軍力ノ高潔、或ハ
日本國皇族ノ不可侵完全ナル境ヲ賣味
スハテ入河橋必熱的ニ日本國本土ノ完全ナ
ク破壊ヲ意味スベシ

二、吾等ノ條件ハ左ノ如シ

一、日本帝國ノ主權ハ東洋ノ平和ヲ維持スル
ニ必要ナル程度ニ限ラレシメテ之ヲ行使スル
ノ權限ヲ失フコトナラズ

三、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

四、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

五、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

六、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

七、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

八、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

九、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十一、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十二、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十三、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十四、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十五、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十六、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十七、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十八、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

十九、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十一、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十二、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十三、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十四、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十五、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十六、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十七、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十八、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

二十九、吾等ハ日本國ノ領土ヲ維持スル

可ナルベシ日本國ハ將來世界貿易關係ヘ
ノ參加ヲ許サルベシ
十二、前記諸目的ヲ達成セラレ且日本國國民
ノ自由ニ表明セル意思ニ從ヒ平和的傾向
ヲ有シ且責任ヲレ政府ガ擔立セラルルニ
於テハ聯合國ノ占領軍ハ直ニ日本國ヨリ
撤收セラルベシ

十三、吾等ハ日本國政府ガ直ニ全日本國軍隊
ノ無條件降伏ヲ宣言シ且右行動ニ於ケル
同政府ノ誠意ニ付適当且充分ナル保障ヲ
提供センコトヲ同政府ニ對シ要求ス
右以外ノ日本國ノ懸案ハ迅速且完全ナル
解決アルノミトス

カイロ宣言

(千九百四十三年十一月二十七日)
トローズヴェルト大統領、蒋介石大元帥
及チャーチル総理大臣ハ各領ノ軍事及

外交顧問ト共ニ比コアフリカニ於テ會議
ヲ終了シ左ノ一般的聲明ヲ發表セラレタリ

「各軍事使節ハ日本國ニ對スル將來ノ軍
事行動ヲ協定セリ
三大同盟國ハ海路、陸路及空路ニ依リ共
ノ野蠻ナル敵國ニ對シ假借ナキ報復ヲ加
フルノ決意ヲ表明セリ右報復ハ既ニ増大
シツツアリ
三大同盟國ハ日本國ノ侵略ヲ制止シ且之
ヲ罰スル爲メ今次ノ戰爭ヲ爲シツツアルモ
ノナリ右同盟國ハ自國ノ爲ニ何等ノ利得
ヲモ欲ススレモ、非ズ又領土擴張ノ何
等ノ念ヲモ有スレモ、非ズ
右同盟國ノ目的ハ日本國ヨリ千九百十四
年ノ第一次世界戰爭ノ開始以後ニ於テ日
本國ガ奪取シスハ占領シタル太平洋ニ於
ケレ一切ノ島嶼ヲ利奪スルコト也。獨逸
台灣及澎湖島ノ如キ日本國ガ膏國人ヨリ

一、盜賊シタル一切ノ地域ヲ中華民國ニ返還
スルコトニ在リ日本國ハ又暴力及貪慾ニ
依リ日本國ガ所屬シタル他ノ一切ノ地域
ヨリ驅逐セラルベシ
前記三大國ハ朝鮮ノ人民ノ被擄狀態ニ留
意シ其テ朝鮮ヲ自由且獨立トモノタラシ
ムルノ決意ヲ有ス
右ノ目的ヲ以テ右三同盟國ハ同盟諸國中
日本國ト交戦中ナル諸國ト協調シ日本國
ノ無條件降伏ヲ齎スニ當テハ重要大臣長
期ノ行動ヲ施行スベシ

詔書

朕ハ昭和二十年七月二十六日米、英、支各
國政府ノ首班ガ「ポツダム」ニ於テ簽シ後
ニ蘇聯邦ガ參加シタル宣言ノ場タル諸條項

ヲ收諾シ帝國政府及大本營ニ對シ聯合國最
高司令官カ提示シタル降伏文書ニ依リ代リ
署名シ且聯合國最高司令官ノ指示ニ基キ陸
海軍ニ對スル一般命令ヲ發スヘキコトヲ命
ジテ朕ハ朕カ臣民ニ對シ敵對行為ヲ違
ニ帝國政府及大本營ノ發スル一般命令ヲ誠
實ニ履行セムコトヲ命ス

昭和二十一年九月五日
內閣總理大臣
各國務大臣

降伏文書

下名ハ茲ニ合衆國、中華民國及ソグレート
ブリタニエ國ノ政府ノ首班ガ千九百四十五

軍ニ付ニ十六日ヨリノドムレニ於テ登シ後
 一ソソクイエトシ社々主義共和國併得ガ奉
 命シタル宣言 條項ノヨリ本國天皇 日本國
 政府及日本帝國大本營ノ命ニ依リ且之ニ代
 リ收領ス。右四國ハ以下ノヲ併合國ト稱ス。
 下名ハ茲ニ日本帝國大本營ニ付レノ任達
 ニ在リテ國ハズ一切ノ日本國軍隊又日本國
 支配下ニ在ル一切ノ軍隊ノ併合國ニ付ノ
 下名ハ茲ニ本國ノ任達ニ在リテ國ハズ一切
 ノ日本國軍隊又日本國任達ニ付シ蘇州府及
 之ヲ置ニ終止スレコト 一切ノ船舶 航運機
 此ニ併合國及非軍用財産ヲ併存シ之ガ保護ノ
 防止スルコト、又併合國政府ニ付テス。又
 ノ併合國ニ付テ 日本國政府ノ諸條項ニ付
 下名ハ茲ニ日本帝國大本營ヲ付レノ任達ニ
 在リテ國ハズ一切ノ日本國軍隊又日本國ノ
 併合國ニ付テス。

支配下ニ在ル一切ノ軍隊ノ指揮官ニ付シ同
 多ク及ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ガ兵隊件
 ニ降伏スベキ旨ノ命令ヲ直ニ發スルコトヲ
 命ス。
 下名ハ茲ニ一切ノ官廳 陸軍及海軍ノ職員
 一併シ併合國最高司令官ガ本任伏望ノ為
 命シテリト認メテ官ヲ登シ又ハ其ノ委任ニ
 基テ之ヲ行ハル一切ノ所官 命令及指示ヲ
 遵テ之ヲ履行スルコトヲ命シ茲ニ右職
 員ガ併合國最高司令官ニ依リ又ハ其ノ委任
 ニ基テ之ヲ行ハル一切ノ所官ニ付テ各官ノ地
 位ニ當リ且引續キ各自ノ非戰斷的任務ヲ行
 ノコトヲ命ス。
 下名ハ茲ニ本國ノ宣言ノ條項ヲ讀味
 ニ履行スレコトニ付 右宣言ヲ實施スル為
 併合國最高司令官又ハ其ノ他特定ノ併合國代
 表者ガ要求スルコトヲアルベキ一切ノ命令ヲ
 發シ且此ル一切ノ條項ヲ執ルコトヲ天官ニ

日本國政府及兵ノ叛亂者ノ命ニ付ス。
 下名ハ茲ニ日本帝國政府及日本帝國大本營
 ニ付テ且日本國ノ支配下ニ在リテ一切ノ併
 合國ノ軍隊及非軍用財産ヲ併存シ之ガ保護ノ
 防止スルコト、又併合國政府ニ付テス。又
 ノ併合國ニ付テ 日本國政府ノ諸條項ニ付
 下名ハ茲ニ日本帝國大本營ヲ付レノ任達ニ
 在リテ國ハズ一切ノ日本國軍隊又日本國ノ
 併合國ニ付テス。
 天皇ニ付テ本國政府ノ國家條約ノ權限ハ本降
 伏後ヨリ失効スル為宣言ニ付テ且指置テ執
 行命令發シテ命令ヲ行ハル下ニ置カレレ
 ルコトヲ命ス。
 一千九百四十五年九月二日午前九時四十分日
 本國政府トシテ署名ス。
 八日本帝國天皇陛下ヲ日本國政府ノ命
 ニ依リ且兵ノ命ニ於テ

一千九百四十五年九月二日午前九時八分日本
 國政府トシテ署名ス。中華民國、聯合
 王國及ソソクイエトシ社々主義共和國併
 得ノ為ニ付、此ニ日本國ト戰爭狀態ニ在リ他ノ
 併合國國家ノ利益ノ為ニ付テス。
 併合國最高司令官 ダグラス マッカーサー
 中華民國代表者 シーダブリューニエニツ
 聯合王國代表者 ブルース フレーダー
 ソソクイエトシ社々主義共和
 國代表者 クスマエヌチエレイヤンコ
 代表者 テイ、ユ、フ、レ、
 カナダ代表者 エレ、ノ、ス、グ、レ、
 フランス代表者 シ、ア、ウ、ク、レ、ク、
 オランダ代表者 エ、ル、フ、ハ、ル、フ、
 ニ、エ、ジ、ラ、ン、代表者 エ、ス、エ、ム、イ、

一 般 命 令 第 一 號

(陸海軍) (指令第一號)

一 帝國大本營ハ茲ニ勅命ニ依リ五勅命ニ基
ク一切ノ日本國軍隊ニ聯合最高司令官
ニ付スル降伏ノ條件トシテ日本國軍隊
以外ニ在ル一切ノ指揮官ニ付シテ其ノ指揮
下ニ在ル日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ
在ル軍艦ヲシテ敵對行爲ノ有ラズニテ
ノ底意ヲ指テ降伏位置ニ留リ且テ其ノ
ノレズハ聯合最高司令官ニ依リ邊ヲ指
示セラルルコトアルベキ合衆國 中華民
國 聯合王國及ソヴイエット社會主
義共和黨聯邦ノ名ニ於テ行務スル各指揮
官ニ付シテ降伏條件ヲ爲サシムベキコト
ノ旨ニ指示セラレクニ指揮官スルベキノ標
本シタル代名者ニ對シテハ即ち是等ノ旨
ニ付シテ但シ新舊ノ別ニハ無ク合衆國

海軍司令官ニ依リ是等ノ行ハレルコトアルベ
ク右諸將官又ハ代表者ノ命令ハ完全ニ即
時履行セラルベキモノトス

(一) 天師ハ滿洲ヲ降クニ台灣及北支那ナ
ル地ノ併領印度支那 在ル日本國ノ在
任指揮官並ニ一切ノ陸上 海上 航空
及補助部隊ハ降伏ニ依リ降伏スベシ
及降伏後ニ陸上 海上 航空 陸上 陸上
及一切ノ陸上 海上 航空 陸上 陸上
降伏スベシ
(二) アンドマン諸島 一ニハルレ
諸島 一ニハルレ 諸島 一ニハルレ
大東以東 諸島 一ニハルレ 諸島 一ニハルレ
コスマドラレ 諸島 一ニハルレ 諸島 一ニハルレ
ター諸島 一ニハルレ 諸島 一ニハルレ
コチニ 諸島 一ニハルレ 諸島 一ニハルレ

一 般 命 令 第 一 號

(陸海軍) (指令第一號)

一 帝國大本營ハ茲ニ勅命ニ依リ五勅命ニ基
ク一切ノ日本國軍隊ニ聯合最高司令官
ニ付スル降伏ノ條件トシテ日本國軍隊
以外ニ在ル一切ノ指揮官ニ付シテ其ノ指揮
下ニ在ル日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ
在ル軍艦ヲシテ敵對行爲ノ有ラズニテ
ノ底意ヲ指テ降伏位置ニ留リ且テ其ノ
ノレズハ聯合最高司令官ニ依リ邊ヲ指
示セラルルコトアルベキ合衆國 中華民
國 聯合王國及ソヴイエット社會主
義共和黨聯邦ノ名ニ於テ行務スル各指揮
官ニ付シテ降伏條件ヲ爲サシムベキコト
ノ旨ニ指示セラレクニ指揮官スルベキノ標
本シタル代名者ニ對シテハ即ち是等ノ旨
ニ付シテ但シ新舊ノ別ニハ無ク合衆國

一 般 命 令 第 一 號

(陸海軍) (指令第一號)

一 帝國大本營ハ茲ニ勅命ニ依リ五勅命ニ基
ク一切ノ日本國軍隊ニ聯合最高司令官
ニ付スル降伏ノ條件トシテ日本國軍隊
以外ニ在ル一切ノ指揮官ニ付シテ其ノ指揮
下ニ在ル日本國軍隊及日本國ノ支配下ニ
在ル軍艦ヲシテ敵對行爲ノ有ラズニテ
ノ底意ヲ指テ降伏位置ニ留リ且テ其ノ
ノレズハ聯合最高司令官ニ依リ邊ヲ指
示セラルルコトアルベキ合衆國 中華民
國 聯合王國及ソヴイエット社會主
義共和黨聯邦ノ名ニ於テ行務スル各指揮
官ニ付シテ降伏條件ヲ爲サシムベキコト
ノ旨ニ指示セラレクニ指揮官スルベキノ標
本シタル代名者ニ對シテハ即ち是等ノ旨
ニ付シテ但シ新舊ノ別ニハ無ク合衆國

シテ良好ナル状態ニ於テ引渡スベキコトヲ命ズ

進ヲ指示アレ進日本領本土内ニ在ル日本國警察機關ハ本武隊解除規定ノ適用ヲ受ルルモノトス警察機關ハ其ノ部署ニ留ルモノトシ法及秩序ノ維持ニ付テハ責任ニ任スベシ右警察機關ノ人員及武裝ハ規定ニテルモノトス

三、日本國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シテ命令受領ノ後進海ナク日本國及日本領ノ支隊下ニ在ル一切ノ地域ニ於ケル左ノ諸点ニ關スレ完全ナル情報ヲ提供スベシ
(イ) 一切ノ陸上、海上、航空及防空部隊ノ位置及將兵ノ數ヲ示ス
(ロ) 一切ノ陸軍、海軍及空軍用航空機ノ數、種類、位置及其ノ状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表

ハ、日本國及日本領ノ支隊スル一切ノ

一、防備地域ヲ含ム一切ノ軍事施設又進進物ノ位置及説明

(ト) 新設機關ノ存廢及撤却前者ノ一切ノ撤却所及他ノ撤却所ノ位置
二、日本國及日本領航空所管當局ハ一切ノ日本國陸軍、海軍及空軍用航空機ガ進テ其ノ修理、新シ製造下ニ進陸上、海上又ハ艦上ニ在ルコトヲ保障スルモノトス
三、日本國及日本領ノ支隊スル一切ノ空

四、日本國及日本領ノ支隊スル一切ノ空軍ノ施設及航空機ハ聯合國最高司令官ノ指示ニ依リテ之ヲ毀損スルコトナク保全シ且移動ヲ企圖セザルモノトス、航海中ノ船舶ニ於テハ直ニ一切ノ種類ノ爆撃機ヲ兼容シテ海中ニ抛棄スルモノトス航海中ニ非ザル船舶ニ於テハ直ニ一切ノ種類ノ爆撃機ヲ沿岸ノ安全トシ野戰所ニ移動スルモノトス

五、責任ナル日本國及日本領ノ支隊下ニ在

水上及潜水海軍艦艇ニ關シテ海軍艦艇ニシテ就役中ノモノ又ハ就役中ニ非サレドモ及進進中ノモノノ位置、状態又運行ヲ示ス表

(三) 日本國ノ及日本領ノ支隊スル一切ノ陸軍、海軍、空軍用航空機ノ種類、數、位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表
(ハ) 飛行場、水上機場、射撃場、海軍基地、物資貯藏所、施設及設備、陸上及潜水防衛施設、要塞兵、砲

海上又ハ空中ノ行動ニ付スル陸軍、海軍、空軍用航空機ノ位置及状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表
(イ) 一切ノ陸上、海上、海上及空中ノ行動ニ付スル陸軍、海軍、空軍用航空機ノ位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表
(ロ) 陸上、海上、海上及空中ノ行動ニ付スル陸軍、海軍、空軍用航空機ノ位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表

一、日本國、日本領、支隊、海軍、空軍用航空機ノ位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表

(イ) 一切ノ日本國、日本領、支隊、海軍、空軍用航空機ノ位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表
(ロ) 陸上、海上、海上及空中ノ行動ニ付スル陸軍、海軍、空軍用航空機ノ位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表
(ハ) 飛行場、水上機場、射撃場、海軍基地、物資貯藏所、施設及設備、陸上及潜水防衛施設、要塞兵、砲

六、責任ナル日本國及日本領ノ支隊下ニ在ル陸軍、海軍、空軍用航空機ノ種類、數、位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表
(イ) 一切ノ日本國、日本領、支隊、海軍、空軍用航空機ノ位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表
(ロ) 陸上、海上、海上及空中ノ行動ニ付スル陸軍、海軍、空軍用航空機ノ位置、状態ニ關シテ完全ナル情報ヲ供フル表

余今此四項ニ付一應之スルモノトシテ之ヲ命ズ

(四) 一切ノ陸上、水上及空中運輸及通信ノ施設及装置

(六) 飛行場、水上機基地、防空防備施設、港及海軍基地、物資貯蔵所、施設及設備ノ陸上及沿岸防備施設、要塞其ノ他ノ防備地域ヲ含ム一切ノ軍事施設及建造物並ニ一切ノ此等ノ防備施設、軍事施設及建造物ノ設計及図面

(三) 一切ノ軍事用具並ニ軍事機械又ハ軍事機械類ガ共、運管ニ關シ規ニ使用シ又ハ使用セントスル他ノ資材及資産ヲ製造スル為又ハ此等ノ製造若ハ使用ヲ容易ナラシムル為計画セラレ又ハ之ニ充當セラレタル一切ノ工場、製造場、工作場、研究所、実験所、試験所、板衝上ノ要目(データ)、持許、設計、図面及説明

七、日本國大本營ハ聯合國最高司令部ニ對シ

虜及被擄者中ノ先任時被又ハ指定セラルル代表者ヲ引渡シ其ノ指下ニ入ラシムルニス

(八) 聯合國最高司令部ノ指示スル所ニ從ヒ虜及被擄者ハ聯合國官憲ガ之ヲ引取り得べき完全ナル場所ニ輸送セラレモトス

(三) 日本國大本營ハ聯合國最高司令部ニ對シ本命令受領ノ後運管ナク一切ノ聯合國ノ虜及被擄者ノ所在ヲ示ス完全ナル表ヲ提供スルニトス

十一、日本國、及日本國ノ支配下ニ在ル一軍及行政當局ハ聯合國軍隊ノ日本國及日本國ノ支配スル地域ノ占領ヲ援助スベシ

十二、日本國大本營及日本國當該官憲ハ聯合國官領軍指揮官ノ指示アレ際一級日本國民ノ所有スレ一切ノ武器ヲ蒐集シ巨引渡ス為ノ準備ヲ為シ置ノバン

本命令受領ノ後運管ナク前記第六項(イ)、(ロ)及(三)ニ掲グル一切ノ項目ニ關シ其ノ數量、型式及位置ヲ示ス完全ナル表ヲ提供スベシ

八、一切ノ兵器、彈藥及軍事用具ノ製造及分配ハ直ニ之ヲ禁止スルニトス

九、日本國、又ハ日本國ノ支配下ニ在ル聯合國ノ虜及被擄者ニ關シテハ

(イ) 一切ノ聯合國、虜及被擄者ノ安全又福祉ハ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ保持スルニトシ右ハ聯合國最高司令部ガ共ノ責任ヲ引継グニ至ル迄適當ナル食糧、住居、被服及医療ヲ確保スルニ必要ナル管理及補給ノ業務ヲ含ムニトス

(ロ) 聯合國、虜及被擄者ノ收容所其ノ他ノ抑留所ハ夫々其ノ設備、貯蔵品、記録、武器及彈藥ト共ニ直ニ之ヲ右件

十二、日本國、及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政官憲並ニ私人ハ本命令及爾後聯合國最高司令部又ハ他ノ聯合國軍官憲ノ指示一切ノ指示ニ誠實迅速ニ服スルニトス

本命令若ハ爾後ノ命令ノ規定ヲ遵守スルニ運管アリ又ハ之ヲ遵守セザルトキ及聯合國最高司令部ガ聯合國ニ於テ有テ行ハル行爲アルトキハ聯合國軍官憲及日本政府ハ嚴重且迅速ナル制裁ヲ加フルニトス

十三、日本國大本營ハ聯合國最高司令部ニ對シ前記條ニ項、第七項及第九項(三)ニ遵守セラルル情報ヲ提供シ得べき最モ速ナル日特ヲ直ニ通報スルニトス

聯合國最高司令部令

一九四五年九月三日

第一節 總則

一、日本帝國政府及日本帝國大本營ハ茲ニ本指令ニ揚グニ聯合國最高司令官ノ要求ヲ各場合ニ從ヒテ遵守シ又ハ之ガ遵守ヲ確保スルコトヲ指示シラレ
ロ 本指令ニ從ヒテ之ニ基キ必要ナリト認メラレルニ至ルコトアルニヤ日本帝國政府及日本帝國大本營ノ發行ノ命令ハ日本國本土並ニ對馬島、北緯三十八度以南ノ朝鮮及統帥諸島ヲ含ム陸海空軍艦隊ニ在ル日本國、及日本國ノ支配下ニ在ル軍隊並ニ當該行政機關ニ適用セラレ
ルベシ

ハ 本指令ニ依リ課セラレタル要求ハ其ノ適用範圍内ニ於ケル指定目的ノ實現ニ當テ聯合國最高司令官ノ占領軍ノ迅速且秩序アル駐ヲ容易ナラシム且確保スルコト並ニ降伏條件ノ秩序アル遵守ヲ確保

最高司令官ハ本指令ノ一節ト看做サレテキ附屬書「甲」トシテ地圖ニ詳細ニ示サレ
ル日本國本土並ニ北緯三十八度以南ノ朝鮮ノ諸區域ニ於ケル占領軍指揮官ヲ指名セリ石指揮官ニ依リ若バ兵ノ委任ニ基キ發セラレル一切ノ命令及訓令ハ示サレタル區域内ニ於テ、聯合國最高司令官ノ權限ニ依リクルモノト看做サレベシ
四 聯合國最高司令官ノ權限ニ依リ發セラレ一切ノ布告、命令及訓令ノ正文ハ英語ニ發シ、日本語ノ翻訳文ニ發シ、相違發生スル場合ニ於テハ英語ノ本文ニ據ルモノトス、發シタル河カノ訓令ノ意義ニ關シ疑義發生スルトキハ發令官ニテノ解釋ヲ以テ最終的ノモノトス
五 日本國軍隊ノ一切ノ指揮、部隊スハ分隊ノ指揮官、聯合軍代表者ニ依リ發セラレ且右日本國ノ指揮官ノ責任ノ範圍内ニ

スルニ必要ナリト認メラレル日本國軍隊ノ武裝解除及復員ニ對シ一定ノ範圍ヲ設クルコトヲ目的トス
ニ、追加要求事項ハ前記目的ヲ達成スル為ニ必要ナリト認メラレルニ從ヒ時々之ヲ課スルモノトス

一、本指令ニ使用セラレタル「日本國軍隊」ナル語ハ一切ノ日本國、及日本國ノ支配下ニ在ル陸軍及海軍ヲ指シ、空軍、補助機關及軍事事務部並ニ前記ノ何レカニ依リ雇傭セラレ又ハ之ニ附屬スレ一切ノ者ヲ含ム但シ普通警察ヲ含マザレベシ
ロ 本指令ニ使用セラレタル「聯合軍代表者」ナル語ハ占領軍指揮官スハ聯合軍最高指揮官ノ委任ニ基キ行動スル下級指揮官、參謀將校若ハ機關ヲ指シ、聯合國最高司令官兼聯合國太平洋陸軍

於テ適用セラレル命令、迅速且完全ナレ遂行ニ付何レノ責任アルモノト聯合國最高司令官又ハ當該占領軍指揮官ニ依リ認メラレベシ
六、別段ノ明示ナキ限り本指令ニ揚ケル特別制限ハ日本帝國大本營ニ依リ本指令ノ受領ノ時ヨリ起算セラレ要求セラルル報告ハ英語ニ依リ提出セラレルモノトス
第二節 日本國軍隊

一、日本國大本營ハ附屬書「甲」トシテ地圖ニ示サレル所ニ從ヒ管轄ノ邊界ヲ日本國第一總軍ニ付テハ、聯合軍第八軍ト符合セシムル様又日本國第一總軍ニ付テハ、聯合軍第六軍ニ符合セシムル様邊界ナク調整スルモノトス
二、日本國第一總軍指揮官ハ、聯合軍第八軍ノ責任區域ヘノ占領軍ノ進入ニ所スル命令ヲ俟ツ為東京區域ニ在ル聯合國

一、造日本國軍隊ノ維持及經理ヲ繼
増シ責任ヲ有シ且爾各國代表ニ
對シ責任ヲ解除セラルル迄一切ノ
記號及文書ノ維持及保存ノ責任ヲ
有ス

二、日本國大正曆ハ左ノ訓令ヲ発
スルニシテ

- 一、シ、學業ハ遲滞ナク成就セラ
ルヘシ
- 二、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且

三、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且

四、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且

五、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且

六、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且
一、シ、一切ノ港及泊地ニ於ケル所
ノ一切ノ防備ハ爾國ノ權ニシテ且

十一 一切ノ機電 機雷及本指令ノ閣
 上ル地城ノ何處ニアルヲ向ハズ陸
 害物ヲ明瞭ニ表示スルノ措置ヲ直
 二執ルベシ
 十三 日本帝國大本營ハ一切ノ掃海艇
 ガ所定ノ武裝解除ノ方法ヲ実行シ
 所專ノ燃料ヲ補給シ掃海專業ニ役
 立テ得ル如ク保存スベシ日本國
 及朝鮮ト域ニ於ケル水中機雷ハ併
 合國最高司令官ノ所定ノ海軍代表
 ニ依リ指示セララル所ニ從ヒ掃海
 エラルベシ
 十四 日本國一切ノ地雷及破獲用
 炸藥 隱匿セラレタル爆發物 穿
 ヲ合ム其ノ他ノ障害物ヲ安全狀態
 ト爲シ出未得ル限リ速カニ之ヲ除
 去スベシ 右作業ノ完了迄ハ一切
 ノ安全通路ハ明瞭ニ表示セラレ且
 南カレ在ルベシ
 十五 日本帝國政府及日本帝國大本營
 ハ左ノ事項ヲ保證スルモノトス
 小 併合國最高司令官ノ要求ナル
 場合次ノ事項ニ関スル完全ナル

命令ニ對シ遲滞ナク左記情報ヲ提
 供スル報告ヲ提出スベシ
 一 日本國軍隊ノ健康ニ関スル詳
 細ナル記述
 二 日本國軍隊ニ依リ管理セラ
 ル野戰又固定病院ノ所在地表
 右ハ各病院ノ位置及收容能力
 台數ヲ示スモノトス
 三 日本帝國政府ハ一切ノ市町村ノ
 名稱ヲ之等都市ヲ結ブ幹線道路ノ
 入口ノ兩側並ニ停車場歩廊ニ英字
 ヲ以テ掲グル事 右ニ使用スル英
 字ハシテトモ六インチ以上ナル事
 ヲ要シ名稱ヲ英字ニテ記ス場合ハ
 修正ハホン式ヨリマ字ニ依ルモノ
 トス
 第三部 併合國俘虜及
 被抑留者
 一 茲ニ使用セララル俘虜ナル語
 ハ日本ノ收容下ニ在リ左ノ各項
 ニ掲グル總テノ人員ヲ含ムモノ
 ト解セラルベシ
 (一) 併合諸國ノ何レカノ軍隊ノ
 隊員又ハ隨伴者若ハ從業員夕

十六
 (一) 情報ヲ提供スルコト
 放電氣通設ヲ含ム一切ノ對外國
 朝鮮 北海道 本州 四國 九州
 諸島ノ主要地氣通設一切ノ島
 長距離無線電氣通設一切ノ島
 本指シノ外及對内電氣通設
 一切ノ無線電氣通設
 及無線電氣通設ヲ含ム其ノ電
 維持セラレ現任人員陸軍
 民向タルヲ向ハズ陸軍
 ヲ繼續セラルベシ
 八 併合國最高司令官ノ代表者ノ
 要 求アル場合上記ノ檢閲及監督ヲシ
 可 能ナラシムルベシ
 九 併合國政府ハ最高司令官ノ受
 信 爲 閣 上 級 代 表 者 官 令 部 通
 信 部 長 呼 出 最 高 司 令 官 令 部 通
 日 本 帝 國 大 本 營 八 併 合 國 最 高 司

ル者若ハタリシ者
 併合國ノ軍隊ノ一員トシテ併
 合國ノ爲ニ勤務中日本人ニ依
 リ逮捕セラレ一九二九年七月
 二十七日ノジエニ條約俘虜
 二箇スルモノノ規定ニ從ヒ俘
 虜トシテ扱ハル權利ヲ有ス
 ルモノノ居ラサリシコトハ關係
 ナシ
 (三) 併合諸國ノ何レカノ商船隊
 ノ乗員タルカ若ハ乗員タリシ
 者又ハ之ニ從業スルモノ若ハ
 從事シタル者
 (四) 併合諸國ノ何レカノ商船隊
 乗員タルカ若ハ乗員タリシ
 者又ハ之ニ從業スルモノ若ハ
 從事シタル者
 一 日本ノ收容下ニ置カレタル
 俘虜ナル語ハ皆テ俘虜トシ
 テ日本ノ收容下ニ置カレタル
 俘虜ナル語ハ皆テ俘虜トシ
 産 備 件 於 承 諾 シ タ ル 者 分
 ヲ 承 諾 シ タ ル 者 分
 合 マズ
 茲ニ使用セララル被抑留者ナ
 一 九 三 七 年 七 月 十 日 當 時 ノ 日

本帝國ノ臣民タラザルモノニシテ
 軍人タルノ身分ヲ有セザルモノ
 ノ終テラ含ムモノト解セラルベシ
 ハ 茲ニ使用セララルル停房及被抑
 留者收容所、監獄、船舶、宿舍、
 病院其他停房或ハ被抑留者ノ監
 禁又ハ抑留ノ他ノ場所ヲ含ムモノ
 ノト解セラルベシ
 ニ 茲ニ使用セララルル收容所長ナ
 ル語ハ日本國軍隊若ハ其ノ補助
 隊ノ指揮官又ハ各看守長若ハ被
 抑留者ノ收容ノ責任ヲ負フ者ヲ含
 ムモノト解セラルベシ
 ハ 日本帝國政府及日本帝國大本營
 ハ所屬國最高司令官ニ對シテ末
 出セラレサル場合ニハ四十八時間
 内ニ左ノ諸情報ヲ提供スベシ
 一、各別ニ左ノ諸事項ヲ表示スル前
 記第一項ニ於テ定義セララルル
 停房及被抑留者收容所ノ表
 式及被抑留者收容所ノ表
 (2)(1) 眞近ノ著名ナル地理的地點

長ニ對シテ、諸訓令ヲ傳達スベシ
 一、停房及被抑留者收容所ノ表
 式及被抑留者收容所ノ表
 (2)(1) 眞近ノ著名ナル地理的地點
 ハ 日本ノ聯合國ニ對スル正式降伏
 一、一九四五年九月二日署名セ
 ラレタリ、聯合國最高司令官ニ任
 命セラレタリ、聯合國軍隊ハ可
 能ナル限リ速ニ日本本土及朝鮮
 ノ占領ヲ進メツツマリ、聯合國
 停房及被抑留者ノ救済及開放ハ
 可能ナル限リ速ニ達成セララルベ
 シ
 聯合國代表者(獲英)ノ到着ニ列ル
 迄本收容所並ニ設備、野品、記
 録、武器及彈藥ハ先任停房又ハ
 指定セラレタル被抑留者ニ對シ
 引渡サルベシ此等ノ者ハ爾今補
 給及管理ノ業務ノ維持並ニ地方
 的状態ノ緩和ヲ爲ス收容所長ニ對
 シ指令ヲ與フベシ
 收容所長ハ先任停房又ハ指定セ

三、
 (1) 日本帝國政府及日本帝國大本
 營ハ本指示受領後利用可能ノ最
 速ナル方法ニ依リ各收容所
 (2) 眞近ノ著名ナル地理的地點
 (3) 度ノ關係ニ於ケル所在地
 (4) 度ノ關係ニ於ケル緯度及經
 度
 (5) 停房及被抑留者ノ總數該
 當ノ場合ニハ總數中ニ於ケ
 ル女子ノ數ヲ含ム
 (6) 眞近ノ鉄道停車場ノ地理
 的位置
 (7) 眞近ノ飛行場ノ名稱及地
 理的位置、廣ク並ニ滑走路
 ノ状態
 (8) 入院ヲ要スル停房又ハ被
 抑留者ノ概數
 (9) 各收容所ノ位置ガ正確ニ劃
 セラレタル百分ノ一ノ素圖
 (10) 軍數及糧數
 (11) 各收容所ノ位置ヲ正確ニ示
 ス停房及被抑留者收容所ノ所
 在スル各地區ノ十分分ノ一縮
 尺又ハ更ニ大ナル縮尺ノ素圖
 (12) 日本帝國政府及日本帝國大本
 營ハ本指示受領後利用可能ノ最
 速ナル方法ニ依リ各收容所

ラレタル被抑留者ニ對シテ其ノ
 指揮ヲ其ノ儘維持スルコトニ
 關シ責任ヲ有スベシ
 聯合國代表者ハ諸君ノ移轉及
 諸君ノ家ハ、究極的歸還ヲ準
 備スル爲メ本收容所ニ派遣セラ
 ルベシ
 收容所ノ完全ナル支配ヲ設
 備、貯品、管理及其他ノ記録、
 武器及彈藥ト共ニ先任停房又
 ハ被抑留者ニ引渡スコト、但
 シ先任停房又ハ被抑留者ニ依
 リ後ニ場ノ職務ヲ遂行スルモ
 容所日本官憲ガ使用スルモノ
 外トシテ指定セララルベシ物件
 ヲ除ク
 先任停房及指定セラレタル
 被抑留者ノ監督ノ下ニ左ノ諸
 項ヲ確保スル爲メ必要ナル管理
 及補給ノ業務(地方的ニ入手シ
 得ベキ政府及軍ノ貯藏品ノ微
 少ヲ含ム)ヲ行フコト
 (1) 日本國軍隊又ハ民間人ニ
 トリ地方的ニ可能ナル最高

限ニ相応スル食糧
凡テノ必要ナル医薬的補
給ト共ニ可能ナル最善ノ医
療
適當ナル住居、被服及浴
場設備

本指示ハ茲ニ掲ゲラレタル
諸責任ヲ履行スル為ニ必要ニ
シテ收容所ノ近隣ニ於テ入手
可能ナル政府及軍ノ補給品ヲ
徴発スルノ權限ヲ設定スルモ
ノトス

收容所ノ機構ヲ其ノ儘ニ保持
シ且先任俘虜又ハ被拘留者ニ
對シ收容所ノ全員ノ收容所ノ
管理記録ヲ作業名簿(roll)及
收容所ニ在リ又ハ在リタル各
俘虜及被拘留者ノ移送ノ入院
及病院ノ記録ニ關シ説明スル
コト

地方的ニ聯合國代表者(代表者)
ニ依リ指令セラレベキ俘虜及
被拘留者ノ補給シ又ハ地方政府
及需品ヲ補給シ又ハ地方政府

テ情報ヲ遺滞ナク聯合國最高司
令官ニ移送スベシ
第四部

一 資源

日本帝國政府ハ聯合國最高司令官
ノ委任ヲ受ケタル代表者又ハ各地
域ニ於ケル占領軍指揮官ノ指示ス
ル所ニ從ヒ聯合國占領軍ノ使用ニ
供スル為ニ要求セラレベキ一切ノ地
方資源ヲ聯合國占領軍ノ処分ニ
委スベシ

二 統制

日本帝國政府ハ各主要占領地域ニ
一ノ中央事務所及要求セラレ下
級事務所ヲ設置スベク該事務所
ノ主要職務ハ占領軍ノ要求スル地
域及施設ニ關スル情報ヲ提供シ且
要求ヲ受領スルニ在リ

三 石油

聯合國占領軍ニ對シ其ノ要求スル
石油製品ノ貯藏品及配給施設ヲ出
未得ル限り供給スル為ノ準備ヲ為

又ハ軍機關ヨリ之ヲ徵発シ且
行政的ノ諸準備ヲ完成スル準
備ヲ為スベキコト

先任俘虜又ハ被拘留者ノ監
督ノ下ニ日本帝國大本營ヲ通
ジ聯合國最高司令官ニ對シ次
ノ情報ヲ準備シ且送付スルコ

(1) 姓名、階級又ハ地位、國
籍、最近親家ノ宛名、年
齡、性及健康狀況ヲ示ス存
虜及被拘留者現在員全部ノ
完全ナル表(複數)

(2) 姓名、階級又ハ地位、國
籍、最近親家ノ宛名、年
齡、性及健康狀況ヲ示ス存
亡又ハ移送ノ日付及行先又
ハ死亡セル者ノ場合ハ埋葬
ノ場所ヲ示セル死亡者若ハ
移送俘虜又ハ被拘留者ニ關
スル利用シ得ベキ記録ヨリ

日本帝國大本營ハ前記第三項
ノ拔萃

收容所長ヨリ提出セラレタル凡

スベシ 具体的要求ハ追テ提示
セラレベシ

四 勞務

(4) 勞務供給
日本帝國政府ハ各主要占領地
域毎ニ設置セラレタル中央政府
機關ヲ通ジ聯合國最高司令官
又ハ各地域ニ於ケル占領軍指
揮官ノ指示スル量、熟練度、指
揮官ノ指示スル場所ニ適合ス
ル勞務ヲ供給スベシ、勞務供
給事務所ハ統計及生産ノ最高
能率ヲ確保スル為ニ勞務者及
沖仲仕組ノ如キ勞務者群ノ統
一ヲ出未得ル限リ保持スベシ

(3) 日本帝國政府ニ依リ占領軍ニ
提供セラレタル必要ナル勞務ハ
下記ヲ含ムモノトス

(1) 一般勞務
(2) 技術的勞働及半熟練勞働
(3) 荷場及仲仕
(4) 道路、鐵道、修理、埠頭其ノ他

(5) 其、國占領軍用ノ建造ノ住宅及
日本帝國政府ハ占領軍ノ爲適當
ニシテ且占領軍ノ要求スル一
切ノ建築物ヲ提供スル準備ヲ爲
スベシ右要求ハ次ノ一般ノ項
目ヲ含ムモノトス事務所、病
院、宿舎、倉庫及貯蔵所、店鋪
運送通信施設、具體的ニ要求ハ
テ提示セラレベシ建築ノ水道
未得ル限リ耐火建築ニシテ水道
下水、電力、暖房ノ設備ヲ有シ
且如何ナル天候ニ於テモ使用シ
得ル道路ニ接スルモノタルベシ
飛行場
特定飛行場ハ占領軍ノ要求ニ應
ジ其ノ利用ニ供セラレベシ滑
走路、航空機分散地帯及前庭ヨ
リ日本機ヲ除去シ且滑走路ハ要
求ニ応ジ最小限五〇〇呎ヲ下
ラザル最大ノ補着陸地ヲ有ス
貨物ニ改良セラレベシ乗客及
貨物ニ適スル設備、經理、運用

又通信ノ施設ハ各飛行場ニ於テ
利用シ得ル如クスベシ一切ノ
日本航空機及装置ハ追テ指示ア
ル迄保存セラルベシ使用可能
ナル一切ノ種類ノ運送及維持ノ
装置及設備ノ完全ナル目録ヲ種
別及地域別ニ準備シ要求ニ應
ジ聯合國代表ニ提示スベシ
第五部 雜則
日本帝國大本營ハ直ニ東京地
域ニ於テ無線電送寫眞及普通寫
眞實驗室ヲ其ノ附屬設備及作業
員全部ト共ニ聯合國最高司令
部ニ通信部長ノ使用ノ爲提供ス
ルモノトス
日本帝國大本營ノ權限アル代表
者ハ聯合國最高司令官ノ代表
信部長ニ對シ其ノ使用ニ提供シ
得ベキ寫眞作業員、設備、使用
資材及未使用ノフィルム、印画、
蒐集物ニ關シ一切ノ情報ヲ四十
八時間以内ニ報告スルモノトス
此等ハ爾後要求ニ應ジ現實ニ提
供セラレルモノトス

三、氣象情報ノ蒐集、配布及記録
ニ從事スル軍用及非軍用ノ一切
ノ機關ハ追テ指示アル迄通常
ノ作業ヲ繼續スヘシ一切ノ
測候ノ設備ハ現狀ノ儘保存セ
ル切モノ設備ハ現狀ノ儘保存セ
ル官ニ關シトス測候施設ヲ列記
セル表ヲ遲滞ナク提出スルモノ
トス
右表ニ於テハ國際索引數字、地
理的位置、連繫、全數、調查、中
又ハ觀測ヲ記述スルモノトス
日本國政府ハ聯合國最高司令
官ノ命令ニ對シ遲滞ナク
左ノ現情ヲ提供スベシ
(4) 現情ヲ提供スベシ
機關及施設ノ表
シ、現在所及危險性並ニ右ニ對
シ、最近ノ報告ニ基テ医薬品及
他ノ衛生用品ノニ基テ医薬品及

(2) 位置及寢台能力ヲ記述セル
一、日本及他ノ軍用以外ノ病院ノ療養
ルノ公南音聲放送ノ即時中止セラ
ルモノトス
指令第一號附屬「ハ」指令第二號附
屬「ク」且其ノ一部ヲ成スモノトス
太平洋艦隊最高司令官ハ指令第一
二號第一二部第一項(二)ノ意味ニ於
ケル聯合國最高司令官ノ海軍代
表者ニ對シ最高司令官ノ代表者
最高司令官ノ代表者ニ對シ聯合國
平洋艦隊最高司令官ノ代表者ニ對
海軍連隊最高司令官ノ代表者ニ對
將校ハ日本帝國海軍令部ノ先任
長及代表者ト地方的且個人的連
絡ニ當ルモノトス
日本帝國大本營ハ日本帝國陸
軍ニ對スル指令第一號第一二部第

(一) 一般必需品ヲ取得スルニ際シ
 (二) 一般市民ハ福利ナル事ヲ確保スル
 (三) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ
 (四) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ
 (五) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ
 (六) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ
 (七) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ
 (八) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ
 (九) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ
 (十) 一般市民ニ對シテソノ生活ニ

五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

格ナリ最高標準ノ統制ヲ撤去スル予
 定ナリシモ前述ノ基キ同統制ハ尚存
 ル指令ニ送シテオクシタルアル
 續セシメテ送ラレタリタルアル
 コノ放送ニ與ヘテオクシタルアル
 手放送ニ與ヘテオクシタルアル
 方針ハ充分ニ説明セラルルコト
 放送ノ全文ヲ御生ノ手許ニ送付
 望ムルモノアリテ御生ノ手許ニ送付
 小生ハ貴方ノ御生ノ手許ニ送付
 シメテ御生ノ手許ニ送付
 尚進メテ御生ノ手許ニ送付
 待スルモノアリテ御生ノ手許ニ送付

八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

ハ各二月一日八月一日迄ニ聯
合國最高司令部ニ到着スル様十
サシムベシ
ハ左ノ項ヲ附加ス
八(三)項(五)事業ガ戰爭向ノ事
業方面ノ發展ヲ目サスモノニ非
ル限リ科學上技術上ノ知識ノ發
展ニ對スル調査授ハ八團體ニ
於テ十(三)項ノ條項ニ依ル體ニ
ハ(二)本項ノ指令ヲ實施スルニ
付(三)本國最高司令部ノ關係文
課ト日本政府ノ各機関ト直接交
渉ヲナス權限ヲ與フ

A G O 九一 M G 二十年九月十九日
機構ニ對スル報告ノ件
現情及ノ最高司令官ハ帝國政府ノ
機構及ノ得ル主要小分ニ關シ正確
ナル情報ヲ得ル爲メ次ノモノ現
機構員職能任務及ビ主要官吏
ノ名簿職名地位等ヲ明記セ
書面ヲ附スコト

政府ニ對シ政府ノ構成ニ關スル一
定ノ情報ヲ提供スベキ旨命令セリ
右覚書ニ居ラザリシ處日本政府
期日ヲ定メ居ラザリシ處日本政府
ノ構成ハ既ニ若干變更セラレ更ニ
新ナル變更計畫ヲ於テ居レリ
通最高司令官ニ於テ完全ナル
四五年九月一日以十一月一日迄
ノ間前記覚書及前記一月一日迄
タル政府ノ各部門ニ於テ行ハレタ
ル報告スベキヲ命ゼラルニ而シテ右
報告ハ本覚書受領後二十日以内ニ
提出セラルベシ
タル前記政府各部門ニ於テ右記サレ
キヲ命ゼラル一切變更ヲ報告スベ
キハ一月十五日以右報告ハ一月九
日ニ提出セラルベク右報告ハ其ノ
ニ行ハレタル一切變更ヲ包含ス
ルヲ要ス但シ一九四六年一月十

1. 帝國政府 内閣及ビソノ内
局 帝國政府 大臣及ビソノ屬ス
ル各局
口 會計検査院
ハ 行政裁判所
ニ 八十三縣並ニ京都 大阪 東
ト 四府各區
子 京都府 奈良府 和歌山府 徳島府
リ 特別組織ノ事務所又ハ茲ニ特
定セタル帝國政府ノ主要政策樹立
或ハ行政ノ機関
完成セル部門ヨリ遲滞ナク提出ノ
コト

A G O 九一 G S 二十年十月十七日
機構ニ對スル報告ノ件
附覚書 A G O 九一 M G 以テ日
本

五
年十一月一日以テ行ハレタル一切
ノ變更ヲ記載スルモトス
切ノ報告ハ英文ヲ以テ六部宛提出
セラルベシ 法律ヲ以テ六部宛提出
命令ノ文案ニシテ變更ヲ理解スル
上ニ重要ナルトキハ斯ル法令ノ英
文寫ヲ最高司令官ニ提出スベシ

政治的 民事的 二十年十月四日
自由ニ對スル制限ノ撤廃ニ
關スル件
及 日本帝國政府ハ政治的 民事的
及 宗教的自由ニ對スル制限並ニ人
種ノ差別待遇ヲ撤廃スルヲ理由ト
スル左記ノ事項ニ關スル一切ノ規
律 勅令 省令 命令及ビ規則

(1) シテ廢止シ其ノ效力ヲ直ニ停止セ
 ムルモノトス
 (2) 天皇、皇室又帝國政府ニ関
 スル自由ナル討論ヲ含ム思想
 宗教、集会及言論ノ自由ニ對
 スル制限ヲ設定又ハ之ヲ維持
 スルモノ
 (3) 情報ノ蒐集及ビ頒布ニ對ス
 ル制限ヲ設定又ハ之ヲ維持ス
 ルモノ
 (4) 法令ヲ條文又ハ其ノ適用ニ
 依リ人種、國籍、信仰又ハ政
 見ヲ理由トシテ特定ノ者ニ對
 シテ不平等ナル恩惠又ハ不利ヲ與
 フルモノ
 (5) 上記ノ各項ニ該當スル法規ハ
 左ノモノヲ含ム但シ左ノモノ
 ニ限ラレルコトナシ
 (6) 治安維持法(昭和十六年法律
 第五十四号、同年三月十日頃
 公布)

(1) 思想犯保護觀察法(昭和十一
 年法律第二十九号、同年五月
 二十九日頃公布)
 (2) 思想犯保護觀察法施行令(昭
 和十一年勅令第四百一十号、同
 年十一月十四日頃公布)
 (3) 保護觀察所官制(昭和十一年
 勅令第四百三十三号、同年十一
 月十四日頃公布)
 (4) 豫防拘禁手續令(司法省令
 第四百十九号、昭和十六年五月
 十四日頃公布)
 (5) 豫防拘禁處遇令(司法省令第
 三百三十号、昭和十六年五月十四
 日頃公布)
 (6) 國防保安法(昭和十六年法律
 第四十九号、同年三月七日頃
 公布)
 (7) 國防保安法施行令(昭和十六
 年勅令第五百四十二号、同年
 五月頃公布)

裏面白紙

(9) 辯護士指定規定(昭和十六年司法省令第四十七号、同年五月九日頃公布)

(10) 軍用資源秘密保護法(昭和十四年法律第二十五号、同年三月二十一日頃公布)

(11) 軍用資源秘密保護法施行令(昭和十四年勅令第四百十三号、同年六月二十四日頃公布)

(12) 軍用資源秘密保護法施行規則(昭和十四年陸海軍省令第三号、昭和十四年六月十六日頃公布)

(13) 軍機保護法(昭和十二年法律第七十二号、同年八月十七日頃公布)

(14) 軍機保護法施行規則(陸軍省令第五十九号、昭和十四年十二月十二日頃公布)

(15) 軍機保護法施行規則(陸軍省令第六十二号、昭和十六年二月九日頃公布)

(16) 宗敎團體法(昭和十四年法律第七十七号、同年四月八日頃公布)

正) 上記ノ法規ヲ修正、補足若ハ

スベキモノトス、本項ノ適用ヲ免ルモノハ左ニ列挙スルモノヲ含ム

(1) 一切ノ秘密警察機關ノ職務内ノ秘密警察ノ如キ出版、印刷、複製、集會、結社ノ取締、及思想言論ノ宗敎及集會ノ統制ニ任スル其ノ他ノ部局

(2) 出版、印刷、複製、集會、結社ノ取締、及思想言論ノ宗敎及集會ノ統制ニ任スル其ノ他ノ部局

(3) 特別高等警察部、大阪府其ノ他ノ都府縣ノ警察部、北海道廳警察部、及各省府縣ノ警察部、北海道廳警察部、及各省府縣ノ警察部、北海道廳警察部、及各省府縣ノ警察部

(4) 保護觀察、思想、言論、宗敎ノ保護觀察ノ統制ニ當ル司法省ノ保護觀察審査會及之ニ隸屬スル一切ノ保護觀察所

(5) 内務大臣、内務省警察局長、警視總監、大阪府警察局長、他ノ都府縣警察署長、北海道廳警察部長、各府縣警察部長、各都市、北海道、長官、特別高等警察課ノ全員、及各省府縣ノ特別高等警察課ノ全員

(1) 上記第一項(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(2) 拘留ノ指名ナキモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(3) 自由ノ思想、言論、宗敎、政見ノ行使ニハ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(4) 此等ノ者ノ罪ヲ犯シ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(5) 十月十日迄ニ完了スベキモノ

(6) 官廳又ハ閣僚部局ハ、後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

員、司法省保護觀察審査會並ニ保護觀察所ノ一切ノ官吏ヲ罷免スルモ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(イ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ロ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ハ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ニ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ホ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ヘ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ニ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ホ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

(ヘ) 後述ノ能ハシテ、(イ)又(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ、(ロ)ニ示サレタル法規ニ基クモ

以スルニ必要ナル時
其ノ地位ニ在ラシム可ラス
昭和十一年十月二十日
本司令部ノ決定ニ基キ
桐葉セラロコトアルベシ

A G 三三四

二十年十月十二日
軍車保護院ニ關スル件
日本帝國政府ノ軍事保護
院ニ於テ、療養所ノ患者收容
其ノ他、院ニ於テ、監督
院ノ事務ニ關シ、院長
院ノ事務ニ關シ、院長
院ノ事務ニ關シ、院長

A G 三三二

二十一年十月一日

二十一年十月一日
軍車保護院ニ關スル件
日本帝國政府ノ軍事保護
院ニ於テ、療養所ノ患者收容
其ノ他、院ニ於テ、監督
院ノ事務ニ關シ、院長
院ノ事務ニ關シ、院長
院ノ事務ニ關シ、院長

- 一、本司令部ノ日本帝國政府宛書
S C A P I N 二七三 A G 三三四
昭和十一年十月十二日
關係全情報トシテ左記ノコト公表
サル
- 二、終戦時ニハ軍車保護院ノ管下ニ
三十八ノ結核療養所、十二ノ精神
三、前記第一項ニ關スルニ、指令ノ旨
的ニハ、軍車保護院ニ於テ、監督
管理ニ關シ、院長ノ委任ヲ行フ
治療及人見治療、マシテ、院
ニ於テ、院長ノ委任ヲ行フ
日本帝國政府ノ軍事保護院ニ
シテ、院長ノ委任ヲ行フ
五、前記ノ指令ノ規定ニ基キ、
六、監督實施ニ關シ、院長ノ委任
路ヲ經テ、院長ノ委任

- 一、公用地又ハ公園ニ設置
タル神社ニ對シテ、公共
カ、財政上ノ支拂ハ、神社ノ敷地
ニ對シテ、院長ノ委任ヲ行フ
二、院長ノ委任ヲ行フ
三、院長ノ委任ヲ行フ
四、院長ノ委任ヲ行フ
五、院長ノ委任ヲ行フ
六、院長ノ委任ヲ行フ
七、院長ノ委任ヲ行フ
八、院長ノ委任ヲ行フ
九、院長ノ委任ヲ行フ
十、院長ノ委任ヲ行フ

Handwritten Japanese text on the left page, consisting of several vertical columns of characters.

Handwritten Japanese text on the left page, continuing from the top section.

Handwritten Japanese text on the right page, consisting of several vertical columns of characters.

Handwritten Japanese text on the right page, continuing from the top section.

一、尊神ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 二、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 三、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 四、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 五、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 六、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 七、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 八、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 九、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 十、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト

一、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 二、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 三、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 四、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 五、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 六、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 七、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 八、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 九、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 十、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト

一、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 二、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 三、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 四、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 五、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 六、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 七、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 八、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 九、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 十、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト

一、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 二、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 三、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 四、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 五、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 六、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 七、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 八、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 九、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト
 十、神道ノ神格ニ依リテ他ノ宗教ト



結核豫防対策要綱

I. 結核豫防組織の強化

1. 結核豫防行政機構の強化

中央地方を通じて結核豫防担当職員を増加せよ。

2. 結核専門委員会の設置

A. 中央

1. 結核撲滅対策中央委員会

専門委員 会

2. 連 結 会

B. 地方

結核撲滅対策地方委員会

3. 結核豫防網の拡大と密着

(1) 保健所の整備

a. 結核豫防専任職員の見直し

20以上に対し、結核豫防専任の技官(二級)一、事務官(三級)一

保健婦の割合を以て保健所(又は支所)に配置する。

本 保健所支所の設置

(2) 結核世話委員会を市町村単位に設置しその事業の奨励に当る

a. 結核豫防思想の普及

本 結核豫防実生者の指導

c. 療養所に入所の世話

d. 病状悪者の保護及び栄養品等の補助

e. 退所患者の保護

f. 患者の生活後援

(3) 市町村の結核豫防活動の強化

保健所、療養所の相互連絡の緊密化及び療養所職員の手一線

への進出活動を図る。

(4) 医師会、歯科医師会、薬剤師会及び保健婦会の活動促進を

図る。

(六) 国民健康保険組合、労働組合、農民組合等の協力
(七) 集団検診の実施

1. 対象——七〇歳以上の全青年

2. 検診方法——ツベルクリ反応検査、胸透検診、結核菌検査、

3. 資材及器具——保健所のレントゲン設備及レントゲン自動車

整備

(八) 急病者の指導管理

(九) 急病者家族の検診並に指導

(一〇) 急病者の届出の勵行——栄養品等の増配を考慮する

(一一) 衛生区と保健所との連絡提携を図る——保健所設置前の衛生区への開放

II. 感染症養育所の整備

病棟数

別立感染症養育所八ヶ所、病床五〇〇床とする

(一三) 一三年度概算に計上されたもの四百八十五病床

ニ 養育

取次一ヶ所、入所患者一〇〇名、官公私立療養所、病院と合同し一人に付

一日三百〇〇のベッドと基準とする

(普通入所の一トニ別當ビ一ト、この内養育所は五〇名、病棟三〇名

と必要とする)

三 急病者の給與改善

四 急病者の輸送

五 急病者関係者の救済の向上

一 研究

(一) 基礎的研究

- (一) 豫防の研究
 - (二) 治療の研究
 - (三) 栄養の研究
 - (四) 社会的経済的の研究
 - (五) 結核豫防模範地区の設定
 - (六) 療養所運営の研究
- 三、講習
- 一、行政関係

- (A) 中央 厚生省に於て都道府県結核専任担当技官の講習を実施する
- (B) 地方 (1) 都道府県庁の専任担当技官は管内結核豫防関係職員講習を実施する
- (2) 保健所の結核専任技官は担当区域内の結核豫防に

詰本員に對して講習を実施する

(二) 治療関係

- (A) 中央 都道府県の主要なる療養所の職員に對して厚生省に於て実施する
- (B) 地方

- (a) 石職員は各都道府県所在療養所医師看護婦の講習を実施する。
- (b) 函保健所市町村等の結核豫防関係職員講習を実施する
- (c) 開業医の講習—医師会を以て実施せしめる講師は中央より選定する

(四) 指導班の編成

IV 結核豫防思想の普及宣傳

一 総務課所事業団体の強化活用

(一) 総務課所会の運営強化

(二) 其の他課所団体の強化活用

(三) 総務課所婦人会の結成

1. 組織

中央 聯合會

地方 府縣單位に本部

市町村に支部

2. 目的

総務課所の思想普及に資し、

総務世話委員会の活動援助

二 學校教育による課所思想の普及徹底

、文部省と連絡結核に關する事項の教科書中に編入し、

一方學生、生徒と通じ家庭への思想普及を期す。尚上記並

は総務課所定章若くは草案を以てす

IV B C G 母體の強化徹底

一 對象

主として數十年ハオキリ三十才の青年

二 B C G の製造

必要に定めて製造所の増設を期す(現在十ヶ所)

V 総務課所法の改正

Outline of a Draft Program of Tuberculosis
Control in Japan

- 7
8
- I. Strengthening the System of Tuberculosis Control
 1. Strengthening the Organization of Tuberculosis Control.
 - A. Central Government.
 - B. Local Government.To increase the number of the personnel in charge of T.B. control.

2. Advisory Council

A. Central Government

- (a) Central committee for tuberculosis control.

Expert Committee

- (b) Liaison committee.

B. Local Government

Local committee for tuberculosis control.

3. Improvement and Expansion of System of T.B. control.

- (1) Improvement of the functions of health centers.

- a. Stationing the full time Personnel in charge of T.B. Control.

One health officer, two clerks and two public health nurses in charge of T.B. control per 50,000 population shall be stationed at health centers (or branches).

- b. Branches of health centers.

(2) Establishment of T.B. Care Committee in a city, ward, town and village.

This committee will take in charge of the following matters.

- a. Propagation of knowledge of T.B. control.

b.

裏
面
白
紙

121

- b. Guidance in a mode of living for T.B. control.
- c. Help for entering sanatoria.
- d. Care and supply of nutrition for domiciliary T.B. cases.
- e. After care for T.B. cases released from sanatoria.
- f. Protection and care of daily life of T.B. cases.

(3) Strengthening the activities for T.B. control in a city, ward, town and village.

(4) Promoting close contact of health centers with sanatoriums and encouragement of the personnel of sanatoria to do field work for T.B. control.

(5) Co-operation with Physician's Association, Dentist's Association, Pharmacist's Association and Public Health Nurses' Association.

(6) Co-operation with National Health Insurance Society, Farmer's Union, Labor's Union etc.

(7) Mass examination.

a. Range of years of ages of the persons to be examined:

7-22 inc.

- (A) Tuberculin test.
- (B) X-ray examination.
- (C) Detailed examination.

b. Materials.

Remarks: X-ray machinery in a health center and X-ray automobile.

(8) Guidance and observation of domiciliary T.B. cases.

(9) Medical examination and instruction of the family of T.B. cases.

(10) Enforcement of notification of T.B. cases.

裏
面
白
紙

(For this purpose supply of nutrition to notified cases is to be considered).

(11) Close contact of health centers with local practitioners.

Free use of facilities of health centers to practitioners.

II. Improvement and Increase of Sanatoria and their Accomodations.

1. Beds.

At least 80,000 beds are necessary.

(48,050 beds are granted by the budget for 1947.)

2. Nutrition.

2,400 calories should be granted per a day for a case in sanatoria.

(About 90 grams of protein and about 30 grams of fat are necessary for a T.B. case per a day.)

3. Improvement of the supplies to and daily treatment of patients in sanatoria.

4. Transportation of T.B. cases.

III. Improvement of the technique and knowledge of the persons in connection with T.B. control and treatment.

1. Study and research of T.B.

(1) Bacteriological and Pathological research.

(2) Research in Prevention and control.

(3) Research in medical treatment.

(4) Research in nutrition for T.B. cases.

(5) Study of social and economic problems of T.B.

(6) Establishment of demonstration district of T.B. control.

(7) Study of sanatorium management.

2. Providing manual of prevention, diagnosis and medical treatment of T.B.

3. Course for Retraining.

(1) Administration and method of T.B. control.

(A) Central Government.

Course for the prefectural health officers in charge of T.B. control will be held at Tokyo.

(B) Local Government.

(a) Course for prefectural personnel engaging in T.B. control will be held in each prefecture by the health officer in charge of T.B. control respectively.

(b) The health officer in charge of T.B. control in health centers will hold course in T.B. control for the T.B. care committee.

(2) Medical Treatment of T.B.

(A) Central Government.

Course for representatives of the physicians of principal sanatoria in each prefecture will be held at Tokyo.

(B) Local Government

(a) Course for the physicians and nurses in sanatoria will be held in each prefecture by the above mentioned representatives.

(b) Course for the personnel engaging in T.B. control will be held by the representatives mentioned in the paragraph (A).

(c) Course for practitioners.

Course for practitioners will be held by physicians' Association, with the Government subsidy. Lecturers will be sent also from the Central Government.

4. Formation of the teams of leaders in T.B. control.

IV. Publicity and Public Education.

1. Strengthening the Functions and Activities of Anti-tuberculosis Bodies.

(1) Strengthening and making the best use of Japanese Anti-tuberculosis Associations.

The Japanese Anti-tuberculosis Association shall be the center of such bodies.

(2) Strengthening and making the best use of other anti-tuberculosis bodies.

(3) Formation of women's anti-tuberculosis committee.

(A) Organization.

Central-----Central women's Anti-tuberculosis Federation.

Local-----Local women's Anti-tuberculosis Committee in each prefecture and branch in a city, ward town and village.

(B) Aims and object.

Propagation of anti-tuberculosis knowledge, application of the knowledge and help for T.B. care committee.

2. Propagation of Anti-tuberculosis knowledge through schools.

Knowledge of T.B. shall be included in teaching subjects of school. Anti-tuberculosis education of the families through schoolchildren.

Guidance of a mode of living for T.B. control through older school children.

V.

125 1/2

裏
面
白
紙

7. Inoculation of BCG.

1. Range of years of ages of the persons to be inoculated:

7-29 Inc., exclusive of those showing positive.

2. Manufacturing of BCG.

Number of factories of BCG will be increased, if necessary.

Remarks: 11 factories at present.

7. Revision and Amendment of Anti-tuberculosis Act.



結核療養所対策要綱

I 結核療養所組織の強化

一 結核療養所行政機構の強化

中央地方を通じた結核療養所担当職員を増加せよ。

二 結核療養所委員会の設置

A 中央 1 結核撲滅対策中央委員会

専門・委員 會

二 地方 結核療養所 會

B 地方 結核撲滅対策地方委員会

三 結核療養所対策の向上補強

一 保健所の整備

a 結核療養所専任職員の見直し

20以下に削減し、結核療養所専任の技官(二級)一、事務官(三級)一

保健所の割合を以て保健所(又は支所)に設置す。

二 保健所支所の設置

一 結核世帯委員会と市町村単位に設置しその事業の負担に当る

a 結核療養所患者の普及

二 結核療養所実生者の指導

C 療養所に入所の世話

d 病室患者の保護及び栄養品等の補給

e 退所患者の保護

f 患者の生活指導

三 市町村の結核療養所活動の強化

四 保健所、療養所相互連絡の緊密化及び療養所職員の一線

への進出活動を図る。

由医師會、齒科医師會、薬剤師會及び保健婦會の活動促進を
期す。

(一) 国民健康保険組合、済済組合、農民組合等の協力
 (二) 集団検診の実施

1. 対象——七才より十九才迄の全青年

2. 検診方法——ソベルクリン反応検査、問診、尿検査、着衣検査

3. 首種及器具——検定所のレントゲン設備及レントゲン自動車の

整備

(三) 居住者の指導管理

1. 居住者家族の検診並に指導

2. 児童の届出の刷新——栄養品等の増配を考慮する

(四) 衛生正と保健所との連絡提携と関係——保健所業務の刷新並にその関係

II 感染症療養所の整備

1. 感染症

国立療養所八ヶ岳支所を以てする

(一) 一〇二二年度概算に計上されたもの四百八十九病床

ニ 療 養 所

収容するに所定者(官公私立療養所、病院を含む)一人に付

一〇二〇〇〇のベッドと基準とする

(普通入所)一〇二割増しにして、この内養育室を二割増しとする

を必要とする

一 定額給付給費改善

一 定額給付の増進

III 健康関係者の技術的向上

一 研 究

(一) 基礎的研究

- (一) 行政関係
- (二) 療養所の研究
- (三) 結核の研究
- (四) 栄養の研究
- (五) 社会的経済的の研究
- (六) 結核療養所模範地区の設置
- (七) 療養所運営の研究
- (八) 預防診断治療指針の作成

三 講習

- (A) 中央 厚生省に於て都道府縣結核専任担当役官の講習を実施する
- (B) 地方 (1) 都道府縣の専任担当役官は管内結核預防関係職員講習を実施する
- (2) 保健所の結核専任役官は担当区域内の結核預防せ

諸本員に對して講習を実施する

二 治療関係

- (A) 中央 都道府縣の主要なる療養所の職員に對して厚生省に於て実施する
- (B) 地方

- (1) 石職員は各都道府縣所在療養所医師看護婦の講習を実施する
- (2) 商保健所市町村等の結核預防関係職員講習を実施する
- (3) 開業医の講習は医師会を以て実施せしめる講師は中央より委託する

四 指導班の編成

IV 結核預防思想の普及宣傳

一 結核豫防事業団体、強化活用

(一) 結核豫防會の運営強化

(二) 其の他豫防団体、強化活用

(三) 結核豫防婦人會の育成

1 組織

中 央 政 令 會

地 方 府 縣 單 位 以 下 部

市 町 村 以 下 部

2 目 的

結核豫防の思想普及に資し、
結核世襲毒菌會の活動援助

二 學校教育による豫防思想の普及徹底

文部省と連絡、結核に関する事項の教科書中に編入し、
一 方學生、生徒を通じて家庭への思想普及を図る。尚上記並

に結核豫防実生活の指導をなす

三 B C G 接種の強化徹底

二 對 象

主として戦後一年八月より三十才の青少年

三 B C G の製造

必要に資して製造所の増設を図る(現在十ヶ所)

四 結核豫防法の改正

~~to be prepared~~ ^{1a,} ~~in~~ the memorandum to be referenced directs to submit 'the report' published "Research on _____" by Captain Jun _____

However,

The ~~above~~ memorandum referenced in the above paragraph 1, a, ~~directs~~ has directed

In the reference memorandum in the above 1, b the Imperial Japs. G. has ~~directed~~ made answer that the reports ~~would not be found~~ were ~~not~~ ^{were} ~~able~~ ^{unable} to be found in the

Japanese Government Agencies.

3) The D. O. I. J. G. ~~is~~ searched for C. M. J. to copy his manuscripts of the said essay. Henceforth this copy ~~also~~ show some difference to the requested essay. Imperial Japanese Government will present this ~~only~~ only.

A Copy (Material) to be submitted.

To Captain Seymour Stern, Chief Med. Ana. Section
General Headquarter, SCAP.

From Central Liaison Office, Tokyo.

Subject "Research Concerning Active Immunity in
Tetanus and Gas Gangrene"

C.L.O.(P.K.)No.

1. Reference is made to the following Memorandum.

a. SCAP Memorandum above subject, file USATIC, 5250 TIC (Med. Ana. Sec.), dated 15 April 1946.

b. C.L.O. Memorandum, above subject, file C.L.O.(P.K.) No. _____, dated _____.

2. The referenced Memorandum above 1, a, has directed to submit "Japanese Army Medical College Epidemic Prevention Research Report " published "Research Concerning Active Immunity in Tetanus and Gas Gangrene" by Captain Junshin Miyazaki. In the referenced Memorandum above 1, b, however the Imperial Japanese Government has made answer that the requested reports were unable to be found in the Japanese Government Agencies.

3. The 1st Demobilization Board Imperial Japanese Government researched for former Captain Junshin Miyazaki to copy his manuscripts of the said essay. Therefore this copy shows some difference to the requested essay.

Imperial Japanese Government will submit this copy.

Copy to be submitted:

Japanese Army Medical College Epidemic Prevention Research Report.

No.648, Vol. 2 (1943)

No.720 Vol. 2

No.899 Vol. 2

裏
面
白
紙

To Captain Seymour Stern, Chief Med. Ana. Section
General Headquarter, SCAP.
From Central Liaison Office, Tokyo.
Subject "Research Concerning Active Immunity in
Tetanus and Gas Gangrene"

C.L.O.(P.K.)No.

1. Reference is made to the following Memorandum.
 - a. SCAP Memorandum above subject, file USATIC, 5250 TIC (Med. Ana. Sec.), dated 15 April 1946.
 - b. C.L.O. Memorandum, above subject, file C.L.O.(P.K.) No. _____, dated _____.

2. The referenced Memorandum above 1, a, has directed to submit "Japanese Army Medical College Epidemic Prevention Research Report " published "Research Concerning Active Immunity in Tetanus and Gas Gangrene" by Captain Junshin Miyazaki. In the referenced Memorandum above 1, b, however the Imperial Japanese Government has made answer that the requested reports were unable to be found in the Japanese Government Agencies.

3. The 1st Demobilization Board Imperial Japanese Government researched for former Captain Junshin Miyazaki to copy his manuscripts of the said essay. Therefore this copy shows some difference to the requested essay.

Imperial Japanese Government will submit this copy.

Copy to be submitted:

Japanese Army Medical College Epidemic Prevention Research Report.

No.648,	Vol. 2 (1943)
No.720	Vol. 2
No.899	Vol. 2

裏
面
白
紙

第41次 英文

To : Technical Intelligence Board, GIB, SCAP.
From : Central Liaison Office, Tokyo.
Subject: Research Concerning Active Immunity in Tetanus
and Gas Gangrene.

1. Reference:

a. G-Z Japanese Liaison Section Memorandum, file
USATIC, 5250 TIC (Med Ara Sect), dated 15 April 1946,
Subject: "Research concerning Active Immunity in Tetanus
and Gas Gangrene".

2. The above reference memorandum has directed
Mr. Yoneji Miyagawa to submit the papers concerning the
above subject written by Surgeon Junji Miyagawa, Mr. Miyagawa
is now in Benenchofu Omori-ward Tokyo, and Tokyo-Shibaura
Biological & Chemical Laboratory of which he is a head is in
Sekiya-cho Niigata City, and Mr. Junichi Kaneko is in charge
of general affairs of that laboratory.

3. When Head of the Laboratory Yoneji Miyagawa had an
interview with Captain Starn, on April 20th of this year, he
explained in detail the contents of Kiyazaki's essay and
moreover submitted its summary report. Consequently
Mr. Miyagawa considered that the request in reference memo-
randum (1)a, was already answered and he did not take any
special action further.

4. At the beginning of September, however, the Japanese
Government was urged from Captain Starn orally that the
request had not been fully replied yet. Thus, the following
is the result of the research done by the Japanese Government:-

裏
面
白
紙

a. "Japanese Army Medical College Epidemic Prevention Research Report" Vol.2, No.720 or Vol.3, No.832(?) 1943 to which Captain Miyazaki's papers regarding the above subject was contributed would not probably be kept in Tokyo-Shibauro Chemical Laboratory of Niigata City, according to Mr. Miyagawa's words.

b. To make sure, however, Mr. Miyagawa said that he would order Mr. Kaneko in Niigata City to search for the said magazine and to report to the Ministry of Welfare or Captain Stern as soon as possible, but we have not yet received the report from Mr. Kaneko. At present, the Japanese Government is asking the Ministry of Welfare urge Mr. Kaneko to present that magazine.

c. On the other hand, when the First Mobilization Board (former Japanese War Ministry) investigated the remaining state of the remaining affairs of the former Japanese Medical College, it became cleared that the magazine was supposed to be burned up together with the termination of the war last year, and it was not in possession. But, in October last year, Lieutenant-Colonel Sano (its spelling unknown, and though attached to the G-2, his section unknown) who returned to America from Japan took with his all data relative to the former Japanese Medical College and that might have that magazine, then, it is considered.

5. As mentioned in Paragraph 4, it was cleared that the said magazine was not possessed by those agencies relating to the Japanese Government. The Japanese Government expresses deep regret for being so delayed the research report concerning this

matter, at present, as the last measure, the Japanese Govern-
ment is taking the action of urging Mr. Kaneko to research over
again and the interim report in regard to the process and the
result up to the present is submitted here.

- End -

135

裏
面
白
紙

27 299 21 212 200 200
21 212 200 200
21 212 200 200

GENERAL HEAD QUARTERS OF THE SUPREME COMMANDER
FOR THE ALLIED POWERS.

FROM : Central Liaison Office, Tokyo.
SUBJECT: Rearrangement of Labor and Employment Administration Personnel.

C.L.O. No. 6370 (PER) 2 December 1946

1. Herewith is submitted for your reference the English translation of the instructions on the subject matter which have been issued by the Ministry of Public Welfare and Home Ministry jointly to each prefectural governor, in order to effectuate the rearrangement of labor and employment administration personnel in accordance with the verbal directions of Mr. Conna, Labour Division, Economic and Scientific Section.

FOR THE RECORD:

(A. Asakai)
Director of General Affairs,
Central Liaison Office.

Enclosure: The English translation of the joint instructions of the Welfare Ministry and Home Ministry, dated 30 Nov. 1946.

1. 30日 厚生省 労働部 労働行政 関係 事務 2-12 号 12月 30日 発令 厚生 省 労働 部 労働 行政 関係 事務 2-12 号 12月 30日 発令 厚生 省 労働 部 労働 行政 関係 事務 2-12 号 12月 30日 発令

同封： 1946年 11月 30日 発 労働 行政 関係 事務 2-12 号 12月 30日 発令

第 2 号

和 平 局 長

裏 面 白 紙

東京府政務局中央學務部
聯合國取備司會地宛

昭和一一、一二、二

主 題 勞務及職業行政職員再配置の件

一、こゝに貴照會に對し、且、Qの經濟科學部勞務課コーヘン氏の
口頭指令に基き、勞務及び職業行政職員再配置をなすため、厚生省
内務省共同の地方長官宛主題の件に對する訓令英譯を提出する。

同封 一九四六年一月三〇日付 厚生省内務省共同訓令の英譯

裏面白紙

137/2

昭和二十一年十月十八日

米軍民間情報部規畫課エスクリンス

東京都内に於ける官公立及び民間の齒療團體、療養所、浮浪兒の收容所、養老院、養育所の所在地及び幹部の氏名を十月二十六日迄に提出され度し。

第3號

裏面白紙

1372

浮浪兒保護施設

名 稱	公私別	所 在 地	代表者氏名
東京都養育院	公	板橋區板橋町五ノ一、〇一四	安井 誠一郎
東京都養育院分院 石神井分院	同	板橋區上石神井二ノ一、七〇〇	同
八 街 學 園	同	千葉縣印旛郡八街町	同
保田兒童學園	同	千葉縣安房郡保田町	同
葦 山 學 園	同	北多摩郡東村山町野口	同
星 美 學 園	私	事務所 山梨縣南都留郡中野村 (事務所本郷區根津須賀町一〇(米永政治方))	平手 シツ
杉 並 學 園	同	杉並區大官前四ノ四六四	森 芳 俊
砂 町 友 愛 園	同	事務所 山形縣西村山郡柴崎村山崎三郎氣付 (事務所西多摩郡三田村津井舟太氣付)	吉 田 清 太 郎
愛 清 館	同	事務所 長野縣埴井郡明泊分會館前分會館 (事務所 杉並區馬橋二ノ二三八)	望 月 清
難病痲瘋者孤兒救護 婦人同志會愛兒の家	同	中野區宮ノ宮一ノ二三五	石 綿 貞 代
白 玉 學 園	同	杉並區阿佐ヶ谷六ノ一七	藤 木 善 次
家庭 學 校	同	杉並區上高井戸三ノ七六	岡 澤 新 兵 衛
職業者 更生 會	同	津島區松崎町〇(沼澤本町内)	廣 木 康 在
愛 理 園	同	荻川區三河島町三ノ三、(C二)	ボロイオ・ フエリチ
東京サレジオ學園	同	ドンゼスコ牧師院内	レナト・タシナリ
久留米勤勞青年學園	同	北多摩郡久留米村川津	中 込 友 美
社會事業厚生生命館	同	下谷町浦ノ端七軒町二六(三ノ刀町同甲農校)	丸 山 鶴 吉
東京聖 勞 院	同	中野區宮ノ宮五ノ五三一	丸 山 鶴 吉
二 華 學 院	同	葛飾區金田二ノ一、二九七	二 華 教 之 助

育 児 施 設

名 稱	公 私 別	所 在 地	代 表 者 氏 名
東京都養育院	公	板橋區板橋町五ノ一、〇一四	総長官 安井 誠一郎
東京都養育院分務所	同	板橋區上石神井二ノ一七〇〇	同
米日社会福祉会 懇話会	私	神田區三崎町一ノ二 パブテラストビル内	タビング
生息の家 社会事業團	同	赤坂區赤坂町五	谷口 肇 夫
星 華 學 園	同	本郷區根津須賀町一〇 井ノ池冷方 (専業所 山根區南都留郡中野村)	平 手 シズ
子供フランシスコ 会	同	大森區久ヶ原町一、〇〇二	青 トミ
東京青年成育会	同	世田ヶ谷區上馬町一ノ七五四	松島 正 儀
親 用 会	同	渋谷區宮代町 一	藤 橋 清 光
救世軍 レットの家	同	中野區江古田三ノ一二〇〇	ヨセフ・ フロジャック
養育院 老人同志愛の家	同	中野區後ノ宮一ノ二三三五	石 綿 貞 代
東京サレジオ会 松 蔭 保 育 園 (小児部)	同	ドンボスコ修道院内 板橋區板橋町八ノ二、〇一八	レナト・タシナリ 滝 井 ま つ
白 道 園	同	足立區蓮根町大境七、〇一九	沼 地 知 子
草 薙 學 園	同	草薙區上千代町一、三四一	山 口 信 太 郎
救世軍東貝塚園	同	北多摩郡津湖村野火止野町一、六三三	ヨセフ・ フロジャック

養老施設

名 稱	公私別	所 在 地	代表者氏名
東京都養老院	公	板橋區板橋町五ノ一、〇一四	安井 誠一郎
同 臨原分院	私	同	同
東京養老院	同	芝區芝公園二號地ノ一増上寺内	里見 達雄
大和養老院 大和養老院 母老院	同	淀橋區上喜合二ノ六七〇	マリテ・ マグダラ
浴園会浴風園	同	杉並區上高井戸三ノ八四八	藤原 誠二郎
東京老人ホーム	同	北多摩郡保谷町上保谷新田一六八	木田 徹喜

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

The List of Waifs Protection Institution.

Name	Public or Private	Location	Name of Representative.
Tokyo-to Yoikuin	Public.	No.1014, 5-chome Itabashi-machi, Itabashi-ku, Tokyo-to.	Director of Tokyo Municipal. Seiichiro Yasui.
Shakujii Gakuen (The Branch of Tokyo-to Yoikuin)	"	No.1730, 2-chome Kamishakujii Itabashi-ku, Tokyo-to.	"
Yachimata-Gakuen	"	Yachimata-machi, Inbagun, Chiba-Prefecture.	"
Hota-Jido- "	"	Hotomachi, Awagun, Chiba Pref.	"
Magiyama-Gakuen	"	Hogichi, Higashimurayama-machi, Kitatama-gun, Tokyo-to.	"
Seibi-Gakuen	Private	Nakanomura Minamitsurugun Yamanashi Pref. (c/o. Masaji Mitsunaga, No.10, Nezusugacho, Hongo-ku, Tokyo-to.)	Shizu Hirate
Suginami-Gakuen	"	No.464 4-chome Oaiyamae, Suginami-ku Tokyo-to.	Yoshitoshi A. Iri
Funamachi Yuaien	"	c/o. Seisaburo Murayama, Shibabashi-mura Nishimuraya- magun Yamagata Pref. (c/o. Sunaki Mita-mura Nisnitama-gun Tokyo-to)	Seitaro Yoshida
Aiseikan	"	Oiwake-Gakuso Oiwake-Aiseikan Karuzawa-machi Nagano Pref. (No.238 2-chome Mabashi Suginami-ku Tokyo-to)	Kiyoshi Mochizuki
Sagino-Isle of Lady Friend's Association for the Relief of the War- damaged and Orphans.	"	No.235 1-chome Sagino-miya Nakano-ku, Tokyo-to.	Sadayo Ishiwata
Hakuo-Gakuen	"	No.17 6-chome Asagaya Suginami-ku Tokyo-to.	Zenji Araki
Katei-Gakuen	"	No.76 3-chome Kamitakaido, Suginami-ku Tokyo-to.	Shinbei Kunisawa
War-sufferers Regeneration Association.	"	No.40 Shosei-machi Asakusa- ku Tokyo-to. In Asakusa Honganji.	Yasutoshi Maki
Aiseien	"	No.3,002 3-chome Mikawashima Machi Arakawa-ku Tokyo-to.	Ferich Vovio
Tokyo Sarejio Gakuen	"	In Donbosco Monastery, at ex-narimasu Airdrone, Narimasumachi, Itabashiku, Tokyo-to.	Lenat Tashinari
Kurume Laboring Youth School	"	Maesawa Kurume-mura Kitatama- gun Tokyo-to.	Tomomi Nakagome
Social Undertaking Welfare Association	"	No.26 Shichiken-cho Ikenohata Chitaya-ku Tokyo-to. In ex- Shinobugakka Primary School.	Ikuji Takebe
Tokyo Seiro-in.	"	No.541 3-chome Saginomiya Nakano-ku Tokyo-to.	Tsurukichi Maru- yama.
Utaba-Gakuin	"	No.1,297 2-chome Kana-machi, Katsushika-ku, Tokyo-to.	Keinosuke Futaba.

裏
面
白
紙

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

The List of Fostering Institution

Name	Public or Private	Location	Name of Representative.
Tokyo-to Yoikuin	Public	No.1,014 5-chome Itabashi-cho Itabashi-ku Tokyo-to.	Director of Tokyo Municipal. Seiichiro Yasui.
The Branch of the above.	"	No.1,700 2 nd chome Kamishakujii Itabashi-ku Tokyo-to.	"
America-Japanese Society Welfare Consultation Party.	Private	In Paptest Building, No.2 1-chome Misaki-cho, Kanda-ku Tokyo-to.	Tabing
"Seichono-ie" Social Undertaking Corporation.	"	No.5 Hinoki-cho Akasaka-ku Tokyo-to.	Masaharu Taniguchi
Seibi Gakuen	"	No.10 Iezusuga-cho Hongo-ku Tokyo-to.	Shizu Hirade
Sent Francisco "Kodomo-Ryo"	"	No.1,003 Kugawara-cho Omori-ku Tokyo-to.	Tomi Kan
Tokyo Ikuseien	"	No.754 1-chome Kamiyama-cho Setagaya-ku Tokyo-to	Seigi Matsushima
Tokudakai	"	No.1 Miyashiro-cho Shibuya-ku Tokyo-to.	Shinko Hirohashi.
Jiseikai "Nazaretano-Ie.	"	No.1200 3-chome Ekoda Nakano-ku Tokyo-to.	Josef Frojack
Mijino-Ie of Lady Friend's Association for the Relief of the War-damage and Orphans, Tokyo Sarejio Gakuen	"	No.235 1-chome Saginomiya Nakano-ku Tokyo-to	Sedayo Ishiwata
	"	In Donbosco Monastery at ex-Narimasu-Airdrome, Narimasu machi, Itabashi-ku, Tokyo-to.	Lenato Tasninari
Matsuba Hoikuen (Children Home) Makudoen	"	No.2,018 2-chome Itabashicho Itabashi-ku Tokyo-to.	Matsu Wakui
	"	No.7,019 Osakai Iyocho Adachi-ku Tokyo-to.	Shizuko Ichichi
Katsushika Gakuen	"	No.1,341 Kamichiba-machi Katsushika-ku Tokyo-to	Shintaro Yamaguchi
Tosei Gakuen of Jiseikai	"	No.1623 Nojio Nobidome Kiyose mura Kitatama-gun Tokyo-to.	Josef Frojack

裏面白紙

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

The List of Institution for Old Age.

Name	Public or Private	Location	Name of Representative.
Tokyo-to Yoikuin	Public	No.1,014 5-chome Itabashi-cho Itabashi-ku Tokyo-to.	Director of Tokyo Municipal. Seichiro Yasui.
Shiozara Branch of Tokyoto Yoikuin Tokyo Yoroin	" Private	" No.1 2-gochi Shiba Park Shiba-ku In Sojoji.	" Tatsuo Satomi
Seibo Yoroin of Yamato Hoshikai	"	No.670 2-chome Shimochiai Yodobashi-ku Tokyo-to	Magudara Maride
Yokufuen of Yokufu Kai.	"	No.848 3-chome Kamitaido Suginami-ku Tokyo-to.	Seizaburo Fukuhara
Tokyo Roji Home.	"	No.168 Kamihoyashinden Hoya-machi Kitatemagun Tokyo-to.	Denki Honda.

裏面白紙

結核療養所

病院名	所在地	経営者又は院長氏名
博慈會療養所	北多摩郡東村山町南沢一五二九	三谷 禮吉
秋津荘	杉並區和田本町八七五	加納 次良
杉並療養所	北多摩郡清瀬村中瀬戸一ノ一九七	秋元 巳太郎
清心療養所	芝罘白金三光町一二八	日本基督教愛隣會
養生園	日本橋區中洲七	北島 多一
糸川病院	中野區江古田四ノ一七〇二	糸川 欽也
爭風園病院	武藏野療園	燿 爭風會
武藏野療園	ベターアの家	鈴木 佐内
晴光園療院	豊島區要町三ノ一〇	尾形 幸又
豊島丘病院	飯橋區石神井谷原町一ノ五六二	野上 萬次郎
富士見丘靜風莊療養所	世田谷區經堂町二二三	兒玉 豐次郎
兒玉經堂病院	大森區大森一ノ一五	大貫 公光
近效病院		野中 萬次郎
大森病院		
江戸川病院	江戸川區小若町二ノ三〇五一	加藤 峰三郎
聖和醫院	區東小松川二ノ四三五三	佐藤 玄秀
大島病院中川燒療養所	葛飾區青戸町四ノ二二三	大島 貫一
ベトレヘムの家	北多摩郡清瀬村野火止一六二三	燿 慈生會
慈恩會信愛病院	野籠一六四五	松野 菊太郎
上宮教會清瀬療園	野籠開發六八〇	加藤 熊一郎
清瀬保養園	中瀬戸芝山一二三八	馬 杉三
清瀬蕪風園	野籠六七四	山田 吉規
鶴結核療養會養生園	郡東村山町野口九六	武井 詳嗣
多摩濟生院	郡小平村大沼田新田三五五	和田 郡
國分寺病院	郡國分寺町志ヶ窪五六八	渡多野 二郎
國分寺園	郡國分寺大字國分寺二三一四	櫻部 修伯
多摩川清風園療養所	郡多摩村是政二四〇〇	戸木田 菊治
多摩川保養園	郡調布町飛田繪一〇〇八	高 龍良彦
櫻町病院	郡小金井町小金井二八八六	土井 辰雄
厚生療養會所	南多摩郡多摩村和田一五四七	牛尾 三郎
柴又病院	萬福區新宿四ノ一〇六〇	内田 玖瑠美之
加藤病院	荒川區三河島町一ノ一八九一	加藤 貞利
日本治療園中野療養所	中野區江古田三ノ一一六一	春木 秀次郎
日本治療園清瀬療養所	北多摩郡清瀬村	島村 喜久次

醫 療 關 係 團 体

団 体 名	所 在 地	団 体 の 長 の 氏 名
日 本 醫 師 會	神田區駿河臺二丁目五	中 山 壽 彦
東 京 都 醫 師 會	〃	全 右
日 本 齒 科 醫 師 會	小川町一丁目三	加 藤 清 治
東 京 都 齒 科 醫 師 會	〃 多町二丁目十一	小 椋 善 男
日 本 藥 劑 師 會	京橋區銀座七丁目 交詢社ビル内	近 藤 平 三 郎
東 京 都 藥 劑 師 會	神田區錦町一ノ二一	高 橋 勸 次
日 本 保 險 婦 協 會	厚生省衛生局内	兒 玉 政 介
東 京 都 保 險 婦 協 會	東 京 都 衛 生 局 内	河 村 郁
日 本 産 婆 會	麹町區富士見町二ノ五	草 間 弘 司
東 京 都 産 婆 會	〃	市 川 い し
日 本 醫 療 團	神田區駿河臺二丁目八	戸 田 正 三
日 本 赤 十 字 會	芝區芝公園五號地	島 津 忠 之 輔
恩賜財團濟生會	芝區赤羽町一	潮 島 津 忠 之 輔

Sanatorium for tuberculosis

Name of Hospital	Location	Operator or director.
Hakujikai Seiyoho	1529, Kinamiakitsu, Higashimurayama-machi, Kitatama-gun	Reikichi Mitani
Akitsuho	22, " "	Jiro Wano
Suginami-ryoho	875, Wada-honmachi, Suginami-ku	Mitaro Akimoto
Seishin Ryoho	197, Nakakiyodo-1, Kiyose-mura, Kitatama-gun	Japanese-christian Airinkai
Yoho	128, Shirokanesanko-cho, Shibe-ku	Taichi Kitajima
Itogawa Hospital	7, Nakasu, Nihonbashi-ku	Kinya Itogawa
Sofuen Hospital	1701, Egota-4, Nakano-ku	Foundation, Sofukai
Musashinoryo	1198, Egota-3, " "	Sanai Suzuki)
Betaniyoe	" "	Foundation, Jiseikai
Seikoenryoin	1180, Egota-3, " "	Kinu Sekiya)
Toshinagaoka Hospital	10, Kaname-machi-3, Toshima-ku	San Ogata
Fujimigaoka seifuso-ryoho	562, Shakujii-taniharai-machi, Itabashi-ku	Manjiro Nogami
Kodanakyodo Hospital	223, Kyogo-machi, Setagaya-ku	Toyojiro Kodama
Kinko Hospital	317, Matsubara-machi, Setagaya-ku	Kindo Onuki
Omori Hospital	15, Omori-1, Omori-ku	Manjiro Nonaka
Edogawa Hospital	3051, Koizumachi-2, Edogawa-ku	Minesaburo Kato
Seiwakokusai Hospital	4353, Higashikomatsugawa-2, Edogawa-ku	Genshu Sato
Nakagawazutsumi-ryoho of Oshima Hospital	213, Aedo-machi-4, Katsushikaku	Kanichi Oshima
Bethlehemoe	1623, Nobidome, Kiyose-mura, Kitatama-gun	Foundation, Jiseikai
Honkaishinai Hospital	1645, Nojio, " "	Kikutaro Matsuno
Kiyoseryo of Jogu-kyokai	680, Nojiohatsu, Kiyose-mura, Kitatama-gun	Rumaichiro Kato
Kiyosehoyoen	1238, Nakakiyodo shibayama, " "	Kikuzo Masugi
Kiyosekunpuen	674, Nojio, " "	Yoshinori Yamada
Hoselen of Foundation	96, Noguchi, Higashimurayama-machi, Kitatama-gun	Gunji Takei
Kekkaku yobokai	355, Onumatahinden, Kodaira-mura, Kitatama-gun	Gunji Wada
Tamasaisein	568, Koigakubo, Kokubunji-machi, Kitatama-gun	Jiro Hatano
Kokubunji Hospital	2314, Kokubunji, Kokubunji-machi, Kitatama-gun	Shuhaku Karube
Rokubuen	2400, Koremase, Tama-mura, " "	Kikuji Togita
Tamagawa seifuen ryoho	1008, Tondae, Chofu-machi, " "	Yoshihiko Takagame
Tamagawa Hoyoen	2886, Koganei, Koganei-machi, " "	Tatsuo Doi
Sakuramachi Hospital	1547, Wada, Tama-mura, Minamitama-gun	Saburo Ushio
Koseiogi ryoho	1060, Niijuku-4, Katsushika-ku	Kuranoshi Uchida
Shibamata Hospital	1891, Mikawashima-machi-1, Arakawa-ku	Sedatoshi Kato
Kato Hospital	" "	" "
Nakanoryo of the Japan Medical Association	1161, Egota-3, Nakano-ku	Hidejiro Haruki
Kiyose ryoho of the Japan Medical Association	Kiyose-mura, Kitatama-gun	Kikuji Shimamura

Associations relating to medical treatment.

Name of Hospital	Location	Director of Association
Japanese Physician Association	5, Surugadai-2, Kanda-ku	Toshihiko Nakayama
Tokyo-to Physician Association	" "	"
Japanese Dentists Association	11, Taicho-2, Kanda-ku	Yoshio Ogure
Japanese Pharmacist Association	c/o. Kojunsha Buid. Ginza-7, Kyobashi-ku	Heizaburo Kondo
Tokyo-to Pharmacists Association	21, Nishiki-cho-1, Kanda-ku	Kanji Takanashi
Japanese Health-nurses Association	c/o Sanitary Bureau of the Welfare Ministry	Kasasuke Kodama
Tokyo-to Health-nurse Association	c/o Sanitary Bureau of Tokyo-to	Iku Kawamura
Japanese midwife Association	5, Fujimicho-2, Kojimachi-ku	Hiroshi Kusama
Tokyo-to midwife Association	" "	Ishi Ichikawa
Japan Medical Association	8, Surugadai-2, Kanda-ku	Chozo Toda
Japan Red Cross Society	No.5, Aza, Shiba Park, Shiba-ku	Tadatsugu Shimazu
Imperial Foundation, Saiseikai	1, Akabane-machi, Shiba-ku	Keinosuke Ushio

裏面白紙

10月20日提出

第
々
號

日 月 日	送 受	號 第	課 局	議 合	第	號 第	課 局	管 主
月 月 日	受 受	第			第	號		



丙

判決
月 日
合 校
行 施
于 月 日
局 課
受 付
月 第
日 號
主任
月 日

案 起
昭 和 三 年 十 月 三 十 日
局 課
受 付
月 第
日 號
主任
月 日

總務課長

事務官

年 月 日

長

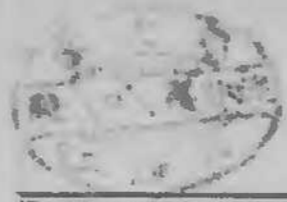
總司令部 (東京府内) 四一四

反ト下下・カルテニ課

年 月 日

統制会社及び統制組合の調査

1



2

<p>櫻江の件は同じく別紙の通り回答す。</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
--------------------------	------------	------------	------------

荷書第二〇一號

昭和二十一年十月二十二日

厚生省衛生局長

厚生大臣官房總務課長 殿

統制會社統制組合調査方依頼の件

昭和二十一年十月一日附總發第二〇一號を以て標記の件當局関係別紙の通り敬す



裏面白紙

裏面白紙

一、要 望

1、1 齒科用品統制株式会社

2、1 家庭藥統制組合

3、1 齒科用品統制株式会社昭和二十一年九月三十日解散

4、1 家庭藥統制組合昭和二十一年五月七日解散、解散後之に代れる

機關名、家庭藥組合中大會、住所、無區下、黒一ノ三八、

5、1 衛生用品統制組合

商工組合等に基くもの

日本齒科器械統制組合

日本藥部外品統制組合

日本義肢工業統制組合

日本藥品配給株式会社

日本藥華株式会社

日本生藥株式会社

生材料株式会社

改組認可

日本藥品配給株式会社は昭和二十一年九月二十五日 以下三社は昭和二十

十一年九月三十日

衛生局

國家總動員法に基いた統制會社の停止前第一
十九條ノ二の組織變更)手續によつて改組され
たり續き臨時會組織法に基く藥品等統制規
則によつた特定統制機關で統制を行ふ

檢
厚生省
第201號
昭和
10
11

昭和二十一年十月十日

年月日 案

官房各課長
局長
總務課長

統制會社及び統制組合に関する件

標記の件に關して、聯合軍總司令部より

別紙寫り通り要求があつて、該當があるは、

十月十五日迄當課に提出されたい。

作成

I. Wanted:

1. A list of national level & local level control companies dissolved between Aug 14, 1945 and Sept 30, 1946 .
2. A statement of the date of dissolution, the authority for the dissolution, and the name & address of the organization, if any, which took the place of the dissolved company.
3. A list of national level & local level control companies which are either:
 - a. Still in existence or
 - b. Converted into commercial companies.

II. This information should be furnished for the companies under their jurisdiction by the following ministries:

1. Agriculture & Forestry
2. Transportation
3. Public Health & Welfare

III. We want the same information about Tosei Kumiai.

Mr. G. Sieker
ANTI-TRUST & CARTELS DIVISION
414 FORESTRY BLDG. G.F.S.

裏
面
白
紙

一、要 望

- 1、昭和二十年八月十四日より昭和二十一年九月三十日の間に解散せる中央及び地方統制會社の表
 - 2、解散の年月日、解散の認可の記載、及びありとすれば解散せる會社に代れる機關の名稱及び所在。
 - 3、次のいづれかの中央及び地方統制會社の表
 - イ、なほ存在するか或ひは
 - ロ、商事會社に改組されたか
- 二、次の諸省所管の會社に代り本情報を提供すべきこと。

1、農 林

2、運 輸

3、厚 生

三、統制組合についても同様の情報を要求する。

G、F、S、農林ビル 四一四
 反トラスト、ジ、カケル 課

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

Reference: SCAP (New York) 4111

I. Wanted:

1. A list of national level & local level control companies dissolved between Aug. 14, 1945 and Sept 30, 1946.
2. A statement of the date of dissolution, the authority for the dissolution, and the name & address of the organization, if any, which took the place of the dissolved company.
3. A list of national level & local level control companies which are either:
 - a. Still in existence or
 - b. Converted into commercial companies.

II. This information should be furnished for the companies under their jurisdiction by the following ministries:

1. Agriculture & Forestry
2. Transportation
3. Public Health & Welfare

III. We want the same information about Tosei Kumiai.

Mr. G. Sieker
ANTI-TRUST & CARTELS DIVISION
414 FORESTRY BLDG. G.P.S.

裏
面
白
紙

裏面白紙

厚生省涉收第一〇一號

昭和二十一年十月二十三日

厚生大臣官房總務課長



總司令部（農林ビル内）四一四

反トラスト、カルテル課

G、ジーケル 殿

（シ、シ、ロ、ヨ、ヨ、ヨ）

統制會社及び統制組合に關する件
標記の件に關して、別紙の通り回答する。

OK
11-4

裏面白紙

一 要 旨

I、イ 齒科用品統制株式会社

ロ 家庭薬統制組合

2、イ 齒科用品統制株式会社昭和二十一年九月三十日解散

ロ 家庭薬統制組合昭和二十一年五月七日解散、解散後之に代れる

機關名、家庭薬組合中央會、任所目黒區下目黒一、三八

3、イ 衛生用品統制組合

衛生用品統制組合

日本齒科器械統制組合

齒科部外品統制組合

日本藥工工業統制組合

日本藥品配給株式会社

日本藥業株式会社

日本生藥株式会社

衛生材料株式会社

國家總動員法に基いた統制會社令の廢止前第二十九條ノ二(組織變更)手續によつて改組されたりしとき臨時會合調整法に基く衛生用品統制規則によつた指定統制機關で統制を行ふ

改組認可

日本藥品配給株式会社昭和二十一年九月二十五日 以下三社は昭和二十一年九月三十日

衛生

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

Oct. 22 1946

Public Health & Welfare Section,
GHQ, SCAP

Re: Checkup of control bodies

裏
面
白
紙

157

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

I. Wanted:

1. A list of national level and local level control companies dissolved between Aug 14, 1945 and Sept 30, 1946.

Dental Goods Control Co. Ltd.

Patent Medicine Control Co. Ltd.

2. A statement of the date of dissolution, the authority for the dissolution, and the name and address of the organization, if any, which took the place of the dissolved company.

Dental Goods Control Co. Ltd. was dissolved on Sept 30, 1946.

Patent Medicine Control Co. Ltd. was dissolved on May 7, 1946.

Patent Medicine Union Central Association took the place of Patent Medicine Control Co. Ltd. Location of the Central Association is I-38, Shinomeguro, Meguro-ku, Tokyo.

3. A list of national level and local level control companies which are either:

a. Still in existence are Japan Sanitary Goods Control Union, Japan Medical Instrument Control Union, Minor Drugs & Medicine Control Union, and Japan Artificial Limb Industry Control Union, which are all organized in accordance with the Commerce & Industry Union Law.

b. Converted into commercial companies are Japan Major Drug & Medicine Distribution Co. Ltd., Japan Pharmaceutical Business Co. Ltd. Japan Crude Drug Co. Ltd. Japan Sanitary Material Co. Ltd. and

158

裏
面
白
紙

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

Sanitary Goods Co. Ltd. which all were reorganized in accordance with procedures provided for by Art. 19-2 (Regarding the Change of Organization) of the Control Company Ordinance which is based on the National General Mobilization. The ~~re~~reorganization was ~~effect~~ effected ~~prior~~ prior to the abolition of the Control Company Ordinance. Following reorganization, the abovementioned companies have been designated as control organs by the Government in accordance with the Drug and Medicine Control Regulations that are based on the Provisional Commodities & Materials Adjustment Law. / Reorganization of the Japan Drug & Medicine Distribution Co. Ltd. was officially recognized by the Government on Sept. 25, 1946, while the Japan Pharmaceutical Business Co. Ltd., ~~Japan~~ the Japan Crude Drug Co. Ltd. and, the Sanitary Material Co. Ltd., and the Sanitary Goods Co. Ltd. were officially reorganized on Sept. 30, 1946.

裏
面
白
紙

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

5

Reports are requested as to the present status of these properties:

Firishima National Park	Kagoshima and Miyazaki prefecture
Iso San National Park	Kumamoto and Oita prefecture
Uozu National Park	Ibaraki prefecture
Seto Inland Sea National Park	Izumi, Iwate and Hiroshima prefecture
Mount Fuji National Park	Ishikawa and Tokachi prefectures, Hokkaido
Yoshino Kumano National Park	Nara, Mie and Wakayama prefecture
Chubu-sangoku National Park	Yamanashi, Gifu, Toyama and Niigata prefectures
Yamanashi National Park	Tochigi, Gumma, Fukushima and Niigata prefectures
Mount Fuji National Park	Yamanashi, Chizuoka and Aomori prefectures
Lake Towada National Park	Iwate and Akita prefectures
Mount Fuji National Park	Aburatsubo and Kitami districts, Hokkaido

The "three scenic beauties of Japan":

These three areas have by common consent been chosen by the Japanese people as the most beautiful scenic spots in the country.

Miyajima, "sacred island"	Hiroshima prefecture
Utsunomiya, "heavenly bridge", picturesque sand spit on Miyazu bay	Kyoto prefecture
Seto-shima, "pine-clad islands" an island studded with many picturesque, fanciful shaped islands and gnarled twisted pine trees	Niigata prefecture
Tabatake Valley	Oita prefecture
Mt. Asama	Saitama prefecture
Mt. Norinji	Aichi prefecture
Mt. Fuchi	Wakayama prefecture
Arashiyama, Kyoto	Kyoto prefecture
Yamanashi	Fukui prefecture
Haroto promontory	Kochi prefecture
Mt. Mitake	Yamanashi prefecture
Waisyaku-no-tani gorge	Hiroshima prefecture
Yoshino	Canagawa prefecture
Seihell Matsubara Park	Fukui prefecture
Lake Haruna	Gumma prefecture
Senko Park, Shirakawa	Fukushima prefecture
Montzen Island	Niigata prefecture
Utsunomiya	Kyoto prefecture
Utsunomiya	Kyoto prefecture

裏面白紙

WELFARE MINISTRY
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

St. Keizan
Atago yama
Iwano Park
Kochi Valley
Ise Yamada Reservations
Miyama-san
Tomo-koen
Tsumankyo Gorge
Kotohira Park Kothira
Imoko Valley
Mizuru Park Karatsu

Chiba prefecture
Kyoto prefecture
Kansai prefecture
Kansai prefecture
Mie prefecture
Nagasaki prefecture
Nipponbima Park prefecture
Yamaguchi prefecture
Yamaguchi prefecture
Yamaguchi prefecture
Yamaguchi prefecture

裏
面
白
紙

左記物件に付現狀の報告ありたい。

葛島国立公園 鹿兒島及宮崎兩縣

安蘇山国立公園 熊本及大分兩縣

瀬戸内海国立公園 香川、岡山及廣島諸縣

大嶽山国立公園 北海道石狩及十勝兩地方

吉野、熊野国立公園 奈良、三重及和歌山諸縣

中部山岳国立公園 長野、岐阜、富山及新潟諸縣

日光国立公園 栃木、群馬、福島及新潟諸縣

富士箱根国立公園 山梨、静岡及神奈川諸縣

十和田湖国立公園 青森及秋田兩縣

大山国立公園 北海道、釧路及北見地方

日本三景

石三地境は一般日本人に依り日本に於ける最も美麗なる地として輿論の選びたるものである。

宮島 飯島縣

天橋立

宮津灣に於ける瀨の如き砂地の突出 京都府

松島

多くの瀨の如き珍奇の形の島及節多き松を含む島嶼の點綴する灣 宮城縣

耶馬溪

大分縣

春日山

奈良縣

寶乘寺

愛知縣

那知市

和歌山縣

京都嵐山

京都府

外門

福井縣

室戸岬

高知縣

御嶽山

山梨縣

帝釋の谷溪谷

廣島縣

江之島

神奈川縣

京平松原
榛名湖
白河南港公園
金光山鳥
舞子濱
東山
比叡山
愛宕山
奈良公園
古香落溪谷
伊勢山田神社
高野山
納公園
長門岐
琴平公園
面河溪
唐澤舞鶴公園

福井縣
群島縣
關島縣
宮城縣
兵庫縣
京都府
滋賀縣
京都府
奈良縣
奈良縣
三重縣
和歌山縣
廣島縣
山口縣
香川縣
愛媛縣
福岡縣

厚生省渉務第一〇號

昭和二十二年一月二十一日

厚生省醫務局長

終戦連絡事務局長 殿

監察醫局の設置に関する件

原記の件復讞して昭和二十一年十二月十一日連合軍總司令部から指令があつたが本件實施に關し別紙のとおり連合軍總司令部公衆福祉部の諒解を得たいから可然御取計願いたい。

是て本件について江連合軍總司令部公衆衛生福祉部の關係官と江内交渉所であるから念の爲申し添える。

第6號

一、昭和二十一年十二月十一日總司令部公衆衛生福祉部長よりの厚生省に對する覺書「監察醫事務局の設置に關する件」に基き、別紙の如き「ポツダム宣言受諾に伴い發する命令に關する件」に基く厚生省令」を制定公布するに當り貴官に對し省令案を提出し御了解を求めたい。厚生省令案「死因不明死体の死因調査に關する件」は別紙の通りである。

二、全省令の内容につきまして左の諸點を御了承願いたい。

1、本令を施行する主要都市を東京、大阪、京都、横濱、名古屋、神戸、福岡の七都市とし内東京、大阪、京都、横濱、神戸の各都市は直ちに實施し名古屋市及福岡市については準備の都合上不得止昭和二十二年二月一日より實施する事といたしたい。

2、前記主要都市に於ける本件實施の方法は日本の地方行政機構の現状に鑑み監察醫の事務所は前記主要都市所在の都府縣衛生部内に設置し候案又は解剖部による死因の究極の責任と權限を地方長官に附與し、監察醫は地方長官にれいぞくする實施機關とすること

にいたしたい。

3、指令には監察醫を任命官置すべしとありますが人事竝に豫算の關係上專任の地方技官として任命官置するは一名乃至三名（別紙豫算書の通り）とし他は囑託監察醫として發令する方法をとりたい。

4、監察醫の候案又は解剖を爲すべき死体は指令第三項に種々列記してあるけれども、要するに死因の明かでない死体を對象とするものなだから本令に於ては特に公衆衛生上重要と考えられる傳染病中毒又は災害により死亡した疑ある死体を例示し他は一切死因の明かでない死体として一括この對象とする如き表現方法をとつた。

5、刑事訴訟法第七十六條に規定する司法解剖と本令により行小死体解剖とが犯罪の疑ある死体について競合する場合には可及的に監察醫をして解剖を適當せしめるようにするけれども特別の司法上の必要ある場合には本令による監察醫以外のものがなすこと

がある。然しこの場合でも地方廳と司法當局との連絡を密にし公衆衛生上必要な資料は得るやうに努めたい。

6、死因不明の死体があつた場合には其區域を擔當する警察官はこれを監察醫に報告しなければならぬ

義務を有することとなるけれども本令に於てはこの義務を表面上規定せず實際上の取扱（地方長官の部下警察官に對する訓令）によつて事實上指令にある如き處置をとらしめることとしたい。

尙死因の明かでない死体の總てについて警察官が報告義務を有することとするのは實際問題として無理であるから法規上又は慣例上警察官の立會うものについてののみ報告を命ずることと致したい、覺察第四項についての處置は他の法令との關係上若干研究を要する點があるので本令と別個に後刻其の處置をいたしたい。

6

1. In accordance with the Memorandum to the Welfare Ministry from
 Chief of Public Health and Welfare Section, O.P.S. 444, Subject:
 "Establishment of Medical Examiner Office" dated Dec. 11, 1940, and
 the enactment and the promulgation of "The Welfare Ministerial
 Ordinance concerning the Orders to be issued in consequence of our
 operations of the stated 'examination' as per annex, we will forward
 to you a draft of Ministerial Ordinance, and we would like to get
 your acknowledgment. The said draft of the Welfare Ministerial
 Ordinance "On the Inquiry Death Cause for the Dead Body of unknown
 Death Cause" is as per annex.

ii. Regarding the contents of the said Ministerial Ordinance.

We would like to get your acknowledgment for the following
 items.

1. The principal cities where this Ordinance shall be enforced
 will be seven cities. That is, Tokyo, Osaka, Kyoto, Yokohama, Nagoya,
 Kobe and Fukuoka, and as for each city of Tokyo, Osaka, Kyoto,
 Yokohama and Kobe it shall be enforced immediately, and as for
 Nagoya City as well as Fukuoka City it shall be enforced as from
 Feb. 1, 1941 inevitably for the preparations.

2. The method of enforcing this Ordinance in the principal
 cities mentioned above is that in view of the actual circumstances
 of Japanese local administrative organization, each office of
 medical examiner shall be established in the prefectural health
 divisions of the above main cities and a local governor shall be
 charged with the responsibility as well as authority of inquiring
 death cause by autopsy or dissection and medical examiners shall be
 appointed under subordinate to the local governors.

裏面白紙

3. That the Imperial Japanese Government will establish and maintain a Medical Examiner as mentioned in the memorandum, and, however, desire to take a method in which 1 to 3 persons as technical officials at Local Governments in full time service will be established and maintained, (as per a separate budget paper), and others will be appointed as Medical Examiners in part time service on grounds of personnel affairs and budget.

4. Although a corpse to be performed a Medical Examination or an autopsy by a Medical Examiner are enumerated variously under Paragraph 3 of the memorandum, the corpse due to some unknown cause, in short, shall be objective. Therefore, in this ordinance the following expression is made: Bodies suspected of death by infectious diseases, poisoning or violence, and to be considered important to public health are illustrated, and all others shall be the object as corpses due to unknown cause as above.

5. In case a judicial autopsy prescribed in Article 176 of the Code of Criminal Procedure conflicts with an autopsy under this ordinance concerning a body suspected of crime, that a Medical Examiner, as far as possible, is to take charge of autopsy shall be fixed. However, in case of a specially judicial necessity, a person except for a Medical Examiner under this ordinance may perform it. However, in this occasion a local government will have a close connection with the judicial authorities and will make efforts to obtain materials required for public health.

6. In case a body unknown cause to death is discovered, a police in charge of that area will become to have duties to report it to a Medical Examiner. However, this duty is not written clearly in this ordinance, we desire to set a police to take a procedure as above-mentioned, in practice, (by instructions to police under a local ordinance).

and, it is, in practice, difficult to find that in reference to all bodies unknown causes of death police have notice of their reports. We will stress that police shall report about causes of death which police attend under laws and regulations or following a custom.

7. There are some points to study about disposal concerning paragraph 4 of the ^{memorandum} ~~ordinance~~ from the relation to other laws and regulations, therefore we will take the measures besides this ordinance.

Re: the investigation of the cause of death on
Corpses whose Cause of Death is Unknown.

Art.1. The object of this Ministerial Ordinance shall
be to elucidate the cause of death on corpses whose cause of
death is unknown for the sake of the elevation of public
sanitation.

Art.2. A local governor shall make police doctor examine
the following corpses to elucidate the cause of death, and he
may make the said doctor enforce autopsy in case the cause of
death is not known even by the said examination.

1. Dubious dead body whose death was caused by infectious
disease, poisoning or accident.

2. Other dead bodies whose cause of death is unknown.

In case autopsy is enforced according to the preceding
paragraph, care should be taken courtesy should not be lost,
and in case there is a bereaved family, this must be informed
to it.

Art.3. As for the examination or autopsy of dead bodies
unnaturally killed or dubious of being unnaturally killed, a
local Governor shall be unable to enforce it unless the inquest
according to the provisions of Article 152 of Criminal Code of
Legal Procedure is over.

Art.4. In case a local Governor makes a police doctor
enforce examination or autopsy of dead bodies according to the
provisions of Article 2, he must make the said doctor draw up
a record of examination or autopsy without delay.

The above-mentioned record must be kept for five years
by a local governor.

Art. 3. A local Governor must draw up a report of investi-
gation on the cause of death according to the result of examina-
tion or autopsy of the previous month in accordance with the
provision of Article 2 by the 10th of every month, and submit
it to local Military Government and to the Minister of Welfare.

Supplementary Provisions

This Ministerial Ordinance shall be put in force on and
after the 15th of November, 1940.

This Ministerial Ordinance shall be put in force in Tokyo
Metropolis, and cities of Yokohama, Nagoya, Kyoto, Osaka, Kobe
and Fukuoka for the time being.

1. Expense required for investigations into the cause of death.

According to the order issued by G.H.C. SCAP, it is necessary to clear up the cause of death of persons accidentally killed and the dead in journey, etc., and to make utmost efforts for public health and promoting of public welfare to fix both measures for removal of the cause of such death and prevention of the same. Therefore this expense is required.

Article & Clause	Amount	Items of Calculation.			Remarks
		Classification	Required amount in additional budget for 1946-1947. (For 4 months.)	Total (for the general fiscal year.)	
Extraordinary part	yen				
General expense					
Temporary various grants	1,157,000	Grant for facilities of investigation into autopsy	867,800	263,780	Stated in the separate paper (1) about the item.
		Grant to entrust autopsy.	168,000	504,000	Stated in the separate paper (2) about the item.
		Grant of miscellaneous expenses for medical examination.	121,200	363,600	Stated in the separate paper (3) about the item.

裏面白紙

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

(1) Items of grant for facilities for investigation into the South-Sea.

Classification	Number	Unit-price	Required amount in Additional Budget. (for 4 months)	Total (in the general fiscal year).	Remarks
Salary			58,400	116,800	
Secretaries					
3rd class.	7	6,760	47,320	94,640	
Technical officials.			39,100	78,200	
1st class.	7	13,600	95,200	190,400	
2nd class.	3	6,300	19,500	39,000	
Allowance					
Respectory					
service-places					
allowance.			16,500	33,000	
Various wage pay for employees	101	4,500	454,500	909,000	
Total			627,600	1,255,200	
Grant, a quarter of the above.			66,900	133,800	
Office expense			816,993	1,633,986	
General	17	900	15,300	30,600	
	101	780	78,780	157,560	
Special			779,633	1,559,266	
Total			867,893	1,735,786	

裏面白紙

(1) Items of special office expense.

	quantities								Unit-price	Amount	Required amount in additional budget: (Grant one third of the left).	Total (in the general fiscal year).	Remarks.
	Tokyo Metro-polis	Osaka city	Kyoto city	Nagoya city	Nobe city	Fuku-oka city	Yoko-hama city	Total					
Purchasing expense of automobiles.	2	2	1	1	1	1	1	9	250,000	2,250,000	750,000		
Instruments for Medical examination.	3	2	2	2	2	2	2	16	1,500	24,000	8,000		
Fixtures for Medical examination.	34	24	12	13	12	12	12	118	550	64,900	21,633		
Total										2,338,900	779,633		

(2) Items of Grant to entrust autopsy.

Classification	Tokyo Metro-polis	Osaka city	Kyoto city	Nagoya city	Nobe city	Fuku-oka city	Yoko-hama city	Total	The left for 4 months.	Unit-price	Amount	Grant half of the left.	Remarks.
	per-sons	per-sons	per-sons	per-sons	per-sons	per-sons	per-sons	per-sons	persons	yen	yen	yen	Required amount in additional budget. For the general fiscal year.
Grant	170	150	20	20	20	20	20	420	1,680 (5,040)	200 (200)	336,000 (1,008,000)	168,000 (504,000)	

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

裏面白紙

(3) Item of grant of miscellaneous expenses for medical examination

Classification	Tokyo- Metropolis bodies	Osaka city bodies	Kyoto city bodies	Nagoya city bodies	Kobe city bodies	Fuku- oka city bodies	Yokohama city bodies	Total	The lift for 4 months bodies	Unit- price yen	Amount yen	Remarks
Miscellaneous expense	400	200	20	80	80	80	80	1,320	40,40	30	121,600	Amount required in additional budget for the general fiscal year
									12,120	30	363,600	

The Table of Assignment of Officials

	Secretary		Technical Official		Employee	Worker		Total
	2nd cl.	3rd cl.	2nd cl.	3rd cl.	at office	chauf- four	Worker	
Tokyo Metropolis		1	1	2	12	9	9	34
Osaka City		1	1	1	9	6	6	24
Nagoya city		1	1		6	2	2	12
Kyoto City		1	1		6	2	2	12
Yokohama City		1	1		6	2	2	12
Kobe city		1	1		6	2	2	12
Fukuoka city		1	1		6	2	2	12
Total		7	7	3	51	25	25	118

裏面白紙

60
22. 4. 24

KT. No 179
104

GENERAL HEADQUARTERS OF THE COMMONWEALTH
FOR THE MALAYA STATES.
From : Central Liaison Office, Tokyo.
Subject: Inventory and Photographs of Looted Automobiles
Exempted from Storage.

... 24/4/47 5 April 1947

2. References:

- a. COM Memorandum No 451(25 Oct 46)CPC/TF (SCAPIN-1322), subject: "Inventory of Looted Vehicles."
- b. COM Memorandum No 451(25 Oct 46)CPC/TF (SCAPIN-1322), subject: "Use of Looted Vehicles for Official Business of the Japanese Government."
- c. U.S.G. Memorandum No. 622(M) dated 23 November 1946, subject: "Inventory of Looted Vehicles Exempted from Storage for Official Business of Japanese Central Government."
- d. U.S.G. Memorandum No. 641(M) dated 4 December 1946, subject: "Inventory of Looted Vehicles Exempted from Storage for Official Business of Japanese Central Government."
- e. U.S.G. Memorandum No. 673(M) dated 15 December 1946, subject as above.

2. Inventory (in quadruplicate) and photographs (in triplicate) of one (1) Japanese looted automobile which was authorized to be exempted from storage for the Takada National Hospital under the jurisdiction of the Ministry of Welfare are submitted herewith.

3. The same Ministry, however, reports to this Office that this automobile is not in the custody of the above-mentioned hospital, because it was, by mistake, sent for storage to the Ministry's warehouse, and listed as No. 17 on page two (2) of the "Catalogue of Looted Cars Stored in Tokyo Agricultural University's Warehouse, Atsugi, Tokyo" submitted by the same Ministry on 20 November 1946.

YMY (M) RESIDENT:

(Y. Nakano)
Chief of Liaison Section,
Central Liaison Office.

裏面白紙

Enclosures: Inventory and photographs as
indicated in Para. 2. above.

裏
面
白
紙

連合國最高司令部宛 東京中央連絡事務局宛

保管を解除されたる戦利品自動車目録及
写真の件

C、L、O 第二四三八（R P） 一九四七、四、五

一、参照

イ、SCAP 覚書 AG 四五—（一九四六、一〇、二五）C P C / P

P（SCAP IN I—二九二）「戦利品車輛目録」の件

ロ、SCAP 覚書 AG 四五—（一九四六、一〇、二八）C P C / P

P（SCAP IN I—二九七）「日本政府に依る戦利品車輛公務使

用の件」

ハ、C、L、O 覚書第六二二三（R P）一九四六年十一月二十三日

附「日本中央官廳公務の爲保管を解除せられたる戦利品車輛目録

の件」

ニ、O、L、O 覚書第六七五二（R P）一九四六年十二月十九日附

上記の件

第 3 號

二、厚生省所管高田国立病院使用として保管解除を許されたる残余戦利
品自動車の目録（四通）及写真（三通）を提出する。

然し同省の本局に報ずる所に依れば右自動車は上記病院保管のもの
に非ず即右は誤つて世田谷倉庫に保管の爲送附せられ且内務省より
一九四六年十一月二十二日提出「東京世田谷、東京農業大学倉庫保
管戦利品車輛目録」中第二頁第十七号に表示ありと。

總裁代 中央連絡事務局 渉外課長

T・勝部

同封、上記第二項記載目録及写真

TO : GENERAL HEADQUARTERS OF THE SUPPLY COMMANDER
FOR THE ALLIED POWERS.

FROM : Central Liaison Office, Tokyo.

SUBJECT: Yamamoto Lever Hospital.

C.L.O. No. 2952 (HP)

18 April 1947

1. Reference: Memorandum of Civil Property Custodian,
File 595 (13 Jan 1947) CPC/FP, subject as above.

2. The Welfare Ministry reports on the subject hospital
as follows:

a. The "Yamamoto Lever Hospital in the Kobe Area",
as referred to in paragraph 1 of the reference memo-
randum, is believed to be Yamamoto Leishan Hospital
in Yamato, not Kobe.

b. The said hospital, founded by Miss Right (British),
was engaged in the work of relieving leprosy for many
years. With the development of the Japanese social
work and the attainment of the desired end of the said
institution, it was decided to dissolve the organiza-
tion at the meeting of its board of trustees on 22
January 1941, and on 24 May 1941 Mrs. Hanae Right, M.S.
Kinoshita, Seiichi Kinoshita, Yuzuru Kinoshita and Takuyuki Kinoshita
were elected as liquidators in compliance with article
65 of the Civil Code. The requests of Right and Kinoshita
for resignation were granted, because the former was al-
ready abroad and the latter was outside Yamato Prefec-
ture. As Kinoshita resigned in 1942, the present liquidators
are Kinoshita and Kinoshita.

c. On 7 December 1941, the liquidation of this founda-
tional juridical person was in force and liquidation
procedure was continued.

d. The disposition of the principal property is as follows:

(1) 200,000 of the endowment fund was spent to build
a hall in the ground of Yusaku Kinoshita (Yusaku Kinoshita
Association), which was afterwards contributed to the
Government.

(2) 270,000 of the endowment fund was contributed to
Leprosy Prevention Association, foundations, juridical
person.

(3) 250,000 of the endowment fund was given to the
staff and employees of the subject hospital as a
bonus, 220,000 of which was given to Miss Right.

原簿
第
一
冊
第
一
頁

裏
面
白
紙

(4) The remainder of the endowment fund was transferred to Finance Bureau in Kyushu District of Japan Daikokai (Japan Episcopal Church).

(5) Land and buildings belonging to the subject hospital were contributed to Leprosy Prevention Association.

(6) Proceeds from the sale of real estate at Kuruzawa was given to Miss Kight.

(7) The remainder of the monetary gift granted by Express Company was added to the monetary gift kept in the custody of the Kyushu Sanatorium.

(8) Quarters for personnel of the subject Leprosy Hospital (former express' quarters) was decided to be removed for use as a ~~sanatorium~~ house for the keeper of the charnel-house, but as this quarters had been frequented by patients it was destroyed, and only the roof and tiles thereof were used for the building materials of the nursery for non-infected children. A part of existing house was appropriated as quarters for the keeper of charnel-house.

e. In memory of Miss Sidel, the Leprosy Prevention Association established a special account of the donation referred to in paragraph 2d(5), above, with which it maintains the garden of Sidel Memorial Hall, established the nursery for non-infected children, and held memorial services for Miss Sidel. The said Association continued to control Sidel Memorial Hall and administer the said nursery. In April 1944, the said nursery was transferred to the Government. Procedures of the transfer of the building is not yet finished.

f. In July 1944 the said Association established a Control Committee concerning the commemorative work, the purpose of which was to maintain and control the Memorial Hall and to publish commemorative works on Miss Sidel's achievements in leprosy relief work in Japan. At the beginning of March 1947 the said Committee held memorial services for her and began to collect materials to publish her biography.

g. Concerning the transaction carried out by Mr. E.S. Kinnes with the local Japanese police at the outbreak of the war, FUJITA, representative of liquidators (No. 55 Shiga-cho Kuramoto City), said that he knew nothing about it. It is presumed that "the construction of a school building" refers to the nursery for non-infected children referred to in paragraph 2d(5), above.

FOR THE PRESIDENT:

(K. ASAKI)
Director of General Affairs
Central Liaison Office.

Enclosure: Sketch of the ground and buildings of the former "Eisher" Hospital.

裏面白紙

熊本癩病院の件

C. L. O 第二九〇三号 (R P)

昭和二十二年四月十九日

一、参考 民間財産整理委員会に関する覚書

般込〇九五 (昭和二十二年一月十日) 標題上記の如し

二、厚生省は標記の病院に關し左の如く報告した

イ、参考覚書第一節の「神戸地区の熊本癩病院」は神戸でなく熊本の熊本かいしゆん病院であると思はれる。

ロ、リーデル曼 (英人) により設立されたも右病院は多年癩患者救済事業に従事せり、日本の社会事業の発展と共に、上記施設は所期の目的達成せるにより昭和十六年一月三十一日、管理委員会に於て組織の解体を決議せり。同年五月二十四日エダ、カナ、ライトロ、Rキイニーズ、ふくが、れいじゆ、うえが、ゆ

第
五
号

る、はちすか、のぶゆき、は民法第六十八條により清算人に選ばれたり。ライト及びはちすかの辞任願いは許可されたり。前者は既に外地にあり、後者は熊本縣外にありし爲である。昭和十七年キイニーズ辞任し現在の清算人はふくが、とうえが、の兩人である。

ハ、昭和十六年十二月七日、此の財団法人の清算が行はれ、清算

手續が續行せられた。

ニ、^三寄附資金の^六六万円は九州療養所 (九州サナトリウム) の土地に病室を建造する爲に覆用せられ、この病院は後で政府に寄附された。

(2) 寄附資金の中、七万円は財団法人癩予防協会に寄附された。

(3) 寄附資金の中五万円は標記病院の職員、雇傭人にボーナスとして與えられ、その中三万円はライト嬢に與えられた。

(4) 寄附資金の残額は日本聖公会 (日本基督教會) の九州地方財務部に移轉された。

- (5) 標記病院に属せる土地建物は、賴子防協会に寄附された。
 - (6) 畦井沢の不動産の賣上金は、ライト嬢に與えられた。
 - (7) 皇太后陛下御下賜の一時金の残額は九州サナトリウム保管中の一時賜金に合せられた。
 - (8) 標記病院職員の宿舍（以前の看護婦宿舍）は納骨堂保管者の住居として移轉さるべく決定されたが、該宿舍は患者の屢々訪れる所により破壊せられ、その中屋根とタイルのみ、未感染兒童の託兒所建造の資材として使用された。礼拝堂の一部は納骨堂保管者の宿所として用いられた。
- （注）
 リーデル嬢を記念する爲に賴子防協会上記第二節（イ）に関する寄附金中、特別約定を創設し、それに依り、リーデル記念堂の庭園を修理し、未感染兒童の託兒所を設立し、リーデル嬢追悼会を施行した。該協会はリーデル記念堂の管理と託兒所の経営を續け、昭和二十一年四月該託兒所は政府の手に移された。建造物移轉の手續は未だ終了せず。
- （ホ）
 昭和二十一年七月該協会は記念事業に関する管理委員会を設立

した、その目的は記念堂の維持管理と、リーデル嬢の日本の療養事業に於ける功績をたゞ記念出版をなす事である。昭和二十二年三月始、上記委員会は彼女の追悼会を行い、その傳記刊行の爲材料の蒐集を開始した。

ト、戦争勃発当時、日本地方官憲の手に依り、日・キイニーズ氏の行つた事務に關しては清算人の代表ふくが、（熊本市しをや町五五番地）は何等周知を旨申述べた。

「校舎の建造」とは上記第十條、同の未感染兒童の託兒所であると推定される。

局長代理
 終戦連絡中央事務局總務課長
 朝 飼

出
 厚南のかいしゆん病院の土地建物の略図を封入

SI No. 37.

May 1, 1947.

Japanese Government

SUPREME COMMANDER OF THE ALLIED POWERS

Re: Announcement of Result of Investigation of
Japan's nutrition condition.

Acting on SCAP Memorandum AG 430.2, Dec. 11, 1945, the
Government, in November 1946, conducted the investigation
of nutrition condition of the people living in Tokyo-to
and other 28 prefectures. The Government is so anxious to
publicize the result of investigation as shown in the
annexed paper. Approval will be much appreciated.

裏
面
白
紙

Tables of Investigation into Revelation of
Physical Symptoms

Nutrition Section, Public Health
Bureau, Ministry of Welfare.

The investigation carried out in
Nov., 1940.

I. Table of Addition and Reduction of
the Weight of Body.

Dis- tricts	Sexu- ality	Reduction		Addition			Balance		Total	
		Real number persons	Rate %	Average kg.	Real number persons	Rate %	Average kg.	Real number persons		Rate %
* I	male	3,904	16.9	6.1	4,517	14.5	4.4	21,332	69.6	31,153
nine	Female	2,486	19.7	6.2	7,185	16.6	5.4	27,423	63.7	43,154
	Total	13,770	18.5	6.1	11,702	15.5	5.0	48,865	65.7	74,537
* II	Male	3,039	11.2	6.4	6,030	17.6	5.2	24,311	71.2	34,173
Farm Vil- lages in 27 prefec- tures	Female	2,161	13.5	6.2	7,650	20.0	5.6	25,338	66.5	34,129
	Total	5,200	12.4	6.3	13,680	18.9	5.5	49,649	68.7	72,302

* I. Sapporo, Sendai, Tokio, Kanagawa, Nagoya, Osaka, Kure,
Matsuyama, Fukuoka.

* II. Aomori, Iwate, Miyagi, Ibaraki, Tochigi, Gumma,
Saitama, Chiba, Tokio, Kanagawa, Shizuoka, Aichi, Toyama,
Ishikawa, Fukui, Shiga, Kyoto, Osaka, Hyogo, Wakayama, Oka-
yama, Hiroshima, Ehime, Kochi, Fukuoka, Saga, Fuzumoto.

裏
面
白
紙

Dis- tricts	Sex ality	Reduction			Addition			Balance		Total Real Number
		Real number	Rate	Aver- age	Real number	Rate	Aver- age	Real number	Rate	
		persons	%	kg.	persons	%	kg.	persons	%	persons
Oper- atives in Tokio Railway Bureau	Male	339	30.6	7.5	50	7.4	4.8	404	62.0	751
	Fe- male	91	25.2 28.4	5.3	71	16.7 17.5	5.1	109	53.1	351
	Total	330	28.1 27.0	6.9	121	11.3	5.0	503	58.8	1,117
Hayato- mura, a fishing village in Mi- yagi Pref.	Male	19	3.6	3.5	190	32.0	5.0	232	54.4	300
	Fe- male	18	2.7	3.1	213	42.0	5.5	230	55.3	307
	Total	37	3.2	3.4	403	42.0	5.3	462	55.6	607
District full of rachitis in To- yama.	Male	111	14.5	5.8	72	11.7	5.1	454	71.2	614
	Fe- male	154	18.7	5.5	136	16.8	6.7	558	68.3	712
	Total	265	17.7	5.6	215	14.1	6.1	1,043	69.2	1,326
Ideshiro- mura dis- trict full of tubercu- losis in Ishikawa	Male	17	5.9	6.9	110	36.9	4.7	171	57.4	230
	Female	16	5.2	5.9	124	40.3	5.8	169	54.5	239
	Total	33	5.4	6.4	234	38.6	5.3	339	55.9	469
Yunoo- mura dis- trict with high death rate of children Fukui	Male	30	6.3	6.4	86	24.6	5.1	242	69.1	350
	Female	50	12.7 12.5	6.3	101	25.8 25.6	5.0	241	61.5 61.6	347
	Total	77	9.7 9.6	6.4	187	25.2 25.1	5.6	483	65.7 61.6	742
Wana-mura district living or Fe- sweet po- tatoes, in Ehime	Male	17	2.8	7.3	27	13.7	6.1	208	52.5	227
	Female	45	15.5 15.6	5.9	41	14.1 14.7	5.4	205	70.4 73.3	281
	Total	62	11.4 11.2	6.5	68	12.5 13.9	5.7	413	71.1 75.9	508

裏面白紙

Distomatosis hepatis

district full of distomatosis, Okayama	Male	187	18.3	8.0	102	10.5	4.2	573	70.2	968
	Female	170	17.1	7.0	140	14.1	5.8	883	60.8	793
	Total	357	17.7 17.7	7.5	242	12.3 12.3	5.1	1,362	65.5 65.5	1,361

District	Sex	Reduction			Addition			Balance		Total
		Real number	Rate	Average	Real number	Rate	Average	Real number	Rate	
		persons	%	kg. persons	%	kg. persons	%	persons	%	persons
Eibai Coal-mine, Hokkaido	Male	81	7.1	5.6	286	21.6	5.1	742	70.7	1,009
	Female	86	9.4	4.7	239	25.1	5.0	600	65.5	716
	Total	167	8.2 8.2	5.1	525	23.2 23.2	5.5	1,342	68.1 68.1	1,725
Kosaka Mine, Akita Pref.	Male	96	5.6	5.2	173	17.3	5.3	741	74.1	1,000
	Female	98	9.5	5.0	237	26.2	5.1	631	61.3	751
	Total	172	7.0	5.1	430	21.7	5.2	1,372	69.2	1,761
Joban Coal-mine, Fukushima Pref.	Male	91	5.9	5.1	220	22.4	4.3	702	71.6	780
	Female	75	7.6	4.2	257	26.0	5.6	657	66.4	729
	Total	153	6.8	4.6	477	24.2	5.0	1,359	69.0	1,509
Mitsui Coal-mine, Fukuoka Pref.	Male	88	9.0	4.5	155	15.6	4.8	748	75.4	891
	Female	151	15.7	5.4	152	15.9	5.4	675	70.5 70.5	853
	Total	239	11.5	5.1	307	15.7	5.1	1,423	73.0	1,744
Total average of the four mines.	Male	314	7.8	5.1	774	19.2 19.2	4.9	2,933	72.9	4,021
	Female	356	10.0	4.9	896	23.3	5.5	2,563	66.7	3,544
	Total	670	8.9	5.5	1,670	21.2	5.2	5,416	69.9	7,565

裏面白紙

The reduction and addition of the weight of body are those that exceed 10% of the standard.

Table of the Revelation of Physical Symptoms

(No. 1)

Symptoms	Districts Sexuality	Total of 9 cities			Total of Para-villages in 27 prefectures			Operatives in Tokio Railway Bureau.			
		Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total	
	Investigated persons	43,691		75,179	34,173		33,781	72,954	781	591	1,143
Anemia	Symptom holders Rate	1,150 6.4 3.1	2,139 4.9	4,037 5.4	903 2.6	1,385 2.8	1,988 2.7	25 3.2	10 2.0	55 3.1	
Hypertensive Keratosis	Symptom holders Rate	526 1.8	957 2.2	1,525 2.0	628 1.8	1,048 2.7	1,674 2.3	2 0.3	2 0.4	4 0.4	
Xerosis of Cornea	Symptom holders Rate	24 0.1	19 0.0	43 0.1	47 0.1	48 0.1	95 0.1	0 -	0 -	0 -	
Chalazion	Symptom holders Rate	2,550 7.5	2,261 5.1	4,611 6.1	5,268 15.7	4,958 12.8	10,324 14.2	60 6.8	36 10.0	96 8.4	
Glossitis & Stomatitis	Symptom holders Rate	419 1.3	641 1.9	1,060 1.4	573 1.7	478 1.2	1,051 1.4	4 0.5	0 -	4 0.4	
Loss of tendinous reflexion	Symptom holders Rate	2,150 6.7	3,573 8.1	5,678 7.6	1,912 5.6	2,460 6.3	4,372 6.0	62 7.9	30 10.0	33 3.3	
Edema	Symptom holders Rate	627 1.9	1,027 2.3	1,614 2.1	231 0.6	655 1.7	856 1.2	8 1.0	5 1.4	13 1.1	

裏面白紙

Chronic diarrhoea	Symptom holders	361	400	761	203	178	381	5	2	7
	Rate	1.0	0.9	0.9	0.3	0.5	0.6	0.2	0.3	0.6
<i>Teshiro vill.</i>										
	Districts	Miyata-sura, a fishing village Miyagi Pref.			District full of rachitis, Toyama Pref.			District full of Tuberculosis, Ishikawa Pref.		
Symptoms	Sexuality	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total
	Investigated persons	800	615	1,415	674	857	1,531	290	317	607
Anæmia	Symptom holders	11	11	22	73	67	137	0	0	0
	Rate	1.2	2.1	2.2	10.4	7.8	9.1	-	-	-
<i>Hyperkeratosis</i>	Symptom holders	0	0	0	13	10	23	0	0	0
	Rate	-	-	-	1.9	1.2	1.5	-	-	-
Xerosis of Cornea	Symptom holders	1	1	2	2	2	4	1	4	5
	Rate	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3	1.3	0.8
<i>Chelosis</i>	Symptom holders	96	112	208	20	17	37	39	19	58
	Rate	12.2	21.7	20.5	3.0	2.0	2.4	13.1	6.1	9.5
Glossitis and stomatitis	Symptom holders	0	0	0	15	6	21	0	0	0
	Rate	-	-	-	2.2	0.1	1.4	-	-	-
Loss of tendonous reflection	Symptom holders	71	100	171	74	99	173	30	53	83
	Rate	14.2	19.4	16.8	11.0	11.6	11.3	10.1	17.3	13.9
<i>Edema</i>	Symptom holders	4	15	19	10	37	47	1	1	2
	Rate	0.8	2.9	1.9	1.5	4.5	3.1	0.3	0.3	0.3
Chronic diarrhoea	Symptom holders	0	0	0	5	4	9	6	5	11
	Rate	-	-	-	0.7	0.5	0.6	2.0	1.6	2.3

裏面白紙

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

Dietsomatosis hepatis

Symptoms	Districts	Tando-wara, district with high death rate of children, Fukui Pref.			Hama-wara, district, living on sweet potatoes, Niiga Pref.			District full of distomatosis patients, Okayama Pref.			
		Sexually	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total
	Investigated persons		350	410	760	232	320	552	322	1,022	2,000
Anaemia	Symptom holders		12	35	47	0	1	1	52	57	114
	Rate		3.4	8.5	6.5	0.0	0.3	0.5	5.4	6.0	5.7
<i>Hypertension</i>	Symptom holders		1	0	1	0	0	0	44	55	100
	Rate		0.3	-	0.1	-	-	-	4.6	5.4	5.0
Xerosis of Cornea	Symptom holders		0	2	2	0	0	0	1	0	1
Keratomalacia	Rate		-	0.5	0.3	-	-	-	0.1	-	0.1
<i>Chalkman</i>	Symptom holders		58	84	142	5	4	10	125	210	395
	Rate		^{16.6} 17.5	20.5	18.7	2.1	1.3	1.8	19.1	20.3	19.8
Glossitis & Stomatitis	Symptom holders		5	14	19	0	0	0	11	8	19
	Rate		1.4	3.4	2.5	-	-	-	1.1	0.8	1.0
Loss of tendinous reflexion	Symptom holders		29	^{4.7} 4	76	17	24	41	72	53	125
	Rate		8.3	^{11.5} 11.4	10.0	^{6.7} 6.6	^{7.0} 7.3	7.4	7.4	5.1	6.3
Oedema	Symptom holders		2	17	19	1	0	1	1	5	6
	Rate		0.6	4.1	2.5	0.4	-	0.2	0.1	^{2.3} 2.5	0.2
Chronic diarrhoea	Symptom holders		5	17	22	5	1	4	12	8	21
	Rate		1.4	4.1	^{2.9} 2.6	1.2	0.3	0.7	1.2	0.9	1.1

裏面白紙

Symptoms	Districts	Ibetsu Coal-mine, Hokkaido			Kosaka Mine, Akita Pref.			Johan Coal-mine, Fukushima Pref.			
		Sexuality	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total
	Investi- gated		1,049	951	2,000	1,000	1,000	2,000	800	1,000	2,000
An- aemia	Symptom holders		1	1	2	11	9	20	135	111	246
	Rate		0.1	0.1	0.1	1.1	0.9	1.0	13.6	10.8	12.3
<i>Hyper-</i> <i>keratosis</i>	Symptom holders		70	132	202	2	1	3	0	1	1
	Rate		6.7	13.9	10.1	0.2	0.1	0.2	-	0.1	0.1
Xerosis of Cor- nea, Ery- thema	Symptom holders		0	0	0	0	2	2	0	0	0
	Rate		-	-	-	-	0.2	0.1	-	-	-
<i>Chilous</i>	Symptom holders		62	34	96	10	22	32	95	98	194
	Rate		4.3	3.6	3.8	1.0	2.2	2.0	9.7	9.7	9.7
Glossis and stom- atitis	Symptom holders		4	9	13	1	2	3	1	0	1
	Rate		0.4	0.9	0.7	0.1	0.2	0.2	0.1	-	0.1
Loss of tendon- flexion	Symptom holders		31	50	81	133	156	289	5	13	18
	Rate		3.0	5.3	4.5	13.3	15.6	14.5	0.5	1.3	0.9
<i>e</i> Oedema	Symptom holders		0	0	0	5	32	37	1	7	8
	Rate		-	-	-	0.5	3.2	1.9	0.1	0.7	0.4
Chronic diar- rhoea	Symptom holders		8	4	12	4	2	6	5	3	8
	Rate		0.8	0.4	0.6	0.4	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3

裏面白紙

Symptoms	Sexuality	Districts Mitsui Coal-mine, Fukuoka Prefecture			Total ^{and} or average of the four mines		
		Male	Female	Total	Male	Female	Total
Investi- gated persons		892	1,008	2,000	4,021	3,979	5,000
An- emia	Symptom holders	²¹³ 213	267	480	350	308	748
	Rate	21.5	26.5	24.0	9.0	9.6	9.4
<i>Hyper-keratosis</i>	Symptom holders	2	1	3	74	135	209
	Rate	0.2	0.1	0.2	1.8	3.4	2.6
Xerosis of Cornea Kerato- alacia	Symptom holders	1	0	1	1	2	3
	Rate	0.1	-	0.1	0.0	0.1	0.0
<i>Cheilosis</i>	Symptom holders	154	142	306	319	297	616
	Rate	16.5	14.1	15.3	7.9	7.5	7.7
Glossitis & stom- atitis	Symptom holders	16	28	44	22	39	61
	Rate	1.6	2.8	2.2	0.5	1.0	0.8
Loss of tendon- ious re- flexion	Symptom holders	91	111	202	230	359	580
	Rate	9.2	11.0	10.1	⁵⁷ 5.6	8.3	7.0
Oedema	Symptom holders	8	29	34	11	68	79
	Rate	^{0.8} 5.6	2.9	2.7	0.3	1.7	^{1.0} 0.8
Chronic diar- rhoea	Symptom holders	10	6	16	24	15	39
	Rate	1.0	0.6	0.8	0.6	0.4	0.5

- 8x -

191

裏
面
白
紙

Tables of the Revelation of Physical Symptoms

(No. 2)

Symptoms	Districts	Total of a cities			Total of farms vil- lages in 27 prefed- tures			Operatives in Tokio Railway Bureau		
		Sexuality	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female
Slow Pulse	Investi- gated persons	15,949	28,444	44,315	18,489	24,415	44,904	682	237	917
	Symptom holders	351	262	645	637	348	1,037	12	1	13
	Rate	2.4	0.9	1.5	3.5	1.4	2.3	2.6	1.4	2.1
Menstrual delay or menstrua- sig <i>Delayed men- struation or amenorrhoea</i>	Investi- gated persons		15,157			11,621			155	
	Symptom holders		2,679			1,354			23	
	Rate		17.7			11.7			16.8	
Incomp- lete excre of mother's milk <i>Deficient lactation</i>	Investig- ated persons		1,738			1,426			5	
	Symptom holders		499			271			1	
	Rate		25.1			19.0			20.0	
Abortiva- ness of bone <i>Mal-growth of bone</i>	Investig- ated persons	7,924	7,967	15,893		6,326	12,430	44	67	111
	Symptom holders	44	37	81	6,104	25	21	49	0	0
	Rate	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.4	-	-	-
Total of the investi- gated persons		51,198	43,991	75,179	34,173	38,734	72,907	721	361	1,149
The healthy	Real number	24,247	31,075	55,322		27,915	52,727	626	270	896
	Rate	77.7	70.6	73.6	24,812	72.6	72.1	72.3	80.2	74.5
Symptom holders	Real number	6,941	12,916	19,857	9,361		20,180	156	91	246
	Rate	22.3	29.4	26.4	27.4	27.9	27.7	19.5	25.2	21.5

裏面白紙

Symptom	Districts	Miyato-sura, a fishing village, Miyagi Pref.			District full of rachitis, Toyama Pref.			Feshire-sura, district full of Tuberculosis, Ishikawa Pref.		
		Sexuality	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female
Slow Pulse <i>Bradycardia</i>	Investigated persons	249	313	562	410	802	1,012	193	201	414
	Symptom holders	7	1	8	12	4	16	2	1	3
	Rate	2.8	0.3	1.4	2.9	0.7	1.6	1.0	0.5	0.7
Menstrual delay or Menostasis <i>Delayed menstruation</i>	Investigated persons		153			306			114	
	Symptom holders		33			31			8	
	Rate		21.6			10.1			7.0	
Incomplete coze of mother's milk <i>Insufficient lactation</i>	Investigated persons		16			40			11	
	Symptom holders		1			17			2	
	Rate		6.3			42.5			18.2	
Abortiveness of bone <i>Mal growth of bone</i>	Investigated persons	123	86	211	150	142	292	53	54	107
	Symptom holders	0	0	0	16	2	18	0	0	0
	Rate	-	-	-	10.7	1.4	6.2	-	-	-
Total of the investigated persons		500	515	1,015	674	857	1,531	298	314	612
Symptom The healthy	Real number	325	239	564	402	622	1,104	204	222	446
	Rate	65.0	46.4	55.5	71.5	72.6	72.1	75.2	70.7	72.9
Symptom holders	Real number	175	276	451	192	235	427	74	32	66
	Rate	35.0	53.6	44.4	28.5	27.4	27.8	24.1	24.3	27.1

裏面白紙

Distomatosis hepatis

Symptoms	Districts	Yunoo-mura, district with high death rate of children, Fukui pref.			Maana-mura, district living on sweet potatoes, Ehime Pref.			District full of distoma-hepatien Okazaki Pref.		
		Sexuality	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female
Slow	Investigated persons	220	237	507	131	160	291	512	672	7,234
Pulse	Symptom holders	0	0	0	2	0	2	44	21	65
<i>Bradycardia</i>	Rate	-	-	-	1.5	-	0.7	7.2	3.1	5.1
Menstrual delay or	Investigated persons		133			72			32	
menstrual	Symptom holders		13			15			105	34
<i>Asia delayed menstruation</i>	Rate		9.8			20.8			10.5	
Intermittent	Investigated persons		8			13			43	
coxae of mother's	Symptom holders		0			0			8	
<i>Deficient lactation</i>	Rate		-			-			11.6	
Abortiveness of bone	Investigated persons	50	55	105	43	68	116	149	142	291
<i>Malnutrition of bone</i>	Symptom holders	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Rate	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Total of the investigated persons		350	410	760	252	303	552	968	1,032	2,000
The healthy	Real number	253	410	504	221	255	476	607	633	1,215
	Rate	73.7	60.0	66.3	87.6	85.9 87.7	86.2	62.7	62.8 61.8	62.7 62.3
Symptom holders	Real number	92	164	256	31	45	76	361	394	465
	Rate	26.3	40.0	33.7	12.4 12.3	15.0	13.8	37.5	37.2 38.2	37.5 37.7

裏面白紙

Symptom	Districts	Sibai Coal-mine, Hokkaido			Kosaka Mine, Akita Pref.			Joban Coal mine, Fukushima Pref.		
		Sexuality	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female
Slow Pulse	Investigated persons	596	560	1,156	730	643	1,375	491	554	1,045
	Symptom holders	1	3	4	27	14	41	1	0	1
	Rate	0.2	0.5	0.3	3.7	2.2	3.0	0.2	-	0.1
<i>Bradycardia</i>										
Menstrual delay or recent delay	Investigated persons		252			262			233	
	Symptom holders		65			33			32	
	Rate		25.8			14.5			13.7	
<i>Menstrual irregularities</i>										
Incomplete coze of mother's milk	Investigated persons		32			43			91	
	Symptom holders		9			23			20	
	Rate		28.1			51.1			22.0	
<i>Deficient lactation</i>										
Abortive bone marrow	Investigated persons	235	207	442	190	121	301	251	230	481
	Symptom holders	9	8	17	3	2	5	0	0	0
	Rate	3.8	3.9	3.8	1.7	1.7	1.7	-	-	-
<i>Malnutrition</i>										
Total of the investigated persons		1,049	951	2,000	1,000	1,000	2,000	980	1,020	2,000
The Healthy	Real number	625	713	1,598	946	753	1,604	748	727	745
	Rate	64.4	75.0	79.9	84.6	75.8	80.2	76.3	72.7	74.5
Symptom holders	Real number	164	238	402	154	242	396	232	273	510
	Rate	15.6	25.0	20.1	15.4	24.2	19.8	23.7	27.3	25.5

Symptom	Districts	Mitsui, Coal-mine, Fukuoka Pref.			Total of the four mines.		
	Sexuality	Male	Female	Total	Male	Female	Total
Slow pulse <i>brady cardia</i>	Investigated persons	526	558	1,084	2,343	2,317	4,660
	Symptom holders	24	6	30	53	23	76
	Rate	4.6	1.1	2.8	2.3	1.0	1.6
Menstrual delay or menostasis <i>delayed menstruation or amenorrhoea</i>	Investigated persons		259			1,006	
	Symptom holders		63			203	
	Rate		26.3			20.2	
Incomplete case of mother's milk <i>insufficient lactation</i>	Investigated persons		34			250	
	Symptom holders		25			77	
	Rate		29.8			30.8	
Abortive- ness of bone <i>Mal. part of bone</i>	Investigat- ed persons	233	297	530	949	255	1,754
	Symptom holders	0	0	0	12	10	22
	Rate	-	-	-	1.3	1.2	1.3
Total of the investi- gated persons		992	1,008	2,000	4,021	3,979	8,000
The Healthy	Real number	589	493	1,082	3,068	2,706	5,774
	Rate	59.4	48.9	54.1	76.3	68.0	72.2
Symptom holders	Real number	403	515	918	953	1,273	2,226
	Rate	40.6	51.1	45.9	23.7	32.0	27.8

Note : On the matter of *brady cardia* slow/pulse, males and females more than 13 years old were investigated.
On the matter of *delayed menstruation or Amenorrhoea* menstrual delay or menostosis, females from 17 to 45 years old (except pregnant women)

and those in the period of feeding babies with their own
milk) were investigated.

On the matter of ^{deficient lactation} ~~incomplete care of mother's milk~~,
only those who have babies less than 6 months old were
investigated.

On the matter of abortiveness of bone, infants less
than 6 years old were investigated.

Table of Investigation into Nutrition Intusreception
tion

Investigated in November, 1946.

Public Health Bureau, Ministry
of Welfare

Districts	Number of the investigated households	Number of the investigated household members	Proteid protein				Calory	Adult charge rate	Unit rate	
			Animal		Vegetation vegetable					Total
			g.	%	g.	%				
Sapporo	440	2,357	20.2	29.5	49.4	70.5	68.6	193.40	0.857	0.836
Sendai	480	2,289	21.8	31.8	46.8	68.2	68.6	2053.5	0.873	0.814
Tokyo	3,701	13,293	14.3	25.6	42.0	74.4	56.5	2152.4	0.850	0.823
Karazawa	448	2,122	22.9	32.3	43.0	67.7	70.7	2402.7	0.865	0.777
Nagoya	317	4,036	11.4	22.5	56.0	77.5	50.7	1856.2	0.873	0.821
Oosha	1,313	5,843	14.2	26.1	40.2	73.6	54.4	1868.0	0.887	0.820
Kure	208	1,561	15.3	23.9	43.7	76.1	64.0	1350.7	0.860	0.826
Watsuyama	940	1,117	13.8	22.8	46.3	77.2	60.6	2069.2	0.870	0.907
Fukui	531	2,356	18.0	27.6	47.1	72.4	65.1	1868.1	0.873	0.834
Total average	7,456	34,950	15.7	26.6	43.3	73.4	59.0	2071.8	0.878	0.825
Hokkaido	400	2,803	8.2	10.0	73.8	92.0	82.0	2241.5	0.869	0.903
Iwate	346	2,390	4.7	7.2	61.0	92.8	65.7	2181.5	0.859	0.949
Miyagi	245	1,797	15.2	22.3	53.1	77.7	68.3	2464.1	0.851	0.835
Ibaragi	403	2,531	7.6	11.5	58.6	98.5	66.2	2431.4	0.867	0.899
Tochigi	254	2,079	2.8	4.6	57.7	95.4	60.5	2374.5	0.878	0.827
Gunma	400	2,711	1.1	1.7	65.0	98.3	66.1	2599.4	0.855	0.910
Saitama	400	2,579	1.6	2.7	58.5	97.3	60.1	2562.0	0.865	0.943
Chiba	500	3,246	6.3	9.4	60.9	90.6	67.2	2730.3	0.875	0.953
Tokyo	314	2,273	2.7	4.9	52.6	95.1	55.3	2366.6	0.869	0.809
Fanagawa	400	2,929	5.5	8.6	59.4	91.5	64.9	2551.0	0.856	0.905
Fukui	150	320	11.1	19.2	46.6	80.8	57.7	2111.9	0.870	0.930
Toyama	170	1,111	5.4	9.4	52.4	90.6	57.8	2495.4	0.846	0.849
Ishikawa	104	660	8.9	12.2	63.7	97.8	72.6	2609.5	0.877	0.895
Shizuoka	534	3,357	4.2	6.9	56.5	93.1	60.7	2296.0	0.865	0.912
Aichi	512	2,883	5.5	11.5	42.5	88.5	48.0	1775.8	0.851	0.847
Shiga	198	1,263	7.9	12.6	53.7	97.1	61.6	2180.0	0.850	0.896
Kyoto	307	1,838	14.3	20.0	58.4	80.0	72.7	2401.0	0.860	0.955
Osaka	140	610	9.1	16.0	47.2	84.0	56.3	2017.3	0.867	0.918
Nyogo	306	1,847	6.6	11.0	53.2	89.0	59.8	2564.3	0.857	0.934
Nakayama	316	1,771	6.3	12.2	45.3	87.8	51.6	2203.4	0.856	0.942
Okayama	270	1,158	7.4	13.1	49.2	86.9	56.6	2211.6	0.870	0.942
Kiroshira	95	565	10.4	16.1	54.0	93.9	64.4	2406.6	0.854	0.932
Ehime	106	611	21.9	35.3	39.3	64.2	61.2	2355.3	0.852	0.925
Kochi	150	833	27.1	37.6	44.6	62.4	72.0	2302.7	0.873	0.927

裏面白紙

Fukuoka	107	662	10.5	17.1	49.8	82.9	80.1	2274.5	0.862	0.726
Saga	200	1,331	9.8	15.6	47.5	94.4	56.3	2430.9	0.541	0.911
Kumamoto	154	1,231	3.1	5.4	54.1	64.6	57.2	1217.2	0.860	0.874
Total or average		48,789	6.8	15.7	54.8	80.3	61.4	2330.2	0.843	0.914
Hokkaido	200	1,189	9.3	15.4	54.9	84.6	63.3	2215.3	0.949	0.942
Akita	200	1,257	16.8	39.5	39.2	69.5	55.0	1896.8	0.669	0.344
Fukushima	190	1,258	13.5	18.0	61.3	52.0	74.8	2783.1	0.874	0.869
Fukuoka	107	1,071	23.1	16.8	63.0	73.2	80.1	2299.1	0.839	0.885
Total or average	707	4,775	15.5	22.5	53.8	77.5	69.4	2244.6	0.883	0.884

- The end -

199

裏面白紙

國民栄養摄取量調査成績

区域別	被調査世帯数	被調査人数	蛋白質		脂肪		総量	人換算率
			動物性	植物性	動物性	植物性		
札幌	440	2357	21.2	29.5	48.1	70.5	117.60	0.557
仙台	480	2289	21.8	31.0	46.8	69.3	109.35	0.573
東京	2781	13299	14.5	25.6	42.0	74.4	205.14	0.888
金沢	447	2122	22.9	32.3	48.0	67.7	200.7	0.865
名古屋	916	4036	16.4	22.5	37.3	77.5	162.62	0.873
大阪	1317	5843	14.2	26.1	40.2	73.9	161.80	0.887
京都	277	1561	15.3	23.9	46.1	76.1	153.27	0.884
山形	240	1117	13.8	22.8	46.8	71.2	136.92	0.870
福岡	534	2356	18.0	27.6	47.1	70.4	186.71	0.873
合計平均	7456	34980	15.7	26.6	43.3	73.4	200.18	0.878
北海道	410	2803	8.2	10.0	73.8	70.0	224.15	0.869
岩手	346	2380	4.7	7.2	61.0	72.8	111.55	0.859
宮城	245	1707	15.2	22.2	53.1	72.2	246.1	0.851
秋田	413	2531	7.6	11.5	58.6	78.5	243.14	0.867
山形	254	2079	2.8	4.6	57.7	75.4	237.45	0.878
福島	414	2711	1.1	1.7	65.0	95.3	257.7	0.85
茨城	402	2679	1.6	2.7	58.5	91.3	256.20	0.875
栃木	300	3246	6.3	7.4	61.9	94.6	272.3	0.875
群馬	214	2273	2.7	4.7	52.6	95.1	361.6	0.867
東京都	408	2829	5.5	8.5	59.4	92.5	351.0	0.875
千葉県	150	820	11.1	18.2	46.6	80.6	311.7	0.870
東京都	170	1111	5.4	7.4	52.4	90.6	275.4	0.846
神奈川県	114	660	8.9	12.2	63.7	97.7	210.95	0.877
静岡県	534	3857	4.2	6.9	56.5	93.1	223.60	0.875
愛知県	512	2803	5.5	11.5	42.5	88.5	19.58	0.851
岐阜県	195	1263	7.7	12.9	53.7	97.1	217.0	0.870
東京都	307	1828	14.3	20.0	52.4	80.0	244.10	0.860
大阪府	146	919	2.1	26.0	47.2	84.0	207.3	0.887
兵庫県	306	1847	6.6	11.0	62.2	89.0	152.42	0.857
和歌山県	316	1771	8.3	12.2	45.3	87.5	220.34	0.875
奈良県	200	1158	7.4	13.1	49.2	86.9	221.66	0.875
京都府	75	565	10.4	16.1	52.0	83.9	24.26	0.874
大阪府	105	611	21.9	35.8	37.3	64.2	235.52	0.852
兵庫県	150	833	27.1	37.6	44.9	62.4	230.7	0.873
和歌山県	107	862	10.3	17.7	38.0	60.1	207.46	0.871
奈良県	200	1201	8.8	15.1	47.5	84.0	248.29	0.841
京都府	184	1231	3.1	5.4	54.1	94.6	221.72	0.860
合計平均	7443	48759	6.6	10.7	54.8	87.3	230.2	0.843
北海道	200	1189	7.0	15.4	54.0	84.6	221.53	0.847
秋田	200	1287	16.8	30.5	38.2	69.5	168.7	0.877
福島	190	1258	13.5	18.0	61.3	82.8	275.31	0.874
山形	207	1071	22.1	26.8	62.0	86.1	229.91	0.858
合計平均	797	4775	15.6	22.5	53.8	77.5	224.46	0.873

裏面白紙

身体症候发现調査表

厚生省公衆衛生課 調査課
昭和21年11月調査実施

1. 体量増減表

体量別 性別	減少			増加			平衡			計
	実数	比率	平均	実数	比率	平均	実数	比率	実数	
九州 男	5284	14.9	6.1	4517	14.5	4.4	21,382	67.6	21,103	
女	8486	19.7	6.2	7,185	16.1	5.4	27,420	63.9	43,154	
計	13770	18.5	6.1	11,702	15.8	5.0	48,802	65.7	74,257	
東北 男	2232	11.2	6.4	6,030	17.6	5.2	24,011	71.2	27,173	
女	5161	13.5	6.2	7,650	20.0	5.8	25,378	61.5	38,129	
計	7393	12.4	6.3	13,680	18.9	5.5	49,389	62.7	72,302	

* 1. 札幌, 仙臺, 東京, 金澤, 名古屋, 大阪, 岡山, 福岡

* 2. 北海道: 岩手, 宮城, 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 静岡, 香取, 高松, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 和歌山, 岡山, 広島, 岡山, 香取, 高知, 福岡, 佐賀, 熊本

性別	減少			増加			平衡			計
	実数	比率	平均	実数	比率	平均	実数	比率	実数	
東京 男	2,700	20.6	7.5	1,800	7.1	4.8	4,800	62.0	7,800	
女	710	14.4	5.3	710	17.5	5.1	1,990	54.1	3,410	
計	3,410	24.0	6.9	2,510	11.3	5.0	6,790	57.7	11,410	
石川 男	180	2.6	2.5	170	38.0	5.0	292	58.4	540	
女	140	2.7	3.1	210	40.0	5.5	220	55.3	570	
計	320	3.2	3.4	400	40.0	5.3	512	46.8	1,007	
高松 男	111	16.5	5.8	77	11.7	5.1	484	71.8	674	
女	159	12.7	5.5	136	16.0	6.7	456	65.3	751	
計	270	17.7	5.6	213	14.1	6.1	940	62.2	1,525	
石川 男	17	5.7	6.7	110	36.9	4.9	171	57.4	298	
女	16	5.2	5.9	124	40.3	5.8	168	44.5	308	
計	33	5.4	6.4	234	38.6	5.3	339	55.9	606	
福井 男	22	6.3	6.4	21	34.6	5.1	242	67.1	350	
女	50	12.5	6.3	101	25.6	6.0	241	64.9	392	
計	72	9.6	6.4	122	25.1	5.6	483	65.5	742	
香取 男	17	6.8	7.3	27	10.7	6.1	202	82.5	252	
女	41	15.0	5.9	41	14.9	5.4	205	70.3	291	
計	62	14.2	6.3	68	12.9	5.7	413	75.9	543	
岡山 男	187	19.3	8.0	102	10.5	4.2	679	70.2	968	
女	170	17.1	7.0	140	14.1	5.2	683	68.8	993	
計	357	18.2	7.5	242	12.3	5.1	1362	67.4	1,961	

地区別	性別	減少			増加			平衡		計
		実数	比率	平均	実数	比率	平均	実数	比率	
北海道	男	87	7.7	5.6	226	21.6	5.7	743	70.7	1049
	女	86	9.4	4.7	250	25.1	6.0	600	65.5	926
	計	167	8.6	5.1	456	23.4	5.5	1342	68.0	1965
青森	男	86	8.6	5.2	173	17.3	5.3	741	74.1	1000
	女	93	9.5	5.0	257	26.2	5.1	651	64.3	981
	計	179	9.0	5.1	430	21.7	5.2	1372	69.2	1981
福島	男	58	5.9	5.1	220	22.4	4.3	702	71.6	980
	女	75	7.6	4.2	257	26.0	5.6	657	66.4	989
	計	133	6.8	4.6	477	24.2	5.0	1359	69.0	1969
福岡	男	89	9.0	4.5	155	15.6	4.8	748	75.4	992
	女	131	13.7	5.4	152	15.7	5.4	675	70.5	958
	計	220	11.3	5.1	307	15.7	5.1	1423	73.0	1950
四国	男	314	7.8	5.1	774	19.3	4.9	2933	72.9	4021
	女	385	10.0	4.9	846	23.3	5.5	2563	66.7	3794
	計	699	8.9	5.1	1620	21.2	5.2	5496	69.7	7815

体重, 増減... 標準, 10% 7 超過 20% 以上

症候発現表 (20-)

症候	地区別	九都市計			二十七个道庁市町村計			東京都区部計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
被褥着	有症者	31,122	43,991	75,117	34,170	38,781	72,954	981	361	1,142
	比率	8.1	4.9	5.4	2.6	2.8	2.7	3.2	2.2	3.1
貧血	有症者	1,187	2,137	4,037	903	1,025	1,988	25	10	35
	比率	8.1	4.9	5.4	2.6	2.8	2.7	3.2	2.2	3.1
毛虫性	有症者	568	957	1,525	626	1,048	1,174	2	2	4
	比率	1.8	2.2	2.0	1.8	2.7	2.3	0.3	0.5	0.4
肉膜乾癬性肉膜軟化症	有症者	24	19	43	47	48	95	0	0	0
	比率	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	-	-	-
口角炎	有症者	2350	2261	4611	5266	4958	10324	60	36	76
	比率	7.5	5.1	6.1	15.7	12.8	14.2	8.2	10.0	8.4
舌炎及口内炎	有症者	419	641	1,060	1,793	478	1,051	4	0	4
	比率	1.3	1.5	1.4	1.7	1.2	1.4	0.5	-	0.4
腿及肘	有症者	2,105	2,573	4,678	1,912	2,460	4,372	62	36	10
	比率	6.7	8.1	7.6	5.6	6.3	6.0	7.7	10.0	8.6
浮腫	有症者	587	1,027	1,614	201	655	856	8	5	13
	比率	1.9	2.3	2.1	0.6	1.7	1.2	1.0	1.4	1.1
慢性下痢	有症者	301	400	701	203	178	321	5	2	7
	比率	1.0	0.9	0.9	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6

症候	官城新			高山			石		
	性別	男	女	計	男	女	計	男	女
被調査者	100	51	49	101	64	37	153	27	126
有症者	11	11	22	70	67	137	0	0	0
比率	2.2	2.1	2.2	10.7	7.8	8.7	-	-	-
毛状	有症者	0	0	0	17	16	33	0	0
比率	-	-	-	17	1.2	1.5	-	-	-
向心	有症者	1	1	2	2	2	4	1	4
比率	0.2	0.2	0.2	1.3	0.2	0.3	0.2	1.3	0.2
口角	有症者	96	112	208	20	17	37	39	19
比率	19.2	21.7	20.5	2.0	2.0	2.4	13.1	6.1	9.5
舌炎	有症者	0	0	0	15	6	21	0	0
比率	-	-	-	2.2	0.7	1.4	-	-	-
腫及	有症者	71	100	171	74	99	173	30	14
比率	14.2	19.4	16.8	11.0	11.6	11.3	10.7	19.5	10.7
浮腫	有症者	4	15	19	10	37	47	1	1
比率	0.8	2.9	1.9	1.5	4.3	3.1	0.2	0.3	0.2
慢性	有症者	0	0	0	5	4	9	6	15
比率	-	-	-	4.8	1.5	0.7	0.6	2.1	2.1

症候	官城新			高山			石		
	性別	男	女	計	男	女	計	男	女
被調査者	100	51	49	101	64	37	153	27	126
有症者	12	26	38	2	1	3	52	62	114
比率	3.4	8.8	6.3	0.8	0.3	0.5	5.4	6.0	5.7
毛状	有症者	1	0	1	0	0	0	44	56
比率	0.3	-	0.1	-	-	-	4.6	5.4	5.0
向心	有症者	0	2	2	0	0	0	1	0
比率	-	0.5	0.3	-	-	-	0.1	-	0.1
口角	有症者	52	64	116	6	4	10	185	210
比率	16.5	20.5	18.7	2.4	1.2	1.8	17.1	20.3	19.8
舌炎	有症者	5	14	19	0	0	0	11	8
比率	1.4	3.4	2.5	-	-	-	11	1.5	1.0
腫及	有症者	27	47	74	17	24	41	72	53
比率	8.3	11.4	10.0	6.6	7.7	7.1	7.4	5.1	6.0
浮腫	有症者	0	17	17	1	0	1	1	2
比率	0.6	4.1	2.5	0.2	-	0.2	0.1	1.3	0.2
慢性	有症者	5	12	17	3	1	4	12	7
比率	1.4	2.1	2.1	1.2	0.2	0.4	1.2	2.1	1.1

症	地区別	北海道			北海			道庁		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
喉	北道	1,048	951	2,000	1,000	1,000	2,000	760	1,020	2,000
有症者		1	1	2	11	7	20	135	111	246
比率		0.1	0.1	0.1	1.1	0.7	1.0	17.8	10.7	12.3
貧血	北道	70	132	202	2	1	3	0	1	1
有症者		70	132	202	2	1	3	0	1	1
比率		6.7	13.7	10.1	0.2	0.1	0.2	-	0.1	0.1
喉痛	北道	0	0	0	0	2	2	0	0	0
有症者		0	0	0	0	2	2	0	0	0
比率		-	-	-	-	0.2	0.1	-	-	-
咽喉炎	北道	42	34	76	18	22	40	95	77	154
有症者		42	34	76	18	22	40	95	77	154
比率		4.0	3.6	3.8	1.8	2.2	2.0	7.7	7.7	9.9
舌炎	北道	4	7	11	1	2	3	1	0	1
有症者		4	7	11	1	2	3	1	0	1
比率		0.4	0.7	0.5	0.1	0.2	0.2	0.1	-	0.1
咽喉腫	北道	31	50	81	103	156	259	5	13	18
有症者		31	50	81	103	156	259	5	13	18
比率		3.0	5.3	4.5	10.3	15.1	12.5	0.5	1.3	0.7
喉腫	北道	0	0	0	5	32	37	1	7	8
有症者		0	0	0	5	32	37	1	7	8
比率		-	-	-	0.5	3.2	1.9	0.1	0.7	0.4
慢性	北道	8	4	12	4	2	6	1	1	2
有症者		8	4	12	4	2	6	1	1	2
比率		0.8	0.4	0.6	0.4	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3

症	地区別	北道			北海			道庁		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
喉	北道	772	1,048	2,000	402	777	1,179	772	1,048	2,000
有症者		213	267	480	36	388	748	213	267	480
比率		21.5	26.5	24.0	9.0	26.6	24.4	21.5	26.5	24.0
貧血	北道	2	1	3	74	185	207	2	1	3
有症者		2	1	3	74	185	207	2	1	3
比率		0.2	0.1	0.2	1.8	3.4	2.6	0.2	0.1	0.2
咽喉炎	北道	164	142	306	219	277	496	164	142	306
有症者		164	142	306	219	277	496	164	142	306
比率		16.5	14.1	15.3	27.7	26.5	27.1	16.5	14.1	15.3
舌炎	北道	16	28	44	22	37	61	16	28	44
有症者		16	28	44	22	37	61	16	28	44
比率		1.6	2.7	2.2	5.5	11	6.8	1.6	2.7	2.2
咽喉腫	北道	91	111	202	230	230	460	91	111	202
有症者		91	111	202	230	230	460	91	111	202
比率		9.2	11.0	10.1	5.7	8.7	9.0	9.2	11.0	10.1
喉腫	北道	5	27	34	11	68	79	5	27	34
有症者		5	27	34	11	68	79	5	27	34
比率		0.5	2.7	1.7	1.3	1.9	1.7	0.5	2.7	1.7
慢性	北道	10	6	16	24	15	39	10	6	16
有症者		10	6	16	24	15	39	10	6	16
比率		1.0	0.6	0.8	2.4	1.5	1.7	1.0	0.6	0.8

症 各現象 (80=)

症候	合計		男		女		計			
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		
徐脈	有病者	281	262	645	189	248	118	19		
	比率	2.2	0.9	1.5	3.1	1.2	2.3	2.6	2.1	
	無病者	11888	11426	5						
月經不調	有病者	2679		1274		211				
	比率	2.7		1.7		16.7				
	無病者	11888	11426	5						
乳汁分泌不良	有病者	499		271		1				
	比率	2.5		1.9		2.0				
	無病者	11888	11426	5						
骨發育不全	有病者	24	27	41	28	21	47	0	0	
	比率	0.1	0.5	0.5	0.5	0.3	0.4	-	-	
	無病者	11888	11426	5						
健康者	人数	24249	21115	45364	27715	52971	626	270	876	
	比率	77.7	70.6	72.1	72.6	70.1	72.3	70.3	71.5	70.5
	有病者	6941	17259	7361	1081	114	112	46		
有病者	人数	6941	17259	7361	1081	114	112	46		
	比率	22.3	29.4	26.9	27.4	29.7	27.7	29.7	29.5	
	無病者	11888	11426	5						

症候	合計		男		女		計			
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		
徐脈	有病者	1	1	8	12	4	16	2	1	3
	比率	2.8	0.5	1.7	2.7	0.7	1.6	1.7	0.5	0.1
	無病者	11888	11426	5						
月經不調	有病者	33		21		8				
	比率	2.6		1.0		7.0				
	無病者	11888	11426	5						
乳汁分泌不良	有病者	1		17		2				
	比率	6.3		42.5		10.2				
	無病者	11888	11426	5						
骨發育不全	有病者	0	0	0	16	2	17	0	0	0
	比率	-	-	-	1.4	6.2	-	-	-	-
	無病者	11888	11426	5						
健康者	人数	335	217	554	460	604	1104	224	222	446
	比率	15.0	46.4	15.6	71.5	70.6	72.1	75.0	70.1	72.9
	有病者	175	271	451	172	157	74	22	66	
有病者	人数	175	271	451	172	157	74	22	66	
	比率	25.1	53.6	42.4	25.5	29.8	24.8	29.3	27.1	
	無病者	11888	11426	5						

症候	性別	福子 小児院			湯尾村 養育院			岡山 小児院		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
徐脈	被調査者	220	287	507	131	160	291	112	672	1284
	有症者	0	0	0	2	0	2	44	21	65
	比率	-	-	-	15	-	0.7	7.2	3.1	5.1
胎毒	被調査者		130			32			303	
	有症者		1			15			34	
	比率		7.8			20.8			10.5	
母乳分泌不良	被調査者		8			13			43	
	有症者		0			0			8	
	比率		-			-			18.6	
骨發育不全	被調査者	50	55	105	48	68	116	149	142	291
	有症者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比率	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全被調査者		350	410	760	252	300	552	962	1032	2000
健康者	実数	258	246	504	221	255	476	607	638	1245
	比率	73.7	60.0	66.3	89.6	85.0	86.2	63.1	62.8	62.3
有症者	実数	92	164	256	31	45	76	111	394	755
	比率	26.3	40.0	33.7	11.4	15.0	13.8	36.9	37.2	37.7

症候	性別	北海道 美唄炭坑			秋田 小坂銅山			新潟 常陸炭坑		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
徐脈	被調査者	596	560	1156	730	643	1373	471	554	1025
	有症者	1	3	4	27	14	41	1	0	1
	比率	0.2	0.5	0.3	3.7	2.2	3.0	0.2	-	0.1
胎毒	被調査者		252			262				233
	有症者		65			38				32
	比率		25.8			14.5				13.7
母乳分泌不良	被調査者		32			43				91
	有症者		9			23				20
	比率		28.1			53.5				22.0
骨發育不全	被調査者	235	207	442	180	121	301	251	230	481
	有症者	9	8	17	3	2	5	0	0	0
	比率	3.8	3.9	3.8	1.7	1.7	1.7	-	-	-
全被調査者		1049	751	2000	1500	1000	2500	721	1120	2000
健康者	実数	885	713	1598	846	758	1604	748	742	1490
	比率	84.4	75.0	79.9	84.6	75.8	80.2	76.3	72.7	74.5
有症者	実数	164	238	402	154	242	396	232	278	510
	比率	15.6	25.0	20.1	15.4	24.2	19.8	23.7	27.3	25.5



The report concerned with

disposed prisoners.

The Chibaara Nakan Hospital

attached to the Tokyo Chibaara

Electric Co., Ltd.

Tsurumi-ku, Tokyo.

1,100 Akihonaki, Tsurumi-Gun,

Tsurumi-ku, Yokohama.

裏
面
白
紙

Attending physician, Dr. Teshie Akawa
Nurses, Attending nurses None
Their place taken by P.N. physicians and
Hospital Corps
Surgeons attached to the operation room
Nishi Masao
Arai Iku
Teshiko Inayama

Patient No. 1 Room 48 years Admitted July, 15, 1943
Discharged Aug. 5

Diagnosis Fracture on lower jaw dislocation and fracture on upper end
of right brachium.

Findings lower jaw fractured at the middle of the right side, with a
piece of bone as large as a finger-nail isolated. Perforation
of the mouth rendered impossible. A small lacerated wound
inside the mouth. The joint region of the left shoulder had
a diffused swelling, with spontaneous pain and oppressive
pain in the region. Movement extremely restricted. An
X-ray examination showed a V-shaped fracture in the joint region
of the right brachium, the top of the bone dislocated forward
and downward.

Treatment and Progress Cold compresses administered on the two external wounds.
For the fracture of the brachium, splints used. For the
fracture in the lower jaw, surgical replacement and sewing
with silver wire given on July 20th. Complete closure of the
mouth recovered. No marked suppurative action in the
surgical wound.
For the dislocation and fracture in the upper end of the right
brachium, replacement under chloroform attempted, but in vain.
On July 25th, surgical replacement administered. During the
operation, it was noticed that the top of the bone had been
fractured through the joint and was not in place
outside the capsule. After the operation, restriction of movement
found removed. Healing of the fracture through the use of splints
with bandage applied.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 3	Thomas	37 years	Adm. July 13, 1945 Dis. Aug. 5
Diagnosis	Contusion on the waist.		
Findings	No marked swelling or discoloration noticed; oppressive pain and spontaneous pain-complained of.		
Treatment and Progress	Cold compresses administered. Spontaneous pain and pain elicited by movement gradually alleviated. July 23rd, walking on crutches became possible. When discharged, walking without support was possible; pain still felt when violently moved.		
Result	Discharged before complete recovery.		
Patient No. 3	de Cloudt	22 years	Adm. July 13, 1945 Dis. Aug. 5
Diagnosis	Fracture in the top of the right ulna; contusion on the right knee.		
Findings	A swelling and pain in the right elbow joint; bending or stretching impossible. An X-ray examination showed a fracture in the top of the right ulna, the fractured piece dislocated upward. Slight swelling and pain in the left knee.		
Treatment and Progress	Cold compresses; and the right upper limb set at extension position and given splints with bandage. Contusion on the left knee almost cured by July 19th; walking became possible. For the fracture in the top of the right ulna, surgical replacement given on July 26th after waiting for the absorption of the blood in the fracture, sewed up with silver wire in place. The wound had no suppuration, and healed in the first period. After the operation, extension splints with bandage given for resting the fractured region.		
Result	Discharged before complete recovery.		
Patient No. 4	Myerscott	24 years	Adm. July 13, 1945 Died Aug. 5
Diagnosis	Fracture in the right thigh bone.		
Findings	The right thigh prominently swollen with acute oppressive and spontaneous pain. The right lower limb dislocated, deformed, and shortened. An X-ray examination showed a fracture in the central region of the right thigh. A slight wound noticed on the outside.		

Treatment and Progress Flaccid in splints with bandage and cold compresses given. Surgical replacement given on July 22nd, wound up in place with silver wire. During the operation, damage in the thigh muscle was found to be considerable. In spite of sulphamide preparations given before and after the operation, there were signs of suppuration. There followed fever, relaxation, increase of pus, increased swelling in the thigh: gradually leading to a swelling over to the stem of the thigh with the symptom of blood-poisoning. On July 31st, amputation executed on the right thigh. At that time the infected side was swollen to the size more than three times as that of the healthy side, and the section of amputation showed suppurated spots here and there. Set in place, sewed up, and gauze drainage applied. After the operation, fever still high. Discharge of pus from the wound was immense. The patient grew weaker and weaker. In spite of cardiac stimulant sulphamide preparations, vitamins, he died at 8:30 a.m., Aug. 8th, on account of heart failure.

Result Death.

Patient No. 5 **Christ** **26 years** **Adm. July 13, 1945**
Dis. July 25

Diagnosis Contusion on the back.

Findings Complaints of oppressive pain and spontaneous pain on the first lumbar vertebra. In sitting and rising, pain increased. An X-ray examination showed no change in the first lumbar vertebra or its base.

Treatment and Progress Cold compresses and rest given. On July 19th, pain elicited by movement still felt. Pain gradually alleviated afterward.

Result Improved.

Patient No. 6 **Van Lichten** **23 years** **Adm. July 13, 1945**
Dis. July 25

Diagnosis Contusion on the right hip.

Findings A swelling from the right hip to the thigh joint region. No external wound. Oppressive pain, spontaneous pain, pain felt in walking.

Treatment and Progress Cold compresses and rest given. Pain gradually alleviated, almost recovered and walking was possible in a week.

Result Improved.

Patient No. 7 Roelamp

38 year

Adm. July 13, 1945

Died Aug. 4.

Diagnosis
Findings

uncomplicated fracture in the right lower thigh.
It is reported that when wounded, the lower end of the tibia was dislocated, protruding through the wound to the inner side of the lower thigh, and coiled; the foot dislocated outward, and the army physician in charge set it to rights and administered first aid.
On the inner side of the right leg near the foot joint, a sprain of about 2 cm., the wound coiled and connected with the articular cavity. A swelling on the inside and outside ankles in the foot joint with oppressive pain and spontaneous pain. Movement of the foot joint impossible. An X-ray examination showed a lateral fractures and isolated bone pieces respectively in the inside ankle near the lower end of the tibia and in the outside ankle near the lower end of the fibula.

Treatment and
Progress

Splints with bandage and complete rest given. The wound surface considerably soiled: disinfected, and sprinkled with sulphamide preparations. Temperature was over 38 C. every day, never falling. By July 19th, suppuration became considerable, with a fair amount of drainage: the swell on the right foot joint region increased and the wounded region showed a tropical swelling. By July 25th, the front wounded region collapsed, forming holes discharging pus. Temperature still high, being 38-39: administering sulphamide preparations brought no improvement.
Appetite decreasing: growing weaker and weaker.
Suppuration reached upper regions, swelling increased with signs of phlegmon. On Aug. 1st, amputation executed on the right femur. Placement and sewing with sponge drainage. Dropsy observed on the amputation section.
After the operation, temperature slightly fall, but still remained feverish: little appetite. Signs of the weakening of heart function noticed. Cardiac stimulants, sulphamide preparations, and vitamins continuously used: he has lost blood spontaneously on Aug. 4., so we put a stop to it. Death took place at 11: 15, P.M., Aug 4.
Death.

Result

Patient No. 8 Sheer

24 year

Adm. July, 13, 1945

Dis. July, 25

Diagnosis
Findings

Fracture of the right radius. A contusion on the back. A diffused swelling on the right arm joint on the radius side. No external wound noticed. Oppressive pain, spontaneous pain: the articular movement of the arm imperfect because of the pain. Movement of fingers also likely to be restricted. An X-ray examination showed a complete lateral fracture near the end of the right radius, the end being slightly dislocated toward the radius side and the palm. No prominent swelling on the back noticed, but oppressive pain and spontaneous pain felt.

Treatment and
Progress

The fractured region replaced under local anesthetization, and placed by splints with bandage: cold compresses applied on the back. After replacement, pain alleviated. By July 19, the pain on the back almost completely gone: that of the fractured region also decreased.

裏面白紙

Result of wound before complete recovery.

Patient No. 9 Bulburn 27 Year Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Contusion and abrasion on the left lower limb.

Findings Several discoloured spots on the skin of the left lower limb and also an abrasion. Walking found difficult.

Treatment and Cold compresses: pain alleviated, until walking became possible.
 Progress

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 10 Robert 31 Year Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Contusion, and sprain on the right lower thigh and the head.

Findings A slight swelling on the left lower thigh. Sprain on the head. Walking difficult: pain elicited by movement.

Treatment and Dressing the wound and cold compresses given. Pain alleviated:
 Progress only pain elicited by movement remained.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 11 De Beck 30 year Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Sprain on the left foot joint.

Findings A diffused swelling on the left foot joint with oppressive pain and spontaneous pain: walking found difficult. An X-ray examination showed no change in the bone.

Treatment and Cold compresses and complete rest given. On July 18th, walking was
 Progress still impossible: but gradually improved.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 12 De Beck 39 year Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Sprain in the left foot joint. Sprain on the left thumb.

Findings A swelling on the left foot joint. Pain elicited by movement, oppressive pain, and spontaneous pain felt. Walking difficult. Pain elicited by movement on the right thumb also, with spontaneous pain noticed.

Treatment and Cold compresses and rest given. Pain gradually alleviated until walking
 Progress became possible.

Result Improved.

裏面白紙

Patient No. 13 Barber 30 years Adm. July 13, 1945
Dis. July 22

Diagnosis "O" abs. strain running approximately 1 cm. thick on the forehead above the right eye. A swelling on the left hip with pain: walking difficult.

Treatment and Progress dressing of the wound and cold compresses given. The wound had no marked suppuration: the swelling and pain on the hip alleviated by JULY 18th, and walking became easier.

Result Improved.

Patient No. 14 MacJubberson 25 years old Adm. July 13, 1945
Dis. July 23

Diagnosis Contusion on the back

Findings A swelling on the back with pain: also pain elicited by movement noticed.

Treatment and Progress The swelling and pain alleviated, but on July 19th pain elicited by movement still observed.

Result Dis. charged before complete recovery.

Patient No. 15 Cook 27 years old Adm. July 13, 1945
Dis. Aug. 5

Diagnosis Chronic Malaria.

Findings Felt a swelling in the abdomen a year ago. Dropsy on the leg conspicuous: complains languor on the whole body. Treated at the Shibaura Works and given vitamins and c. When admitted, anemia rather severe: the swelling of the abdomen noticed: the tendon-reflex normal on both sides.

Treatment and Progress As vitamin B was injected every day, dropsy alleviated for some time. After this, there was fever with shivering as follow:

July 21,	39.5 C
22,	40.5 "
23,	37.5 "
24,	38. "

Prescription: repsin-Hydrochloric acid quinine C.6-reduced iron U.S
After this treatment, fever fell: condition improved by degrees until walking without support became possible.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 14 Cook 28 year Adm. Jan. 17, 1944
Dis. Jan. 18.

Diagnosis Suspect of peritonitis.

Findings Pain felt in the abdomen at 3 P.M., Jan. 17th, 1944:

Pain acute by 4.30 P.M. After Capt. Mosler, M.C. examined the patient, he was sent to this hospital at 8.10 P.M. Temp. 37.6 C; Number of leucocytes 9500; No vomiting.

Treatment and Progress Cold compresses applied on the abscess. No marked change after this. Pain alleviated. Discharged on Oct. 13th.

Result Improved.

Patient No. 17 Crocker 22 years Adm. Oct. 12. 1944
Dis. Oct. 14.

Diagnosis Phlegmon on the left hip.
by a certain physician.

Findings Incision made on a boil in the left hip on Oct. 2nd: treated at the Shibaura works clinic since Oct. 5th as infiltration of a greater size than that of a fist noticed in the left hip toward the center: skin reddening conspicuous and pain acute.

Treatment and Progress Incision given on the region and gauze drainage inserted pain alleviated and discharged on Oct. 14th.

Result Discharged before complete recovery.

裏
面
白
紙

On Death Certificates

According to the provisions of the army, the death certificates that have not the sign of the doctor in charge of the prisoners only are null, they were not made.

SMITHSON Albert	See the diagnosis No. 7
LEWIS Heskett	ditto No. 4
Edward A. A. W	We know nothing of him.

裏面白紙

The roster of all Japanese Personnel
Assigned or attached to the SHIMAZU HOSPITAL
HOSPITAL, who were responsible for the treatment of
ALLIED POW's.

1	Name	Domicile	Present Address
	Doctor		
	TSUBO, AKIYAMA	4, Sakurai-machi Nagasaki	331 Fujicho-cho, Tateyama, Arima-gun

裏
面
白
紙

The report enclosed is:

Enclosed please.

The Shibuya Hoken Hospital

attached to the Tokyo Shibuya

Electric Co., Ltd.

Yamanashi Works.

1,108 Ashimozaki, Yamanashi-City,

Yamanashi-Pref., Yamanashi.

裏
面
白
紙

Attending physician, Jp. Louis Akawa
Surgeon, 4th Medical Corps

Their names taken by P.C. physicians and
Hospital Corps

Surgeon attended to the operation room

Walter Young
Paul Lee
Joseph Brown

Patient No. 1 Name 45 years Admitted July, 14, 1948
Discharged Aug. 8

Diagnosis Fracture of lower jaw, dislocation and fracture of upper end
of right brachium.

Findings Lower jaw fractured at the middle of the right side, with a
piece of bone as large as a finger-nail isolated. An occlusion
of the mouth rendered impossible. A small perforated wound
inside the mouth. The joint region of the left shoulder had
a diffused swelling, with spontaneous pain and oppressive
pain in the region. Movement extremely restricted. An
X-ray examination showed a 2-angled fracture in the joint region
of the right brachium, the top of the bone dislocated forward
and downward.

Treatment and Progress Cold compresses administered on the jaw external wound.
For the fracture of the brachium, splints used. For the
fracture in the lower jaw, surgical replacement and sewing
with silver wire given on July 20th. Complete closure of the
mouth recovered. No marked separation noticed in the
surgical wound.
For the dislocation and fracture in the upper end of the right
brachium, replacement under chloroform attempted, but in vain.
On July 25th, surgical replacement administered. During the
operation, it was noticed that the top of the bone had been
fractured through the joint bag and part of it set in place
outside the muscle. After the operation, restriction of movement
found relieved. Healing of the fracture through the use of splints
with bursage expected.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 2 Stevens 29 years Adm. July 13, 1945
 Dis. Aug. 5

Diagnosis Contusion on the waist.

Findings No marked swelling or discoloration noted; oppressive pain and spontaneous pain complained of.

Treatment and Progress Cold compresses administered. Spontaneous pain and pain elicited by movement gradually alleviated. July 18th, walking on Crutches became possible. Then discontinued, walking without support was possible; pain still felt when violently moved.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 3 De Glough 35 years Adm. July 13, 1945
 Dis. Aug. 5

Diagnosis Fracture in the top of the right ulna; contusion on the right knee.

Findings A swelling and pain in the right elbowjoint; bending or stretching impossible. An X-ray examination showed a fracture in the top of the right ulna, the fractured piece dislocated upward. Slight swelling and pain in the left knee.

Treatment and Progress Cold compresses; and the right upper limb set at extension position and given splints with bandage. Contusion on the left knee almost cured by July 19th; walking became possible. For the fracture in the top of the right ulna, surgical replacement given on July 24th after waiting for the absorption of the blood in the fracture, sewed up with silver wire in place. The wound had no suppuration, and healed in the first period. After the operation, extensive splints with bandage given for resting the fractured region.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 4 Wycrosscott 34 years Adm. July 13, 1945
 Died Aug. 5

Diagnosis Fracture in the right thigh bone.

Findings The right thigh prominently swollen with acute oppressive and spontaneous pain. The right lower limb dislocated, deformed, and shortened. An X-ray examination showed a fracture in the central region of the right thigh. A slight wound noticed on the outside.

裏面白紙

Patient No. 7 Beckham

30 year

Adm. July 12, 1945
Dis. Aug. 4.

Diagnosis
Findings

Uncomplicated fracture in the right lower tibia.
It is reported that when wounded, the lower end of the tibia was dislocated, protruding through the wound to the inner side of the lower tibia, and called; the foot dislocated outward, and the army physician in charge set it to rights and administered first aid.
On the ^{inner} inner side of the right leg near the foot joint, a swain of about 2 cm., the wound called and connected with the articular cavity. Swelling on the inside and outside ankles in the foot joint with oppressive pain and spontaneous pain. Movement of the foot joint impossible. An X-ray examination showed a lateral fracture and isolated bone pieces respectively in the inside ankle near the lower end of the tibia and in the outside ankle near the lower end of the fibula.

Treatment and
Progress

Splints with bandage and escharotic past given. The wound surface sometimes only called; dressed, and sprayed with sulphamide preparations. Temperature was over 38 C. every day, never falling. By July 19th, suppuration became considerable, with fair amount of drainage; the swelling on the right foot joint region increased and the wounded region showed a tropical swelling. By July 25th, the front wounded region collapsed, forming holes discharging pus. Temperature still high, being 38-39. Administering sulphamide preparations brought no improvement.
^{Appetite} Appetite decreasing; growing weaker and weaker.
Suppuration reached upper regions, swelling increased with signs of phlegmon. On Aug. 1st, amputation executed on the right femur. Placement and sewing with gauze drainage. Dropsy observed on the amputation section.
After the operation, temperature slightly fell, but still remained feverish; little appetite. Signs of the weakening of heart function noticed. Cardiac stimulants, sulphamide preparations, and vitamins continuously used; he has lost blood spontaneously on Aug. 4., so we put a stop to it. Death took place at 11: 15, P.M., Aug 4.
Death.

Result

Patient No. 8 cheer

24 years

Adm. July, 15, 1945
Dis. July, 25

Diagnosis
Findings

Fracture of the right radius. A contusion on the back. A diffused swelling on the right arm joint on the radius side. No external wound noticed. Oppressive pain, spontaneous pain; the articular movement of the arm imperfect because of the pain. Movement of fingers also likely to be restricted. An X-ray examination showed a complete lateral fracture near the end of the right radius, the end being slightly dislocated toward the radius side ^{bone} and the palm. No prominent swelling on the back noticed, but oppressive pain and spontaneously pain felt.

Treatment and
Progress

The fractured region replaced under local anesthesia, and placed by splints with bandage; cold compresses applied on the back. After replacement, pain alleviated. By July 19, the pain on the back almost completely gone; that of the fractured region also decreased.

裏面白紙

Result Discharge before complete recovery.

Patient No. 9 Sakura 27 years Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Contusion and sprain on the left lower limb.

Findings Several discolored spots on the skin of the left lower limb and also on abdomen. Walking found difficult.

Treatment and cold compresses: pain alleviated, until walking became possible.

Progress

Result Discharge before complete recovery.

Patient No. 10 Robert 51 years Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Contusion, and sprain on the right lower thigh and the head.

Findings A slight swelling on the left lower thigh. Sprain on the head. Walking difficult: pain elicited by movement.

Treatment and Dressing the wound and cold compresses given. Pain alleviated: only pain elicited by movement remained.

Progress

Result Discharge before complete recovery.

Patient No. 11 De Beck 39 years Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Sprain on the left foot joint.

Findings A diffused swelling on the left foot joint with oppressive pain and spontaneous pain: walking found difficult. As X-ray examination showed no change in the bone.

Treatment and cold compresses and complete rest given. On July 18th, walking was still impossible: but gradually improved.

Progress

Result Discharge before complete recovery.

Patient No. 12 De Beck 39 years Adm. July 13, 1945
 Dis. July 25

Diagnosis Sprain in the left foot joint. Sprain on the left thumb.

Findings A swelling on the left foot joint. Pain elicited by movement, oppressive pain, and spontaneous pain felt. Walking difficult. Pain elicited by movement on the right thumb also, with spontaneous pain noticed.

Treatment and cold compresses and rest given. Pain gradually alleviated until walking became possible.

Progress

Result Improved.

裏面白紙

Patient No. 13 Hunter 3 years Jan. July 15, 1944
 Feb. July 23

Diagnosis "A" abs. abscess running approximately horizontally on the forehead above the right eye. Swelling on the left hip with pain: walking difficult.

Treatment and Progress Dressing of the wound and cold compresses given. The wound had no marked separation: the swelling and pain on the hip alleviated by JULY 19th, and walking became easier.

Result Improved.

Patient No. 14 Westberson 25 years old Jan. July 15, 1944
 Feb. July 25

Diagnosis Abscess on the back

Findings Swelling on the back with pain: also pain elicited by movement noticed.

Treatment and Progress The swelling and pain alleviated, but on July 19th pain elicited by movement still observed.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 15 Cook 27 years old Jan. July 15, 1944
 Feb. Aug. 8

Diagnosis Chronic Malaria.

Findings Felt a swelling in the abdomen a few days. Swamy on the leg conspicuous: complains languor on the whole body. Treated at the Mikura Works and given vitamins and C. Also admitted, malarial rather severe: the swelling of the abdomen noticed: the tendon-reflex normal on both sides.

Treatment and Progress As vitamin B was injected every day, drowsy alleviated for some time. After this, there was fever with chills as follow:

July 21,	39.5	°C
22,	40.5	"
23,	37.8	"
24,	38.	"

Prescription Propan, Hydroc. loric acid quinine 0.6, reduced: iron 0.5
 After this treatment, fever fell: condition improved by degrees until walking without support became possible.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 16 Cook 26 years Jan. Jan. 17, 1944
 Feb. Jan. 18.

Diagnosis Suspect of peritonitis.

Findings Pain felt in the abdomen at 3 P.M., Jan. 17th, 1944:

裏面白紙

Pain better by 4.30 P.M. After Capt. Hunter, M.D. examined the patient, he was sent to this hospital at 6.15 P.M. Temp. 100.0 W. Count of leucocytes 7500: no pus.

Treatment and Progress Cold compresses applied on the abscess. No marked change after this. Pain alleviated. Discharged on Oct. 18th.

Result Improved.

Patient No. 17 Crocker 28 years old. Oct, 1st, 1944
Oct, 16.

Diagnosis Abscess on the left hip.
by a certain physician.

Findings Incision made on a boil in the left hip on Oct, 2nd: treated at the Shibaura work clinic since Oct, 15th on infiltration of a greater size than that of a fist noticed in the left hip toward the center: skin reddening conspicuous and pain acute.

Treatment and Progress Iodine given on the region and some drainage inserted: pain alleviated and discharged on Oct, 16th.

Result Discharged before complete recovery.

On Death Certificates

According to the provisions of the army, the
Death certificates that have not the sign of
the doctor in charge of the prisoners held are
null, they were not made.

MURPHY Albert	See the dispatch No. 7
LITTLE Frank	ditto No. 4
WARD W. A.	We know nothing of him.

裏
面
白
紙

The Master of all Japanese [unclear]
Assigned or attached to the [unclear] [unclear] [unclear]
[unclear], who were responsible for the treatment of
[unclear] POW's.

1	Name	Residence	Present Address
	[unclear]	[unclear]	[unclear]
	WAKITA, SHUNJI	4, Sakurai-chohi Nagasaki	100 Fujino-cho, Yama-Kita, Sakai-Kan

裏
面
白
紙

東京並南健保附産病院名簿

The Report presented to

His Majesty's Government.

The Shibaura School Hospital

attached to The Iseya Shibaura

Electric Co., Ltd.

Tokyo.

1,108 Akihabara, Tokyo.

Tokyo.

Attending physician, Dr. Michio Kitano

Nurses, Attending nurses

Their class taken by I.S. physicians and
Hospital Corps

Nurses attached at the operation room

Michio Kitano
Kenji Ito
Tomoko Hayashi

Patient No. 1 Name: [blank] Age: 28 years Admitted July, 13, 1945
Discharged Aug. 5

Diagnosis: Fracture on lower jaw, dislocation and fracture on upper end
of right brachium.

Findings: Lower jaw fractured at the middle of the right side, with a
piece of bone as large as a finger-nail isolated. Perforation
of the mouth rendered impossible. A small lacerated wound
inside the mouth. The joint region of the left shoulder had
a diffused swelling, with spontaneous pain and operative
pain in the region. Movement extremely restricted. An
L-ray examination showed a T-shaped fracture in the joint region
of the right brachium, the top of the bone displaced forward
and downward.

Treatment and
Progress: Cold compresses administered on the two external wounds.
For the fracture of the brachium, splints used. For the
fracture in the lower jaw, surgical replacement and sewing
with silver wire given on July 20th. Complete closure of the
mouth recovered. No marked suppuration noticed in the
surgical wound.
For the dislocation and fracture in the upper end of the right
brachium, replacement under chloroform attempted, but in vain.
On July 25th, surgical replacement administered. During the
operation, it was noticed that the top of the bone had been
fractured through the joint bag and part of it set in place
outside the muscle. After the operation, restriction of movement
found removed. Healing of the fracture through the use of splints
with bandage expected.

Result: Discharged before complete recovery.

Patient No. 2 Hobara 35 years Adm. July 13, 1948
Died Aug. 5

Diagnosis contusion on the waist.

Findings No marked swelling or discoloration noticed; oppressive pain and spontaneous pain, explained of.

Treatment and Progress Cold compresses administered. Spontaneous pain and pain elicited by movement gradually alleviated. July 26th, walking on crutches became possible. When discharged, walking without support was possible; pain still felt when violently moved.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 3 in flesh 28 years Adm. July 13, 1948
Died Aug. 5

Diagnosis Fracture in the top of the right tibia; contusion on the right knee.

Findings A swelling and pain in the right knee joint; bending or stretching impossible. An X-ray examination showed a fracture in the top of the right tibia, the fractured tibia dislocated upward. Slight swelling and pain in the left knee.

Treatment and Progress Cold compresses; and the right upper limb set at extension position and given splints with bandage. Contusion on the left knee also cured by July 19th; walking became possible. For the fracture in the top of the right tibia, surgical replacement given on July 24th after cutting for the absorption of the blood in the fracture, covered up with silver wire in place; the wound healed by suppuration, and healed in the first period. After the operation, extension splints with bandage given for resting the fractured region.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 4 Myronott 24 years Adm. July 15, 1948
Died Aug. 5

Diagnosis Fracture in the right thigh bone.

Findings The right thigh prominently swells with acute oppressive and spontaneous pain. The right lower limb dislocated, deformed, and shortened. An X-ray examination showed a fracture in the central region of the right thigh. A slight wound noticed at the outside.

裏面白紙

Treatment and Progress Plaster in splints with bandage and cold compresses given. Surgical replacement given on July 24th, covered up in place with silver wire. During the operation, damage in the thigh muscle was found to be considerable. In spite of sulphamide preparations given before and after the operation, there were signs of suppuration. There followed fever, relaxation, increase of pain, increased swelling in the thigh: gradually leading to a swell over to the stem of the thigh with the symptom of blood-poisoning. On July 31st, amputation complete on the right thigh. At that time the infected side was swollen to the size more than three times as that of the healthy side, and the section of amputation showed separated spots here and there. Set in place, covered up, and some drainage applied. After the operation, fever still high. Discharge of pus from the wound was immense. The patient grew weaker and weaker. In spite of cardiac stimulant sulphamide preparations, vitamins, he died at 6:30 a.m., Aug. 12th, on account of heart failure.

Result Death.

Patient No. 5 **Wrist** **26 years** **Adm. July 13, 1945**
Dis. July 23

Diagnosis **Contusion on the back.**

Findings **Complaints of oppressive pain and spontaneous pain on the first lumbar vertebra. In sitting and lying, pain increased. At X-ray examination showed no change in the first lumbar vertebra or of near.**

Treatment and Progress **Cold compresses and rest given. On July 19th, pain elicited by movement still felt. Pain gradually alleviated afterward.**

Result **Improved.**

Patient No. 6 **Van Lichten** **23 years** **Adm. July 13, 1945**
Dis. July 25

Diagnosis **Contusion on the right hip.**

Findings **Swelling from the right hip to the thigh joint region. No external wound. Oppressive pain, spontaneous pain, pain felt in walking.**

Treatment and Progress **Cold compresses and rest given. Pain gradually alleviated, almost recovered and walking was possible in a week.**

Result **Improved.**

Patient No. 7 Hochkumpf

38 years

Adm. July 13, 1943
Dis. July 4.

**Diagnosis
Findings**

uncomplicated fracture in the right lower thigh.
It is reported that when wounded, the lower end of the tibia was dislocated, protruding through the wound to the inner side of the lower thigh, and swollen; the foot dislocated outward, and the army physician in charge set it to rights and administered first aid.
On the ^{inner} inner side of the right leg near the foot joint, a sprain of about 2 cm., the wound swollen and connected with the articular cavity. Swelling on the inside and outside ankles in the foot joint with oppressive pain and spontaneous pain. Movement of the foot joint impossible. An X-ray examination showed a lateral fracture and isolated bone pieces respectively in the inside ankle near the lower end of the tibia and in the outside ankle near the lower end of the fibula.

**Treatment and
Progress**

Splints with bandage and complete rest given. The wound surface considerably swollen, discolored, and sprinkled with sulphamide preparations. Temperature ran over 38 C. every day, never falling. By July 19th, suppuration became considerable, with a fair amount of drainage; the swelling on the right foot joint increased and the wounded region showed a dropical swelling. By July 25th, the foot wounded region collapsed, forming holes discharging pus. Temperature still high, being 38-39: administering sulphamide preparations brought no improvement. ^{active} Active suppuration growing weaker and smaller. Suppuration reached upper regions, swelling increased with signs of phlegmon. On Aug. 1st, amputation executed on the right femur. Placement and sewing with gauze drainage. Drains observed on the operation section.
After the operation, temperature slightly fell, but still remained feverish; little appetite. Signs of the weakening of heart function noticed. Cardiac stimulants, sulphamide preparations, and vitamins continuously used; he has lost blood spontaneously on Aug. 4., so we put a stop to it. Death took place on 11: 15, P.M., Aug. 4. Death.

Result

Patient No. 8 Meyer

24 years

Adm. July, 15, 1945
Dis. July, 25

**Diagnosis
Findings**

Fracture of the right radius. A contusion on the back. A diffused swelling on the right arm joint on the radius side. No external wound noticed. Oppressive pain, spontaneous pain; the articular movement of the arm imperfect because of the pain. Movement of fingers also ^{likely} likely to be restricted. An X-ray examination showed a complete lateral fracture near the end of the right radius, the end being slightly dislocated toward the radius side and the palm. No proximal swelling on the back noticed, but oppressive pain and spontaneous pain felt.

**Treatment and
Progress**

The fractured region replaced under local anesthesia, and placed by splints with bandage; cold compresses applied on the back. After replacement, pain alleviated. By July 19, the pain on the back almost completely gone; that of the fractured region also decreased.

裏面白紙

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 9 Albert 27 Years Adm. July 13, 1945
Dis. July 23

Diagnosis Contusion and abrasion on the left lower limb.

Findings Several discolored spots on the skin of the left lower limb and also an abrasion. Walking found difficult.

Treatment and Cold compresses: pain alleviated, until walking became possible.

Progress

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 10 Robert 31 Years Adm. July 13, 1945
Dis. July 23

Diagnosis Contusion, and sprain on the right lower thigh and the head.

Findings A slight swelling on the left lower thigh. Sprain on the head. Walking difficult: pain elicited by movement.

Treatment and Dressing the wound and cold compresses given. Pain alleviated:

Progress only pain elicited by movement remained.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 11 De Beck 30 year Adm. July 13, 1945
Dis. July 23

Diagnosis Sprain on the left foot joint.

Findings A diffused swelling on the left foot joint with oppressive pain and spontaneous pain: walking found difficult. An X-ray examination showed no change in the bone.

Treatment and Cold compresses and complete rest given. On July 19th, walking was

Progress still impossible: but gradually improved.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 12 De Beck 39 year Adm. July 13, 1945
Dis. July 23

Diagnosis Sprain in the left foot joint. Sprain on the left thumb.

Findings A swelling on the left foot joint. Pain elicited by movement, oppressive pain, and spontaneous pain felt. Walking difficult. Pain elicited by movement on the right thumb also, with spontaneous pain noticed.

Treatment and Cold compresses and rest given. Pain gradually alleviated until walking

Progress became possible.

Result Improved.

裏面白紙

Patient No. 12 *Kofar* 50 year *Adm. Jan 18, 1945*
Dis. July 25

Diagnosis "2 cm. abscess reaching approximately halfway on the forehead above the right eye. A swelling on the left hip with pain; walking difficult.

Treatment and Progress dressing of the wound and cold compresses given. The wound had no marked suppuration; the swelling and pain on the hip alleviated by JULY 19th, and walking became easier.

Result Discharged.

Patient No. 14 *Umbabereva* 25 years old *Adm. July 13, 1945*
Dis. July 25

Diagnosis Contusion on the back

Findings A swelling on the back with pain; also pain elicited by movement noticed.

Treatment and Progress The swelling and pain alleviated, but on July 18th pain elicited by movement still observed.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 15 *Uok* 27 years old *Adm. July 15, 1945*
Dis. Aug. 5

Diagnosis Organic malaria.

Findings felt a swelling in the abdomen a year ago. Dropsy on the legs conspicuous; complains languor on the whole body. Treated at the Whitcomb works and given vitamins and c. Not admitted, malaria rather severe; the swelling of the abdomen noticed; the tendon-reflex normal on both sides.

Treatment and Progress As vitamin B was injected every day, dropsy alleviated for some time. After this, there was fever with shivering as follows:

July 21,	39.5 C
22,	40.5 C
23,	37.5 C
24,	38. C

Prescription: *repsin-hydrochloric acid grains 2.0, reduced iron 0.5*
 After this treatment, fever falls; condition improved by degrees until walking without support became possible.

Result Discharged before complete recovery.

Patient No. 16 *Uok* 25 years *Adm. Jan, 17, 1944*
Dis. Jan, 18.

Diagnosis Abscess of peritonitis.

Findings Pain felt in the abdomen at 3 P.M., Jan. 17th, 1944:

裏面白紙

234

Pain subsided by 4.30 P.M. after Carb. Ammon. 5.0. examined the patient, he was sent to this hospital at 8.10 P.M. Temp. 37.8 C; Number of Leucocytes 7500; No swelling.

Treatment and Progress Cold compresses applied on the abscess. No marked change after this. Pain alleviated. Discharged on Jan, 10th.

Result Improved.

Patient No. 17 Greener 22 years old. Oct, 24, 1944
Oct, 27, 44.

Diagnosis Phlegmon on the left hip.
by a certain physician.

Findings Incision made on a boil in the left hip on Oct, 24th; treated at the Shikano clinic since Oct, 25th. An infiltration of a greater size than that of a fist noticed in the left hip toward the center; skin reddening conspicuous and pain acute.

Treatment and Progress Incision given on the region and gauze drainage inserted pain alleviated and discharged on Oct, 18th.

Result Discharged before complete recovery.

On Death Certificates

According to the provisions of the army, the
Death certificates that have not the sign of
the doctor in charge of the prisoners only are
null, they were not made.

Albert	See the diagnosis No. 7
Frank	ditto No. 4
Edward J. A.	to know nothing of his.

裏
面
白
紙

On the order of all Japanese Personnel

assigned or attached to the KYUSHU DISTRICT ARMY
HEADQUARTERS, who were responsible for the treatment of
DUTY OFFICERS.

Name: Mutsu Province: Aomori

Rank: Major

1918, AYUMI 4, Mutsu-cho, Aomori
Mutsu-cho, Aomori

有主向一 / 100



第105號

停廣二關又此報告書

東京芝浦區芝浦氣株會社
芝浦保院

裏面白紙

一 連合五人名簿, 件.

弊社健康保険附属病院 = 収容シタル連合五人名簿ハ列表(1)ノ通りデアレ.

二 死亡証明書, 件.

弊社健康保険附属病院ヲ死亡シタル者ハ列表(1)ニ掲載セル No. 4 及 No. 7, = 名デアレガ弊社健康保険附属病院ハ聯合五軍医, 直接管理ニ委任セルヲ以テ死亡, 証明書ヲ発行セル権能ヲ有セシ. 然シ死亡者ノ当时, 状況ハ(1)ニ述ベル通りデアレ.

三 浮草取扱 = 責任アルモノ名簿

列表(2)ノ通り

裏面白紙

(1) 1. ダウンス

45才

P.2

昭和20年7月13日入院
8月5日退院

診断
所見

下顎骨折 右^上膊骨頭脱臼骨折
下顎ハ右側中央部ニ骨折シ凡印大骨片ヲ遊離ス咬合
全不可能ナリ。口内ニ小裂創アリ。
右^上膊骨頭脱臼ニ慢性ニ腫脹シ刻部ニ自発痛圧痛
アリ。運動ニ甚シク制限セラレ運動時ハ疼痛増強ス
レントゲン検査ニヨリ右^上膊骨頭丁字形ノ関節内
骨折アリ。骨頭ハ前下方ニ脱臼シタリ。

処置経過

再受傷部ニ冷湿布ヲ行フ。上膊骨折ニ対シテ副木固
定ヲ行フ。下顎骨折ニ対シテハ7月20日手術的ニ修復
固定術ヲ行ヒ。銀線ニテ縫合セリ。咬合ハ恢復セリ
ソノ後手術創ハ甚シク化膿ヲ認メタリキ。
右^上膊骨頭脱臼骨折ニ対シテハエーテル麻酔下ニ
之ヲ修復ヲ試シニ成功セズ。7月25日手術的ニ修復
セリ。手術時骨頭ノ関節囊ヲ破リ一部筋肉内ニ固
定セラレテ認メタリ。手術後運動制限ハ解除セラレ
タリ。副木繃帯ヲ骨折部ニ治療ヲ期待シ居リタリ。

轉帰

半治

2. フランス

29才

昭和20年7月13日入院
8月5日退院

診断
所見

膊部打撲
膊部ニ著明ニ腫脹変色部位ヲ認メテ圧痛自発痛アリ。
冷湿布ヲ行フ。自発痛運動痛ハ漸次軽減シ7月26日
頃ハ松葉杖ヲ歩行可能トシ退院時ハ独歩可能トナリ
然レモ劇動時ニ尚疼痛アリ

轉帰

半治

裏面白紙

3. デ・クラフ 25才 昭和20年7月13日入院
今年8月5日退院

診断： 右尺骨々頭骨折。左膝部打撲。
所見： 右肘部部=腫脹疼痛アリ、屈伸不可能ナリ。
レントゲン検査=ヨリ 右尺骨々頭部=骨折アリ
3. 骨折片ハ上方=移位シテリ。
左膝部=軽度腫脹疼痛アリ。

処置経過： 共=冷湿布ヲ行ヒ、右上半肢ハ伸展位ニ
固定、副木繃帯ヲ行フ。左膝部打撲ハ
7月19日殆ンド治癒歩行可能トナレリ。
右尺骨々頭骨折ニ対シテハ骨折部出血、吸収
セザルルヲ見テ手術時=骨折片ヲ整復シ、銀線ニテ
縫合固定ヲ行ハリ。創面ハ化膿スル事ナリ
第一期癒合セリ。術後モ伸展位副木繃帯ヲ行ヒテ
骨折部、安静ヲ圖レリ。

轉帰： 半治。

4. ライクロスユット 24才 昭和20年7月13日入院
今年8月5日死亡

診断： 右大腿骨折。
所見： 右大腿ハ著明=腫脹シテ、圧痛、自発痛甚シク
右下肢ハ、変位変形ニ短縮ス。レントゲン検査=ヨリ、
右大腿中央部=骨折ヲ認ム。外側ニハ小創ヲ認ム。

処置経過： 副木固定繃帯ヲ行ヒ、冷湿布ヲ行フ。7月23日、
手術時=整復、銀線=ヨリ固定ス。手術時大腿部
ノ筋肉挫滅高度ナキ。手術前後スルハミン剤使用
セシタリシ、化膿、穀アリ。発熱、腫脹増加シ、大腿
ノ腫脹モ増強シ、漸次股部ニテ腫脹=疼痛アリ。
敗血症、症状アリ。7月13日右大腿ニ於テ切開術
施行ス。當時患側ハ健側ニ比シ約3倍大以上ニ
腫脹シ、切開面=化膿部散見ス。定位縫合ニシテ
ヲ置ク。術後尚発熱上マズ。創面ヨリ、排膿甚ダ
多量ニシテ、漸次衰弱ヲ増ス。強心剤スルハミン、
ビタミン剤ヲ使用セルモ、心臓衰弱ノ為メ8月5日午後
2時ニ於テ死亡ス。

轉帰： 死亡。

裏面白紙

体温ハ日々38℃ヲ越ニ下熱セズ 7月17日頃ハ化膿
 著明ニシテ排膿相当ニアリ。右足関節、腫脹ヲ増大シ
 創部モ浮腫状ヲ呈ス 7月25日頃創面全面ニ自潰瘍孔
 ヲ形成シ排膿アリ 体温尚下降セズ 38~37=及ビスルハ
 ミン剤服用モ著効ナシ 食慾不振 衰弱アリ 化膿ハ漸次
 ニ方ニ波及シ腫脹増大シ 疼痛熾烈ノ症状アリ 8月1日右
 大腿ニ於テ切斷術施行ス 定位適合ガセドレンヲ置キ
 断端ニ浮腫存ス 術後体温稍下降シケレモ全ク下熱セズ
 食慾不振アリ 心臓機能衰弱ノ徴アリ 強心剤スルハミン
 前ビタミン剤ヲ運用ス 8月4日後去血アリテ止血法ヲ行ク
 午後11時15分死亡ス

転帰 死亡

8. ステータ

24才

昭和20年7月3日入院

7月25日退院

診断 右橈骨骨折 背部打撲
 折見 右腕関節 橈骨側ニ弥漫性腫脹アリ 外創ナシ
 圧痛自発痛アリテ腕関節運動ハ疼痛ノ故ニ不全アリ
 手指運動ニ制限セラレモ可能アリ レントゲン検査
 ニ明ニ右橈骨末端ニ完全骨折アリ
 末梢部ハ橈骨側ニ向ヒ又背側ニ向テ稍変位ス
 背部ニ著明ナル腫脹ナシモ圧痛自発痛アリ
 処置 骨折部ヲ局所麻酔ニテ整復シ 副木偏帯ニテ固
 定シ 背部ニ冷湿布ヲ行ク
 固定後疼痛軽減シ 7月17日ハ背部疼痛ハ殆
 ド消失シ 骨折部疼痛モ亦減退ス

転帰 中治

裏面白紙

9. F-1410-1 27才 昭和20年7月13日入院
7月25日退院

診断 左前肢撲傷
所見 左前肢に数ヶ所の皮膚着色あり、又撲傷痕あり、骨
行困難あり。
処置経過 冷湿布の処置を施すに於て、骨行が可能となり、
矯治中。

10. F-1410-1 31才 昭和20年7月13日入院
7月25日退院

診断 右前肢、頸部に撲傷あり
所見 右前肢に挫傷、腫脹あり、頸部に挫傷あり、骨
行困難あり、処置中。
処置経過 創傷処置を冷湿布で行うに於て、骨行が著しく進歩し、
骨に接合あり。
矯治中。

11. ドバック 30才 昭和20年7月13日入院
7月25日退院

診断 左足関節挫傷
所見 左足関節に腫脹あり、骨行自発あり、骨行
困難あり、レントゲン検査の結果、異常なし。
処置経過 冷湿布の処置を施すに、7月19日より骨行が
可能となり、漸次好転あり。
矯治中。

12. ドバック 39才 昭和20年7月13日入院
7月25日退院

診断 左足関節挫傷、右相指挫傷
所見 左足関節に腫脹あり、足趾痛あり、骨行自発あり、
骨行困難あり。

裏面白紙

右拇指に運動痛アリテ自発痛モ亦存ス
処置経過: 冷湿布ヲ行ヒ安静ヲ保ツ疼痛漸次
軽減シ歩行モ可能トナレリ。
転帰: 軽快

13. ホオ-ター 30才 昭和20年7月13日入院
7月25日退院

診断: 前額性創左臀部打撲
所見: 前額ノ右眼上部ニ略縦走スル約3cm、挫
創アリ。左臀部ニ腫脹疼痛アリテ歩行困難ナリ
処置経過: 創傷治療並冷湿布ヲ行フ。
創ハ甚シキ化膿ヲ経過シ臀部ノ腫脹疼痛モ
7月19日ニハ軽減シ歩行容易トナル。
転帰: 軽快

14. マックカバソン 25才 昭和20年7月13日入院
7月25日退院

診断: 背部打撲
所見: 背部ニ腫脹疼痛アリ又運動痛アリ。
処置経過: 腫脹疼痛ハ軽減シタルモ7月19日ニハ
尚運動痛アリ。
転帰: 半治

15. クツク 27才 昭和20年7月13日入院
8月5日退院

診断: マラリヤ原液質
所見: 一年前ニ腹部ニ腸捻転アリ。下腹浮腫3度
度ニシテ全身倦怠アリ。芝浦診療所ニテビタミンB₁ヲ
使用加療セラレタリ。入院時貧血相当度腹部腸捻
中等度 腸反射ハ両側正常ナリ。
処置経過: 毎日ビタミンB₁注射ヲ行ヒシニ浮腫ハ一時
減退ス ヲノ後ハ 21日 39.5°C 22日 40.5°C
23日 37.5°C

裏
面
白
紙

昭和十一年三月十七日
東京府立第一病院
内科
野村 幸三

7:7 昭和十一年三月十七日 夜
11時退院

診察 腹膜炎 疑
11日午後10時頃腹痛が中絶し
腹痛が劇しく増し、全身に汗を流し、
大動脈が強く打つた。体温
37.6°C、白血球数 15,000以上。
大動脈が強く打つた。其後若干
腹痛が消失し、11日午後11時退院。
転座 軽快

17 昭和十一年三月十七日 夜
11時退院

診察 左胸可動性腫瘍
11日午後10時頃、胸物の某所に打撲
あり、その直後に左胸に腫瘍が出現し、
中絶し、その直後に左胸に腫瘍が出現し、
大動脈が強く打つた。其後若干
腹痛が消失し、11日午後11時退院。
11日午後11時退院

裏面白紙

(2)

P. 9.

主治医 相川敏夫

看護婦(附加看護婦) 十三

停務看護婦=衛生士=当儿

看護婦(外科看護婦)

持三子

并出为二

小山敏子



裏面白紙

247

總發第二〇八号

昭和二十二年六月二十四日

厚生大臣官房總務課長

連合軍總司令部

公衆衛生福社部長 殿

掠奪コーヒー豆、ココア豆拂下の件

一、一九四七年四月二十九日附覚書（A G 四三五、O P O、F P、主
題「掠奪コーヒー、ココア豆拂下の件」）につき報告書を提出す
る。

二、厚生省に於ける首種物件の利用計画は次のとおりである。

▲、コーヒー豆

二、四六〇斤

海外引揚者の上陸地に於ける收容所（五
ヶ所）に於て引揚民中の疲勞衰弱者に
飲用として給與するため利用する。

四二〇〇斤

国立病院、国立療養所の入院患者用に
利用する。

●、ココア豆

全量を局方カカオ脂、ヂウレチン製造用に利用する。

（▲、●の利用方法については總司令部公衆衛生福社部担当官の
了解を得たものである。）

三、厚生省は前項の目的に利用するためコーヒー豆ココア豆を次の会
社に拂下げをし、製品にして納入せしめるものとする。

コーヒー豆

二、四六〇斤

日本コーヒー株式会社

四二〇〇斤

森永食糧工業株式会社

ココア豆

全量

大東製薬工業株式会社

四覚書第三項の価格は物價應により左の如く決定された。

コーヒー豆

一斤

六円十二銭

ココア豆

一斤

五円七十八銭

五 覚書第四項の「日本銀行連合軍総司令官の保管勘定への預金」は
前記第二項の各会社をして直接日本銀行と打合せの上預金せしむ
るものとする。

六 覚書第五項にある書類の提出は引取及び拂込み後提出する。

June 17, 1947

Concerning Release of Coffee Beans and Cocoa Beans
Noted by the Japanese.

1. We do hereby submit a report to you, acting on SCAP Memorandum
dated April 23, 1947.

2. Following is Welfare Ministry's disposal program of these
two kinds of beans.

A. Coffee Beans: 2,460 kg.

Offered as beverage for destitute families of repatriates
from overseas at five repatriation centers on landing
points.

~~4,200 kg.~~ 4,200 kg.

Offered for in-patients of National Hospitals and
National Sanatoria.

B. Cocoa Beans:

Total amount will be used to manufacture cacao fat
and deuretine prescribed by Pharmacopia Japonica.

We have obtained the full understanding of PHV officials
concerned of SCAP in regard to the method of using A. and
B. articles.

3. Welfare Ministry intends to turn over these beans to
the following companies and let them manufacture products
from these beans and make products, and deliver in Welfare Ministry

Coffee Beans	2,460 kg.	Daishan Coffee Co., Ltd.
	4,200 kg.	Marinaga Foods Industry Co., Ltd.
Cocoa Beans	Total Amount	Daito Drug Manufacture Co., Ltd.

4. Prices mentioned in Article 3 of the SCAP Memorandum have
been decided upon as follows:

Coffee Beans	1,000 kg.	5.42 6.62 yen
Cocoa Beans	1,000 kg.	5.75 5.30 yen

裏面白紙

3. Annexation with regard to payment into "Custody Accounts of General Commander for Allied Powers at the Bank of Japan" mentioned in Article 4 of the Memorandum, the above mentioned companies will be caused to pay into the Custody Accounts directly as a result of direct negotiations with the Bank of Japan.

4. Documents mentioned in Article 5 of the Memorandum will be submitted to you after the completion of payment and take-over business by Defense Ministry and payment by these companies.

Yours very truly,

General Affairs Section,
Ministerial Office.

裏面白紙

日 月 送 受 號 番 先 議 合		備 號 省 生 厚	
第 13 號 送 受 月 日	第 377 號 送 受 月 日	案 起 昭 和 年 月 日	受 局 付 送 月 日 號
終 連 經 濟 部 厚 生 勞 働 課 長 殿		判 決 月 日	合 校 月 日
厚 生 省 大 臣 官 房 總 務 課 長		行 施 月 日	日 號
蘭 領 東 印 度 バ ン ド ン の 瘡 研 究 所 に 保 管 下 せ たい		主 査 月 日	日 號
案		主 任 月 日	日 號
木 匠 總 務 課 長 向 取		主 査	
末 官 事 務 官		主 任	

甲乙ノ種類

豫登第五八一號

昭和二十二年八月八日

厚生省予防局長

厚生省官房總務課長殿



蘭領東印度バンドンの産研究所に保管され
ていた書籍及雜誌の移動に關する件
標記の件に關して、貴省に關係ある左記の者につ
いて調査したところ、天々別紙を通し回答がある
たので報告する。

裏面白紙

裏面白紙

南領東印度バンドンの廣研究會の保管所
に書籍及雜誌の移動に關する付回答

北海道廳衛生部長 西野陸夫

小職は昭和十七年十月爪哇島上陸、昭和十八年一月
爪哇軍政並衛生局營養課長として、當時
南支總軍管理に當りたるバンドン廣研究會
の視察を駐屯部隊に申し出られたが、同研究會は
日本軍進駐以來閉鎖中にして視察の目的を
達し得なかつた。従つて東洋に關するは、何等
の關係もなかつた。故に、今更に同研究會の
昭和二十二年七月三日

以上

裏面白紙

蘭領東印度バントンの庶研究に保管され
るの書籍及雜誌の得動に同令すべし

之陸軍司政典官

昭和十三年八月五日 ジャワ衛生局長

左 藤、一四

小蔵口昭和十八年四月廿五日 ジャワ衛生局長
に、越傳しバントンの庶研究に同令すべし
たるとの表記の書籍及雜誌が終戦時に如
く相成りしや、衛生局長より距離運送の地に
一切不明の事情に付右為限日回答候
也

裏面白紙

南領東印度バンドンの産研究
その書籍及雑誌の移動に因すべし

回答

日東生物科学研究所長

(九月四日、東京銀行ビル三階)

倉内 泰久 雄

小沢昭和十七年十一月十日南方軍防疫給水部附
補少佐の令十八年一月七日南方軍防疫給水部に
出張可長(旧バスタール研究所)より赴任し前
任者山田美彌雄大尉と事務引継ぎ完了した。
バンドンの産研究は軍の意向に依りバスタール研究
所と共に軍に移管した。両方の圖書は当時既に作
成してあった圖書目録と引合せの上引継ぎ完了

裏面白紙

一、この当時一冊も給つた事もない。昭
 和十八年五月五日、今野は南方軍
 府防疫給水部、(当時小職
 は内地軍令部出陣中にて不在) 前
 任の衛生局長、松浦光清氏所長と
 して赴任せられた。赴任後、昭
 和二十年四月二十七日、附小職は
 第二十九軍の政務部に転属し、
 任命された。島本島嶼科大學教
 授に任命された。従つて、爾後
 の圖書の移動、其の他、小職の
 関知する処は、
 俱、南方軍府防疫給水部時代の
 圖書目録に記載せられたるもの
 は一冊も給つた事もない。証
 明する。猶、旧バスターン研究
 所圖書目録に、
 三

裏面白紙

Hanana Joffe 及び 監理セーの同バンボン産研究
 誌圖書は全部御逸人 Dr. Boon van Ockel 及
 Dr. Rastor に監理セーに就き、今人等猶
 全平にあらば一應調査したる不字判明する事と
 思はるに就き附言す。且つ少職私任は當時は
 旧法長 Dr. Ockel 及其他南印幹部も全負
 就業すし、わが局りしに就き當時も給考等
 ものふかりし事、今氏等も充分認め、居る事と
 思はる。

以上

送 行 書

22 年 5 月 27 日

~~終 運 官 理 部 特 殊 財 產 課 發~~

厚 五 百 宛

AP 461 (23 Jan 1947) CPC/FP

~~(SCAPIN)~~

SUBJECT: Books and Periodicals Removed from the Cancer
Institute, Bandoeng, Netherlands East Indies.

裏
面
白
紙

259

司令部四五一CPC/EP APO五〇〇

昭和二十二年一月二十三日

終 連 宛

蘭領東印度バンドンの癌研究所に保管されてゐた書籍及雜誌の移動に関する件

一、終連は蘭領東印度を日本軍が占領中移動したジャババンドンの癌研究所保有の左記書籍及雜誌の行方を調査し報告せよ。

- a. F. Henke and O. Juharsch
Handbuch der speziellen pathologisch-anatomie
und histologie Band I-KII (28 Vols)
Berlin, Julius Springer
- b. American Journal of Cancer
(Formerly: Journal of Cancer Research)
Vol. 8 (1914) up to Vol. 25 (1934)
- c. Bulletin de l'association française
pour l'étude du cancer
Vol. 7 (1914) up to Vol. 25 (1934)
- d. Zeitschrift für Krebsforschung
Band 46-49 (1937-1939)

二、右冊子には凡て
にて捺印してある。

"Bibliothek
N.I. Kanker-Instituut".

とゴム印

三、調査報告は来る三月一日迄に民間財産管理課（CPC）へ提出
すべし。

管理官

准將

バトリック・H・タンセイ
代理 F、Pシバート

裏面白紙

総発第三七七号

昭和二十二年八月十四日

厚生大臣官房総務課長

終連 經濟部
厚生労働課長 殿

件 蘭領東印度バンドンの癌研究所に保管
されていた書籍及雑誌の移動に関する

標記の件に関し当省予防局長より別紙の通り回答があつたから報告
する。

総務第三七七号

昭和二十二年八月十四日

厚生大臣官房総務課長

終連 經濟部
厚生労働課長 殿

蘭領東印度バンドンの協研究所に保管
されていた書籍及雑誌の移動に関する
件

標記の件に関し当省予防局長より別紙の通り回答があつたから報告
する。

裏面白紙

予発第五八一号

昭和二十二年八月八日

厚生省予防局長

厚生省官房総務課長 殿

蘭領東印度バンドンの癌研究所に保管されていた書籍及雑誌の移動に関する件

標記の件に関して、当省に関係ある左記の者に付いて調査したる所
夫々別紙の通り回答があつたから報告する。

裏面白紙

裏面白紙

蘭領東印度バンドンの癌研究所に保管されていた
書籍及雑誌の移動に関する件回答

北海道衛生部長 西野 隆夫

小職は昭和十七年十月爪哇島上陸、昭和十八年一月爪哇軍政監部
衛生局涵養課長として、当時南方総軍管理に属してゐたバンドン癌
研究所の視察を駐屯部隊に申出たが、同研究所は日本軍進駐以來
閉鎖中にて視察の目的を達し得なかつた。従つて本件に關しては何
等関與するの機会もなく全く関知したことがない。

昭和二十二年七月三十日

以上

南領東印度バンドンの廣研究所に保管されていた
書籍及雜誌の移動に関する件

昭和二十二年八月五日

元陸軍司政典官

ジャワ衛生局長

佐藤

正

小嶋は昭和十八年四月二十五日よりジャワ衛生局長として赴任し
バンドン廣研究所をも所管したるところ表記の書籍及雜誌が終戦時
に如何に相成りしや、衛生局との距離遠隔の地にて一切不明の事情
に有之候に付右爲後日回答候也

蘭領東印度バンドンの廳研究所並にバーストール
研究所に保管されていた書籍及雜誌の移動に關
する件

回 答

日本生物科学研究所長

(丸の内一ノ二東京銀行ビル三階)

倉 内 喜 久 雄

小職昭和十七年十一月十日南方軍防疫給水部附補せられ同十八年
一月七日南方軍防疫給水部ジャワ出張所長(旧バーストール研究所)
として赴任し前任者山田美彌雄大尉と事務引継を完了した。バンド
ン廳研究所は軍の意向によりバーストール研究所と共に軍に移管され
た。両所の圖書は当時既に作成してあつた圖書目録と引合せの上引
継を完了したが当時一冊も紛失せるものはなかつた。

昭和十八年五月五日同所は南方軍防疫給水部より南方軍々政總監部
に移管され(当時小職は内地学会出張中にて不在)前ジャワ衛生局

長松浦光清氏所長として赴任せる爲引継を完了し爾後の責任は同氏
に移つた。越えて昭和二十年四月二十七日附小職は第二十九軍々政
監部に轉属を命ぜられ 來医科大学教授に任命された。従つて爾後
の圖書の移動其他は小職の全く関知せざる処である。

但し南方軍防疫給水部時代には圖書目録に記載せられたるものは一
冊も紛失せるものなきを証明する。尚旧バーストール研究所圖書は、
独逸人 *Heringhoff* を以て監理せしめ旧バンドン廳研究所圖書は全
部独逸人 *Dr. Ben van Oolce* 及 *Dr. Rott* に監理せしめたるに
就き同人等尙同所にあらば一顧調査されたら万專判認する事と思は
るるに就き附言する。且つ小職赴任の當時は旧所長 *Dr. Ohta* 及
其他蘭印幹部も全員就業せしめ居りしに就き当時一も紛失せるもの
なかりし事は圓氏等も充分認め居る事と思はれる。

以 上

KT NR 784

177
9

厚生省

MINISTRY OF HEALTH OF THE NETHERLANDS
HEALTHY INSTITUTION, SOERABAYA
Subject: Books and periodicals removed from the subject
Institute, Soerabaja, Netherlands East Indies.

C. No. 178001 2 October 1947

1. Reference:

- a. Memorandum of Civil Affairs Division File No. 1047/100/77, subject as above.
- b. D.A.C. memorandum No. 1000(10) dated 20 February 1947, subject as above.
- c. D.A.C. memorandum No. 1007(10) dated 20 May 1947, subject as above.
- d. The Ministry of Health reports the results of investigation made on the subject matter with the persons concerned with the public health affairs in the Japanese Military Government in Java, as follows:

- a. TADAO MIYANO, formerly member of the public health affairs division of the said government and TADAOSHI MIYANO, formerly Director of the public health affairs division of the said government state that during their service in the said government no book or periodical was reported to have been lost in the subject Japan Institute.
- b. MIYANO TADAOSHI, formerly acting Director of the subject Institute from 7 January 1943 to 27 April 1948, confirmed that no book had been removed during his service there. He stated that the books and periodicals of the subject Institute were in effect, taken care of by two German scholars, Dr. Deon von Ochoes, and Dr. Rotter, and by Dr. Otten, Director of the said Institute during the Dutch regime, who remained to serve there together with other Dutch employees. MIYANO, suggesting that Dr. von Ochoes, Dr. Rotter and Dr. Otten be inquired as to the circumstances, stated that they will confirm that no book were those listed in the catalogue of the library in the said Institute was lost during his service.

c. No further investigation can be made on the basis of available information at the subject matter.

(S. [Signature])
Chief of Health Section,
Central Liaison Office.

裏面白紙

聯合國軍總司令部宛
終戦連絡中央事務局宛

第七七二三号

昭和二十二年十月三日

滿鐵東印度バンドン支部會ヨリ持テ運バレタル
書籍及定期刊行物ニ就テ

- 一、民間財産管理部發昭和二十二年一月二十三日第四六一号ニ係ハル附件名覚書、終戦連絡中央事務局發昭和二十二年一月二十日第一〇八三号ニ係ハル附件名覚書、終戦連絡中央事務局發昭和二十二年五月二十三日第三九二七号ニ係ハル附件名覚書ヲ参照セラレタイ。
- 二、學生省ノ報告ニヨレバ「ジャヴァ」日本軍々政部ニ於テ公衆保健業務ニ携ハレル者ニ付テノ調査結果ハ次ノ通りデアアル。
イ前上記軍政部公衆保健部部長「ニシノタカヲ」及ビ前上記軍政部公衆保健部部長「カトウタダシ」ノ述ブル所ニヨレバ、

彼等兩名ノ服務中ニ於テ該支部會ニ於テ失ハレタト傳ヘラルル書籍定期刊行物ナシ。

昭和十八年一月七日ヨリ昭和二十年四月二十七日マデ同支部會長代理タリシ「一タイプ不明」キクヲ「ノ確認スル所ニヨレバ彼ノ同支部會勤務中書籍ニシテ他ニ持テ運バレタルモノハ存セズ

(以下印刷不鮮明ニシテ他ニ持テ運バレタセルモノハ存セズ

日 月 年 受 號 番 先 議 合		厚 生 省 課 務 總 務	
第 一	第 二	第 三	第 四
受 送 月 日	受 送 月 日	受 送 月 日	受 送 月 日
9	14		
大臣 總務課長 兼 官房 主任		局長 周 集 主任	
案 起 昭 和 年 月 日 受 局 付 課 月 日 日 號 行 施 月 日 日 月 日 日			
年 月 日 厚生大臣官房總務課長 労働基準局 給與課長殿宛 プラジール政府よりの問合に関する件			



日 月 年 受 取 送 元 額 合		第 第		第 第	
送 受	月 日	送 受	月 日	送 受	月 日
<p>標記の件は関し終連至済部長より別紙ブラジ ル政府からの問合せの本邦中等学校(以上)工業 学校機材料及び建築料卒業者の待遇給與 等につき照学会があつたから右調査方御願ひする。</p>					

外 交 局

AG三一・一（昭和二十二年七月十二日）
APo五〇〇
DS

昭和二十二年七月十二日

終 達 経 由

日 本 政 府 宛

日本に於ける工業学校に関して伯利西爾政府の
問合せに關する件

ここに瑞典外交使節から昭和二十二年七月八日附口頭通牒BB
一二〇七の四七が封入されてある。
それは日本政府に依つて正式に承認された工業学校に關する或
る情報を求めてゐるものである。

大使代理外交局長

次 長 W・P・セボード

封入物

口頭通牒（原本と写四枚）

瑞典外交使節

B B 1 二〇七 / 四七参照

口頭通牒

日本駐在瑞典瑞魯外交使節は貴外務省に敬意を表し伯利西爾に於ける日本の利益代表たるリオデジャネイロ公使館より次の如き通牒を当外交使節に寄せたことを移牒する

伯國労働省工業建築局は日本政府が公式に認定し、卒業証書を授與する工業及び建築関係の専門学校及び中等学校に関する情報獲得を希望してゐる、よつて当外交使節がリオデジャネイロの公使館に提供し得る如き情報を貴外務省より轉旋を願へれば幸甚の至りである。

昭和二十二年七月八日（東京）

日本外務省 御中

Diplomatic Section

SG 311.1 (12 July 47) 25

APD 500
12 July 1947

SUBJECT: Request of Brazilian Government Regarding
Technical Schools in Japan.

FROM: Central Liaison Office, Tokyo.

TO: Japanese Government.

There is enclosed Note Verbale No. 23-207 47 of
July 3, 1947, from the Swedish Diplomatic Mission requesting
certain information with regard to technical schools officially
recognized by the Japanese Government.

For the Ambassador, Chief, Diplomatic Section:

H. J. Gehald
Deputy Chief

Enclosure:
Note Verbale (original
and four copies).

裏
面
白
紙

SWEDISH DIPLOMATIC MISSION
RIF. BB-207 47.

Note Verbale.

The Swedish Diplomatic Mission in Japan presents its compliments to the Japanese Ministry for Foreign Affairs and has the honour to indicate that the Royal Legation at Rio de Janeiro, in charge of Japanese interests in Brazil, has informed this Mission that the Technical and Architectural Department of the Brazilian Labour Ministry, desires information which technical high school and middle schools in Japan within the sciences of engineering and architecture grant their graduates diplomas, officially recognized by the Japanese Government. This Mission would appreciate if the Japanese Ministry, if possible, could furnish the requested data in order to enable this Mission to inform the Royal Legation at Rio de Janeiro.

Tokyo, 5th July, 1947.

Japanese Ministry for Foreign Affairs,

T O K Y O .

裏
面
白
紙

August 25, 1947.

FROM : Chief of the Payment Section, Labor Standard Bureau,
Welfare Ministry.

TO : Chief of the General Affairs Section, Welfare
Ministry's Secretariat.

SUBJECT : Payment for graduates of Technical Schools
inquired by the Brazilian Government.

Considering that the latest data for investigation are lacking and the payment in our country can hardly be referred to by other countries because of our special economic conditions, we give an information of the standard monthly pay in accordance with the Company Accounts Controlling Act as an answer to the inquiry.

The starting salaries for graduates of technical schools extracted from the list of the entrance salaries for the employers in private enterprises regulated by the Japanese Government in accordance with the Law.

Graduates of Technical Schools of the Middle Grade.

¥ 42 per month

With each lapse of one year after their graduation
the salary is increased by ¥ 3.

Graduates of Colleges ¥ 70 per month

With each lapse of one year after their graduation
the salary is increased by ¥ 4.

裏
面
白
紙

Graduates of Universities ¥ 80 per month

With each lapse of one year after their graduation
the salary is increased by ¥ 5

Note:

1. Actually a bonus amounting to three or five months' salary was annually paid in addition to the salary.
2. After 1944 various allowances were paid in addition to the salary.
3. The official salaries mentioned above had no discrimination as regards acquired studies such as civil engineering, architecture or mechanical engineering.

裏
面
白
紙

給発第四四号

昭和二十二年八月二十八日

厚生省労働基準局給與課長

厚生大臣官房総務課長 殿

ブラジルの政府の照会に係る工業学校卒業者の待遇に関する件

標記の件については、最近の調査資料がないのと、最近の給與は我が國現在の経済上の特殊事情によつて他國の給與の参考にすることが困難であることを考慮して左記の如く会社経理統制令による基本給料月額をお知らせする。

記

日本政府が法律に基いて一九四〇年一〇月定めた私企業に雇傭れる者の初任給料表抜粋工業技術者の初任給

工業学校（中等程度）卒業者

月俸 四五円

但し卒業後の経過年数一年について三円を増加する。

専門学校卒業者

月俸 七〇円

但し卒業後の経過年数一年について四円を増加する。

大学卒業者

月俸 八五円

但し卒業後の経過年数一年について五円を増加する。

備考

一、実際の収入として、右の月俸の外一年間について月俸の三ヶ月分乃至五ヶ月分の賞與が支拂れるのが通例であつた。

二、一九四四年以後は右の月俸の外種々の手当の支拂が行われた。

三、右の公定給料においては土木、建築、機械工学等修得した学料に上る差遣は存在しなかつた。

合議先番號受迄年月日

厚生省發給

第 15 號

第

號送受
月 月
日 日

第

號送受
月 月
日 日



甲乙ノ種類

起 昭和二十二年九月二日

決 九月二日

局課 月 日

行 施 月 日

日 號 C.L.O. 九月三日

主 奪

庸 長

大臣總務課長

次官事務官

主任

案

年 月 日

厚生大臣官房總務課長

終連 經濟部

厚生労働課長宛

宮田君雄の動靜の件について

日 月 送 受 號 番 先 通 合		
第	第	第
號	號	號
送	送	送
受	受	受
月	月	月
日	日	日

標記の件に関し、當省医務局長より別紙の
 通り回答があつたから報告する。

I-Sho, No.236

August 28, 1947.

Director of Medical Affairs Bureau
(Seal)

Head of General Affairs Section, Welfare Minister's Secretariate, Esq.

"Re the circumstances of Kimio Miyata"

The report upon the above, inquired by letter dated
August 25, is as follows.

Eldest son of Mineichi Miyata, head of the house.

Kimio Miyata Born on Sept. 22, 1922

Course of Studies

- March, 1935. Finished the Primary School course in the 1st
Primary School, Musashino-cho, Kita-tama District,
Tokyo Metropolis.
- March, 1939. Finished the course of the 4th year of Tokyo Prefec-
tural 2nd Middle School.
- March, 1942. Graduated from Scientific Department-B, the 1st
High School.
- Sept. 30, 1946 Graduated from the Medical Department, Tokyo Imperial,
University.

Publication of Essay.

On "Penicilline Theraph," at the Tokyo District
meeting of the Japan Urological Society.

124th. Dec. 20, 1945

125th Feb. 22, 1946

127th March 22, 1946.

裏
面
白
紙

Remarks:

At present: Mineichi Miyata, his father
Eselle Miyata, his mother. Residing at
60, Hibusara-cho, Meguro-ku.

The person himself is now in Sidney.

裏
面
白
紙

裏面白紙

医書第 二五六號

昭和二十二年八月二十八日

医務局長

厚生大臣官房總務課長殿

「宮田君雄」の動靜の件について

八月二十五日付を以て照会の右の件を左の通り報告する。

記

厚生省

裏面白紙

戸主 宮田 峯一

長男 宮田 公男

大正拾壹年九月二十日生

學 歴

昭和拾年 參月 東京都北多摩郡武藏野町

第一尋常小學校卒業

昭和拾四年 參月 東京府立第二中學校四年修了

第一高等學校理科乙卒業

昭和十一年九月三日 東京帝國大學醫學部醫學科卒業

論 文 發 表

厚生省

裏面白紙

日本泌尿器化學東京地方學會に於て
「ベニシリニ療法」について

第一二四回	昭和二十年十二月二十日
一二五回	二十一年二月二十二日
一二七回	二十一年三月二十二日

備考
現在

父 宮田峯一 目黒区碑倉町六丁目在住
母 宮田工セル

本人は目下シドニーに在住

厚生省

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS
Military Intelligence Section, General Staff
Japanese Liaison Section

25 August 1947

MEMORANDUM FOR: Central Liaison Office

SUBJECT: Activities of MIYATA, Shinjo

1. MIYATA, Shinjo, was born in Australia in September, 1902, the son of MIYATA Kenjio, then a Japanese national and lecturer at Sydney University. In 1934 he came to Japan with his parents; he returned to Australia on 16 June 1946.

2. It is requested that the following report regarding subject's activities in Japan be verified, and report furnished as soon as possible, but not later than 1 September 1947:

"After his coming to Japan with his parents in 1936, Shinjo Miyata was then educated at Middle School until the age of 17 years when he attended the University Pre-Medical until 20 years of age and completed a four years' medical course at the Tokyo University, obtaining his M.D. Diploma in the year 1946. He studied Organic and Inorganic Chemistry, Physics, Botany, Zoology, Bio-Chemistry, Physiology, German and English.

He claims to have written a paper on the "Treatment of Hemorrhoids with Penicillin sodium" which was read before the 24th, 25th and 257th meetings of the Urology Association of Japan; further, that this was the first article published in Japan on clinical studies of penicillin treatment.

After the U.S. Army occupied Japan, he worked under their direction."

JAMES W. SCHEIDT
Chief, Japanese Liaison Section

Received: 25 Aug 3.30 p.m.
Copies: 1
Copy: President
Vice-President
D of GA
PA
SA
LA
MA

裏
面
白
紙

連合軍最高司令官總司令部

參謀部軍情報課日本連絡部

昭和二十二年八月廿五日

A P O 五〇〇

覚書 終戦連絡事務局宛

「宮田君雄の動静の件」

(一) 宮田君雄は当時日本国籍にありてシドニー大学の講師なりし宮田ケンジウの子息として大正十一年九月オーストラリアにて生れた。昭和十一年に両親と共に日本に來り、昭和二十一年六月十八日オーストラリアに歸つた。

(二) 本人の日本に於ける動静に就いて次の項を確認し且つ能ふ限り詳細なる報告を昭和二十二年九月六日迄に提出するよう願ふ。

「両親に伴はれて昭和十一年に日本に歸來した後宮田君雄は十七才に達する迄中学校で教育を受け、二十才に至る迄大学医学部予科に入学し、次いで東京大学に於て四十年医学部で勉学昭和二十一年卒業しM.D.の稱號(医学士を意味す)を得た。彼は無機有機化学、物理学、植物学動物学

生物化学、生理学、独乙語及英語を学習した。

彼は「ペニシリン曹達による麻痺治療に就いて論文を書き日本泌尿学会第二百三十四、第二百三十五、第二百三十七学会で発表したが之は日本に於ける最初のペニシリン臨床應用の報告であった。

米軍が日本を占領後はその指令下に働いた」と稱してゐる。

日本連絡部長

ジェームス W シュナイダー

日 月 日 受 執 番 先 議 合 厚 生 省 統 制

厚 生 省
第 80 號
22 10 14

第 16 號

起 昭 和 三 年 十 月 十 三 日

決 定 十 月 十 三 日

合 校

受 局 課 付

行 施

月 第

月

日 號

日

C. L. O
(送ル)

十 月 十 四 日

大 臣 總 務 課 長 鹿 長
未 官 事 務 官 主任

案

年 月 日

厚 生 大 臣 官 房 總 務 課 長

終 連 經 濟 部
厚 生 勞 働 課 長 宛

東 京 第 一 國 立 病 院 の 手 持 ラ ゲ ウ ム に 関 す る 件

日 月 送 受 號 番 先 最 合		
第	第	第
號	號	號
送	送	送
受	受	受
月	月	月
日	日	日
<p>標記 G・H・Q 以下の覽書の件に関し、當有 医務局長より別紙の通り回答があつた、 から報告する。</p>		

病第四〇四号

昭和二十二年十月十一日

厚生省 医務局長

總務課長 殿

厚生省

東京第一国立病院の手持ラヂウムに関する件

九月十日付を以て連絡のあつた国立第一病院床管のラヂウムにつ
いては十月八日日本銀行貯蔵庫監理官へ現品の引渡を完了したの
で別紙関係書類を添えて報告する。

なお別紙書類は日本銀行貯蔵庫監理官から最高司令部民間財産
管理部へ提出する旨指示されたので同監理官へ手交したから承知
されたい。

裏面白紙

別紙

- 一、三輪教授の原定書写
- 一、調書写
- 一、交譲書写

厚生省

裏面白紙

288

Distribution: 1af
Original-Receipt
fill

RECEIPT FOR ARTICLES DELIVERED TO THE SUBSIDIARIES

SHEET 1 OF 1 SHEET
RECEIPT NO
LOT NO6402
DATE 8 OCTOBER 1947

2-Lot Folder Name of Apparent Owner Address
3-Lot Storage file FIRST NATIONAL HOSPITAL NO. 1 TOYAMA CHO. SHIJUKO-WARD
4-Civilproperty Name of person with pertinent Knowledge
Custodian KOZO KONISHI FIRST NATIONAL HOSPITAL
Location of point of Pick Up
No. 1 TOYAMA-CHO, SHIJUKO-WARD
Name of Unit Taking Initial Custody

Authority: LETTER: SCAP FILE AC 441.1 (10 SEPT 1947) CPC/FP
ITEM NO. CODE NO. DESCRIPTION QUANTITY UNIT GRAINS

ITEM NO.	CODE NO.	DESCRIPTION	QUANTITY	UNIT	GRAINS	REMARKS
1	130206	CONTAINERS-LEAD. SAID TO CONTAIN RADIUM	3	KA	126.7 mg	THE ATTACHED LISTING OF ITEMS CONTAINED IN LEAD CONTAINERS IS PART OF RECEIPT

Delivering Officer
will mail one copy
of this receipt direct
to GENERAL ACCOUNTING
SERVICES AUDIT DIVISION
GHQ. SCAP.
APO 500.
U.S.
ARMY

I certify that I have witnessed the inventorying
and above items by the custodian of the vaults
and that the above information is correct to
the best of my knowledge and belief.
Signature

KOZO KONISHI
Shigeru Yokoyama

I certify that the articles listed on this re-
ceipt were received by me in the quantity
and condition stated.
Signature

Hugh P. Adams, Col., FA, Custodian

Vault Record Only
Checked by _____
Posted _____
Lot No. 6402
Location 424-77

裏面白紙

SECTION 2. History of Property:

Voluntary turn in by the First National Hospital of Tokyo.

Location of Point of Pick up;

No. 1 Toyama-cho Shinjuku-ward, Tokyo.

Actual Owner:

The First National Hospital of Tokyo.

Person having pertinent knowledge of items seized:

Kozo Konishi

The First National Hospital of Tokyo.

No. 1 Toyama-cho Shinjuku-ward, Tokyo.

Taken in custody by:

Date seized:

Oct. 7, 1947.

When acquired by owner?

Dec. 1, 1945.

How and from whom acquired?

Turned over from the Army medical school.

Intended use:

For medical treatment.

Actual use:

for medical treatment.

Was person or firm from whom seized a licenced use?

Yes.

Were items seized previously to SCAP through the Ministry of Finance?

It was reported through the Welfare Ministry on May 13, 1946 and Apr. 28, 1947.

裏面白紙

Remarks:

1). The Tubes No. 12, 13 and 14, mentioned in Section I, seem to have been sent from Hongkong, whereas the identification of where the Tubes No. I - No. II, were transferred from, is difficult to make.

2). The tubes No. I - No. II, were in the fire in the airraid, on May 25, 1945, when the Army Medical School was burnt down.

3). Previously the amount was reported to be 20 mg. as the great part of the radium was considered to have been destroyed due to the fact stated in 2.

The survey, made by Prof. M. Miwa in compliance with the Directive AG 441. I (10 Sep, 47) JFC PP (SCAPIN 4432-4) reveals that, its total weight still amounts to 126.7 mg.

4). The tubes No. 12, 13 and 14 were entrusted to Hiroshi Seino, Surgeon Lieutenant Colonel, Instructor to the Army Medical School, to be brought home from Hongkong.

5). The tubes No. I - No. II were delivered from the War Ministry to the Army Medical School during the periods of time from the end of 1944 to the beginning of 1945. The identification of where did the radium come from, is difficult to make at the present time.

6). Since the Army Medical School was burnt away in the airraid of 25 May, 1945, involving all the documents concerning this issue, anything detailed and accurate, can hardly be grasped.

7). The persons mentioned below, who are considered to have some knowledge about the issue, have been summoned and consulted. None of them, however, had any accurate record or memory which was trustworthy enough.

Juichi Suzuki, former Surgeon Colonel, Senior Adjutant.

Kaoru Ochi, former Surgeon Major, Physician to the Skin Department, the Army Medical School.

Saburo Tanahashi, Physician to the Skin Department, the Army Medical School.

裏
面
白
紙

INVENTORY-HISTORY-RECEIPT FOR PROPERTY TAKEN INTO CUSTODY

SECTION 1. Itemized Inventory of Property:

Description	Quantity	Unit	Cross Weight in Grams
No. 1 Tube (burnt and injured)	0.5 mg	1	0.5 mg
No. 2 "	17.0 "	1	17.0 "
No. 3 "	21.5 "	1	21.5 "
No. 4 "	4.8 "	1	4.8 "
No. 5 "	14.6 "	1	14.6 "
No. 7 Tube (Two tube amalgamated)	13.7 "	1	13.7 "
No. 8 Tube (burnt and injured)	10.3 "	1	10.3 "
No. 9 "	10.0 "	1	10.0 "
No. 10 Tube(4326)	6.2 "	1	6.2 "
No. 11 Tube(burnt and stuck in a brass case)	5.2 "	1	5.2 "
No. 12 Needle (M.D.H.K. 7.5 mg)	7.6 "	1	7.6 "
No. 13 "	7.5	1	7.5 "
No. 14 "	7.3	1	7.3 "
Total :			126.7 mg

Remarks:

1. All the tubes are made of platinum and about 2 mm in diameter and 20 mm in length. All the needles are also made of platinum and 2.0 mm in diameter and 18 mm in

裏面白紙

length. But all of them except No. 10 tube and No. 12, 13 and No. 14 needles are burnt and more or less injured on account of amalgamation with lead case. Some tubes are deformed so severely that a part of radium contained seems to have been lost. No mark engraved on the wall of platinum also can be seen for the same reason, except No. 10 tube, and No. 12, 13 and 14 needles.

2. The quantity of radium was determined by comparing the gamma ray activity with that of a standard radium tube kept in the 1st National Hospital of Tokyo. The absorption of gamma rays by wall of tube was difficult to estimate, because the wall was deformed severely as described above, no correction for the absorption of gamma rays therefore was considered. The quantities of radium given above are probably correct within a few percent.

MIWA Mitsuo

Professor of the Tokyo College
of Letters and Science.

裏
面
白
紙

SECTION 2. History of Property:

(Seized from) (Voluntary turn in by)

Unknown.

Location of Point of pick up:

Tubes No. 12, 13 and 14 seem to have been seized in Hongkong, whereas the location of pickup of No. 11 is unknown.

Person having pertinent knowledge of items seized:

(about No. 12, 13 and 14)

Sungo Takita, Surgeon Colonel, the former suprintendent of Hongkong First Army Hospital.

The addresses of both persons are unknown.

(about other tubes unknown)

Taken in custody by both persons, mentioned above. So far as No. 12, 13 and 14 are concerned, whereas nothing is identified as to No. 11.

Date seized:

No. 12, 13 and 14, about January to February, 1942, whereas unknown as to No. 11.

When acquired by owner:

Unknown.

How and from whom acquired:

Turned over from the former army medical school.

Intended use:

For medical use.

Actual use:

For medical use.

Was person or firm from whom seized a licenses user ?

Unknown.

Were items seized perviously reported to SCAP through the Ministry of Finance ?

裏面白紙

Yes it was done on 18 May, 1946, through the Welfare Ministry. As the survey of radioactivity of the burnt radium was not made yet at that time, its total weight was under estimated and reported to be 20 mg., according to supposition.

Remarks:

1). The tubes No. 12, 13 and 14 were entrusted to Him Hiroshi Seino, Surgeon Lieutenant Colonel, Instructor to the Army Medical School, to be brought home from Hongkong.

2). The tubes No. -- No. 11 were delivered from the War Ministry to the Army Medical School during the periode of time from the end of 1944 to the beginning of 1945. The identification of where did the radium come from, is difficult to make at the present time.

3). Since the Army Medical School was burnt away in the airraid of 25 May, 1945, involving all the documents concerning this issue, anything detailed and accurate can hardly be grasped.

4). The persons mentioned below, who are considered to have some knowledge about the issue, have been summoned and consulted. None of them, however, had any accurate record or memory which was trustworthy enough.

Juichi Suzuki, former Surgeon Colonel, Senior Adjutant.

Kaoru Ochi, former Surgeon Colonel, Senior to the Skin Department, the Army Medical School.

Saburo Tanahashi, Physicial to the Skin Department, the Army Medical School.

裏面白紙

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

WFO 503
10 September 1947

AG 441.1(10 Sep 47)CFC FP
(SCAPIS 4436-A)

MEMORANDUM FOR: JAPANESE GOVERNMENT

THROUGH : Central Liaison Office, Tokyo.

SUBJECT : Radium Now at Tokyo First Government
Hospital, Tokyo.

1. Reference is made to C.L.O. No. 6419(RP), 15 August 1947, subject, "Radium Removed from Government Hospitals, Hong Kong."

2. The Japanese Government is directed to assay as to amount and kind, survey and describe the radium now at the Tokyo First Government Hospital, No. 1 Toyama-cho, Shinjuku-ku, Tokyo.

3. The above assay is to be made by Professor Mitsuo Miwa of the Tokyo College of Letters and Science.

4. On completion of the assay the Japanese Government is directed to deliver the subject radium to the U.S. Custodian of Vaults, Bank of Japan.

5. The Japanese Government is further directed to complete in sextuplicate the receipt forms, a copy of which is inclosed. These receipt forms, properly executed, are to be distributed as follows:

- a. Three (3) copies to be handed to the U.S. Army Custodian of the Bank of Japan at the time of transfer of the radium;
- b. Two (2) copies to be forwarded to General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, Civil Property Custodian;
- c. One (1) copy to be retained by the Japanese Government.

6. A report of Professor Miwa's findings and report that the actions directed in paragraphs 4 and 5 have been completed are to be submitted to General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, Civil Property Custodian, by 30 September 1947.

FOR THE SUPREME COMMANDER:

R.S. HENRY
for A. S. Levy
Colonel, AGP
Adjutant General.

1 Encl
Copy of Receipt Form
(2 pages)
Received: 11 Sept 11.10 a.m.
Shukan :
Copy : 2. of 22, WFO, 74

裏
面
白
紙

野合國最高司令官總司令部

APO 五〇〇
昭和二十二年九月十日

AG 四四二一 CPC/FP

(SCAPIN 四四八六一A)

日本政府宛覚書

終運經由

東京第一国立病院の手持ラヂウムに関する件

一 参照事項

C.L.O 文書第六四九号(RP) 昭和二十二年八月十五日「香港国立病院より移管されたラヂウムに関する件」

ニ 日本政府に対し、東京都新宿区戸山町一番地の東京国立第一病院にあるラヂウムの現在量及種類を檢定し、調査記述することと要求する

三 右記檢定は、東京文理科大学教授 三輪光雄(音讀)の手により之を行ふこと。

四 檢定終了後右ラヂウムは日本銀行貯蔵庫監理官に引渡さるること

五 日本政府は各冊毎にとけた六部の受領書を用意すること
受領書は次の様に手交される。

- (i) 三部はラヂウムの移管の時日本銀行監理官へ。
- (ii) 二部は最高司令部の民間財産管理部へ。
- (iii) 一部は日本政府の控へに。
- 六 三輪教授の檢定報告及第四及五の手續完了されたことの報告を司令官の財産管理課へ、昭和二十二年九月三十日迄に提出すること。

司令官代理

高級副官部 高級副官

大佐 アーレン・エム・レニー 代理

テール・ジョー・ハーシー

生
183
9

KITAO

厚
生
部

SUBJECT: MEDICAL REQUISITION OF THE INJURED SOLDIERS FOR THE ALLIED POWERS.

FROM: Central Liaison Office, TOKYO.

TO: Justice Sec at Tokyo First Government Hospital, Tokyo.

S.S.S. No. 441(2)

13 October 1947

1. References:

a. S.S.S. Memorandum No. 441, (S.S.S. 441-1) (13 Sept 47) subject as above.

b. S.S.S. Memorandum No. 441(2) dated 15 August 1947, subject: "Medical Removal from Government Hospitals, Tokyo, Etc."

c. The Welfare Ministry reports that the subject radiogram transferred to the U.S. Army Custodian of the War of Japan on 9 October 1947. Two copies of the radiogram sent by the U.S. Army Custodian are submitted herewith, together with the report of Professor Kiva's findings on the subject matter.

FOR THE COMMANDER

(S. W. ...)
Chief of Liaison Section
Central Liaison Office.

Enclosures:

- 1. Two (2) copies of receipt of U.S. Army Custodian.
- 2. Report of Professor Kiva's finding.

裏
面
白
紙

20
10-29

11/19

第
一
号

GENERAL HEADQUARTERS OF THE ALLIED COMMANDER
FOR THE PACIFIC OCEAN

Central Liaison Office, Tokyo.

Subject: Sale of looted medicines.

Reference: SAC (RP)

17 October 1947

Reference:

a. U.S.A. Memorandum No. 345 (RP) dated 22 January 1947,
subject: "Custody, Shipment and Storage of Looted Pro-
perty."

b. SCAP Memorandum No 441 (1 Apr 47) (SCAPIN 304-
1), subject as above.

c. The Railways Ministry reports that the subject medicines re-
listed in the attached receipt were sold to TAKEDA KIGYO K.K.
through the Osaka Prefectural Office which had been taking
charge of their custody, and that \$30,000.00 derived from the
sale thereof was deposited in the Custody Account for the Cu-
stodian Commander for the Allied Powers on 12 October 1947.

d. A receipt of TAKEDA KIGYO K.K. indicating the accounts of the
above sale and the receipt of the bank of Japan for the deposite
d amount are enclosed herewith.

FOR THE PRESIDENT:

(S. Matsuno),
Chief of Liaison Section,
Central Liaison Office.

Enclosures: A receipt of TAKEDA KIGYO K.K.
and a receipt of the Bank of
Japan.

裏
面
白
紙

裏面白紙

聯合國最高司令官總司令部

東京終戦連絡中央事務局發

主 題 掠奪醫藥品の賣却の件

O、L、O 第八四六一 (R P)

昭和二十二年十月二十七日

一、参照

イ、昭和二十二年一月二十二日付 C L O 覺書第三四〇 (R P)

主 題 「掠奪財産の管理、船積及び貯蔵に關する件」

ロ、S O A P 覺書 A G 四四一 (二二、四、一) O P O / F R P (S O A

P I N 三五四〇一 A) 前記主題の件

- 二、厚生省の報告に依れば別紙受領書に示された醫藥品はその保管の任に當つてゐた大阪府廳に依つて武田工業株式會社に賣却されその賣却に依つて得た金額五拾八萬零千九百五拾圓九拾四錢 (この数字不鮮明) は昭和二十二年十月十五日聯合國軍最高司令官口座に預金した。
- 三、右賣却についての計算勘定を示す武田工業株式會社の受領書及び右預金額についての日本銀行の受領書を同封する。

終戦連絡中央事務局連絡課長

Y 6 カツノ



病第四五二号

昭和二十二年十月十七日

厚生省医務局病院課長

厚生大臣官房総務課長殿

連合軍人員に與えた処置、遺留品の処分

並びに検屍に関する記録提出の件

十月四日附法務部G-1号をもつて連合軍最

高司令部より提出方要求あつた築地海軍病

院及び築地病院における標記の記録に關し、元

海軍病院であつた国立東京病院に當該書類を

引継を受け保管してないか調査せしめたところ

全然引継を受けたこととはなく、従つて右に關す

る記録等は一切保管してない上日回答あつた

厚生省

かう御了知ありたい。

追て連合軍最高司令部の要求書中「築地

海軍病院」とあるは「海軍軍医學校」のことで

あるかう申し添える。

連合國軍最高司令部宛

東京終戦連絡中央事務局宛

掠奪コーヒー及コ、ア豆賣却の件

終連第九八一三（R）号 昭和二十二年十二月二十六日

一、関連文書

イ、昭和二十二年三月二十六日附終連覚書第二〇七二（R）号コ

イヒー及コ、ア豆放出請願の件

ロ、昭和二十二年四月十六日附終連覚書第二八三六号（R）号、

前項と同一の件

ハ、民間財産管理部覚書AG 函四三五号（一九四七年四月二十九日）

CPC / YP、（最高司令部IN 三七〇三ーイ）前項と同一の件

二、参照事項ハ覚書第四項に従つて首題物資の賣却による總收入

拾六万式千四百参円式拾銭は厚生省から連合國軍最高司令部保管

勘定に預金された。

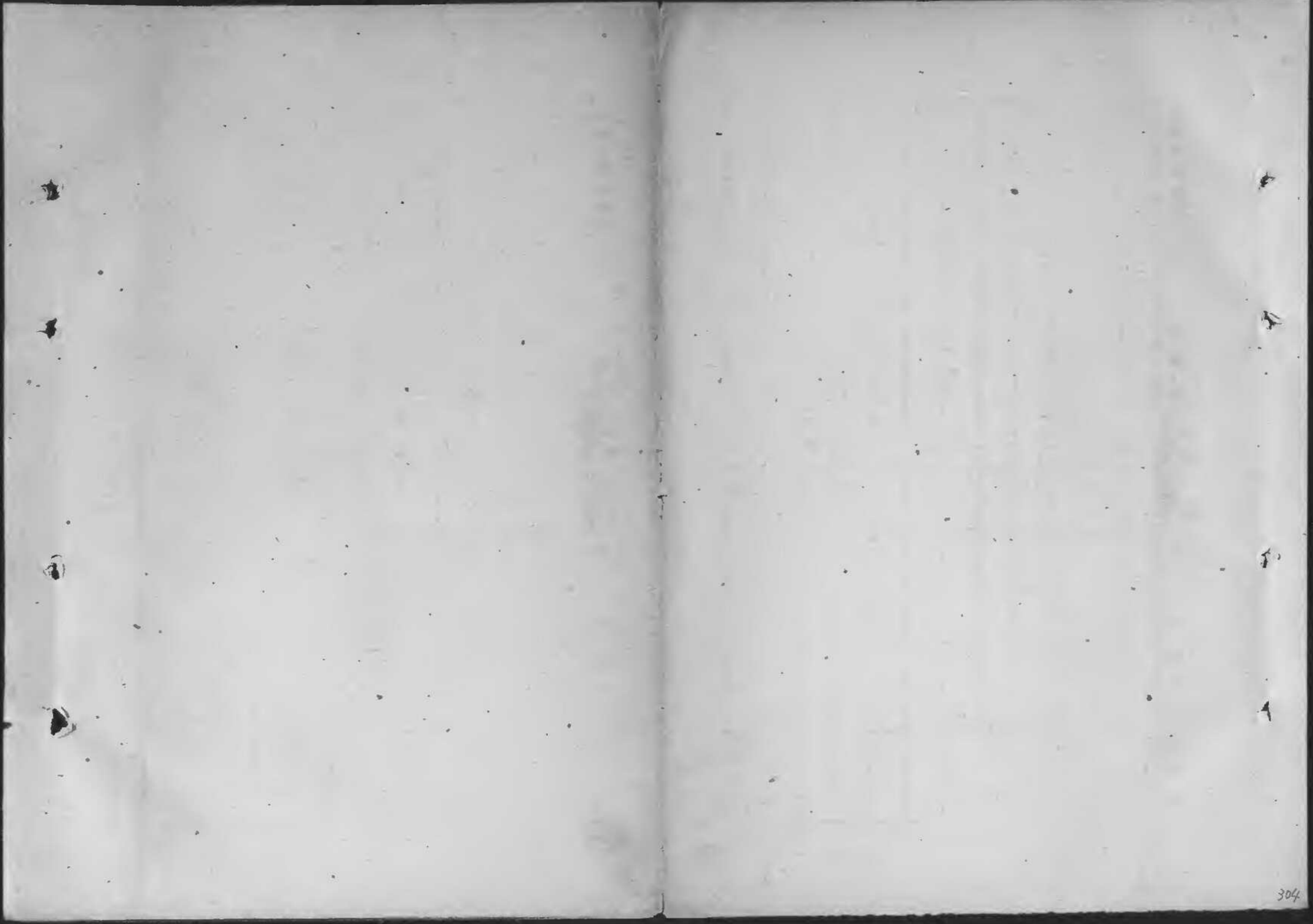
三、本事項に関する厚生省の報告の謄取の写は日本銀行の書類を添えて之に同封する。

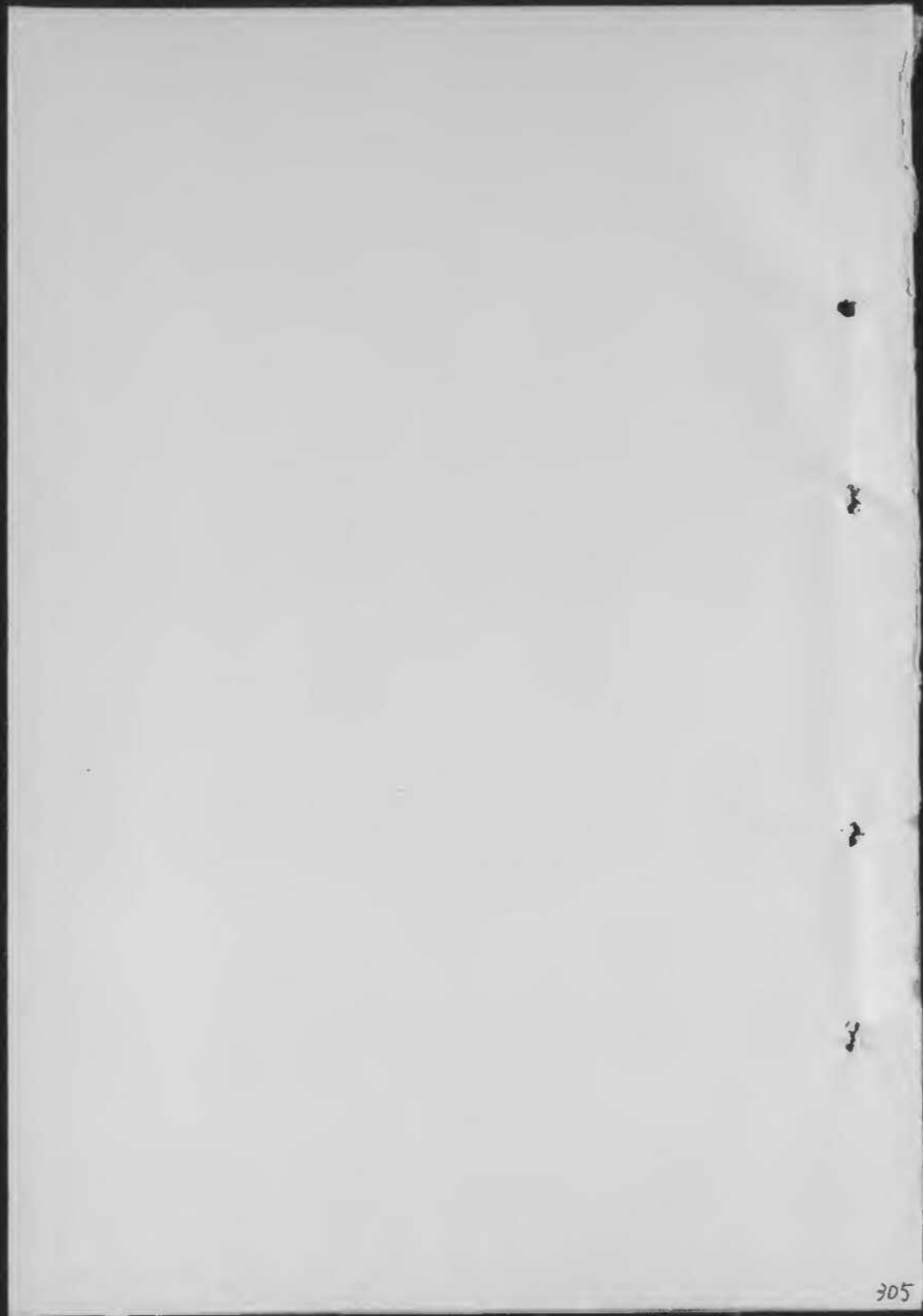
局長代理

終戦連絡中央事務局

連絡課長（Y 勝野）

同封物 厚生省からの英文報告の写（五部）





305

裏面白紙



306

